

第119号住居跡 (第45図)

H・I-36・37グリッドに位置する。第116・117・118号住居跡と重複する。第116・117号住居跡に切られる。第118号住居跡との切り合い関係は把握できなかったが、この住居跡のほうが新しい可能性がある。

規模は東西5.1m、南北5.1mで、ほぼ正方形を呈する。埋土はほぼ一層で、短期間に埋没した様相がうかがえる。確認面から床面までの深さは25cmである。主軸方向はN-61°-Eである。

炉は浅い皿状の掘り込みに粘土を貼り付けている。規模は38×32cm、掘り込みの深さは5cmである。

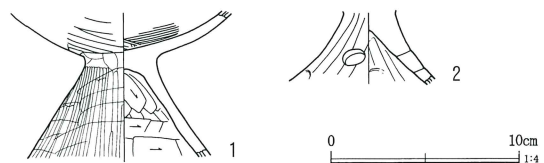
壁溝は北側にのみ、途切れて検出された。幅12~20cm、深さ3~7cmである。

ピットは5基、南隅近くに不規則に検出された。切り合う他の住居跡に伴う可能性もある。ピットの深さはP1から順に9cm、55cm、40cm、10cm、27cmである。

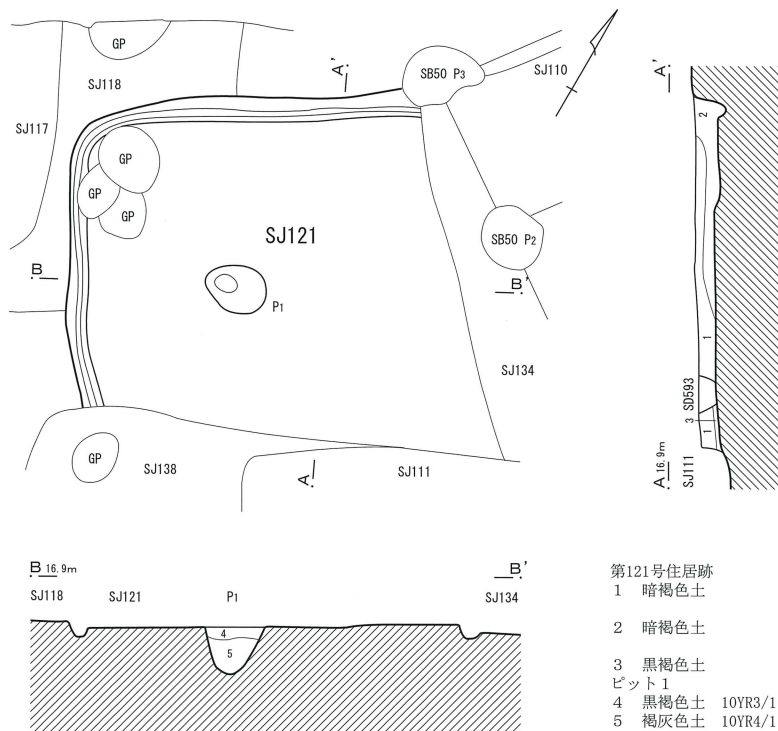
遺物は埋土から破片が多く出土し、図示できる遺物は少ない。土師器高坏がある。

本住居跡の時期は下田町II期である。

第120号住居跡 欠番



第46図 第119号住居跡出土遺物



- 第121号住居跡
- | | |
|----------------|--------------------------------------|
| 1 暗褐色土 | 黄褐色粘土ブロック (5~8mm) 多量 焼土・炭 (2~3mm) 多量 |
| 2 暗褐色土 | 黄褐色粘土ブロック (5~8mm) 少量 焼土・炭 (2~3mm) 少量 |
| 3 黒褐色土 | うすい炭化物層 |
| ピット 1 | |
| 4 黒褐色土 10YR3/1 | 黄褐色粘土ブロック (φ2~3mm) まばら |
| 5 褐灰色土 10YR4/1 | 黄褐色粘土ブロック (φ5~6mm) 多量 |

第47図 第121号住居跡

第121号住居跡 (第47図)

I-37グリッドに位置する。第111・118・134・138号住居跡、第50号掘立柱建物跡と重複する。住居跡の切り合い関係は、第111・134・138号住居跡よりも古く、第118号住居跡よりも新しい。

検出されたのは北西コーナー部のみで、その規模は東西3.2m、南北2.8mである。確認面から床面までの深さは18cmである。床面には部分的に薄い炭化物層が広がっていた。西壁を基準とした傾きはN-30°-Wである。

壁溝は検出されたすべての壁に巡っており、幅12~20cm、深さ4~7cmである。

ピットは1基検出された。深さは36cmである。位置的には柱穴と推定されるが、柱痕は確認されなかった。

出土遺物は少ない。すべて破片であり図示できる遺物はなかった。

本住居跡の正確な時期は不明であるが、切り合う住居跡との新旧関係から、古墳時代前期に属するものと推定される。

第122号住居跡 (第48・49図)

G・H-37・38グリッドに位置する。第106・115・125・158・159号住居跡、第320号井戸跡と重複する。住居跡の切り合い関係は、第106号住居跡よりも古く、第115・125・158号住居跡よりも新しい。第159号住居跡との関連は把握できなかった。

形状はほぼ正方形で、規模は東西5.9m、南北5.9mである。確認面から床面までの深さは23cmである。主軸方向はN-79°-Eである。

床面は全面硬くしまっており、カマドを境とした南半の直上には灰層の薄い堆積が認められる。

カマドは、東壁の南寄りに構築されている。煙道の長さ48cm、燃焼部の規模は85×48cmで、掘り込みはほとんど認められない。煙道は燃焼部の幅と同じ広さで続いている。検出された袖は小さく、地山を掘り残したものである。内壁は熱を受け赤化してい

る。カマド前の床面には、炭化物と灰の堆積が広がっていた。

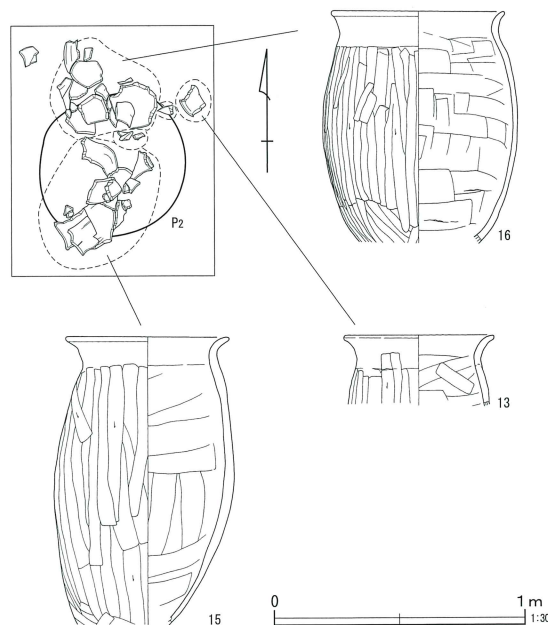
貯蔵穴は円形で段を持つバケツ状の掘り込みで、規模は96×85cm、深さは46cmである。

壁溝は幅10~22cm、深さ5~14cm、掘り込みは明瞭で、ほぼ全周している。

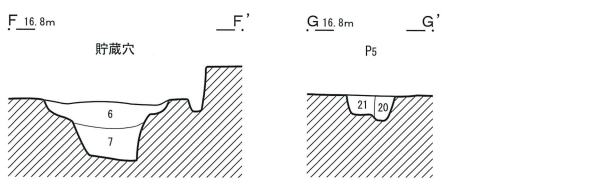
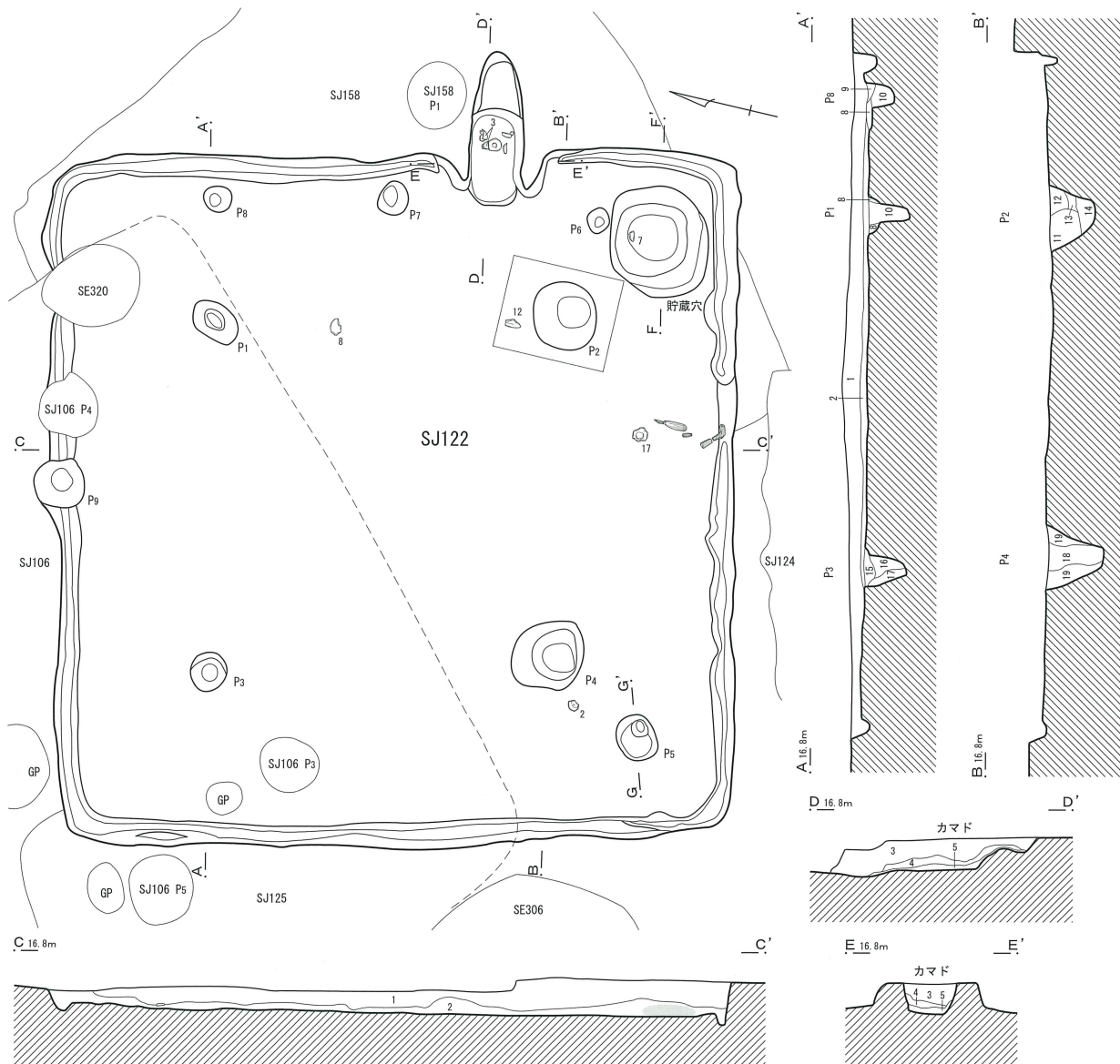
ピットは9基検出された。P1~4が主柱穴と考えられ、柱痕が確認されている。このほか、P5・7・8の埋土からも柱痕の存在が認められ、補助的な柱穴であったと考えられる。ピットの深さはP1から順に35cm、40cm、36cm、48cm、19cm、21cm、41cm、24cm、27cmである。

出土遺物は多く、接合率も高い。埋土上層から、新しい時期(7世紀末)の遺物(1・2)が集中して出土しており、この住居跡の上に当期の住居跡が存在していた可能性がある。本住居跡に伴う遺物は、土師器坏・埴・甕などのほか、紡錘車や鉄滓が出土している。

本住居跡の時期は下田町VI期と考えられる。



第48図 第122号住居跡P2遺物出土状況

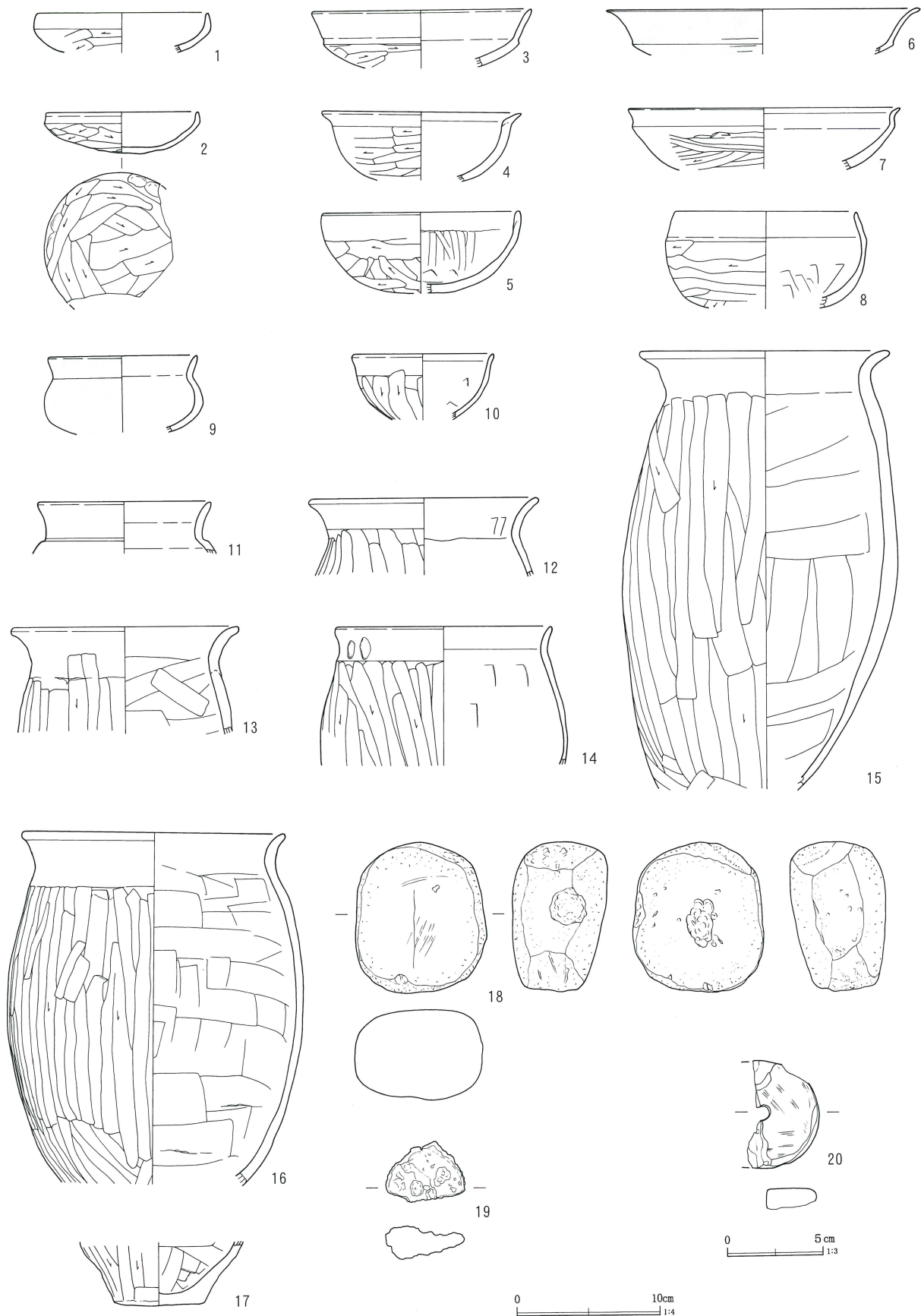


- 第122号住居跡
- 1 黒褐色土 10YR3/2 ロームブロック (φ10mm~50mm) 少量 しまりあり 粘性ややあり
 - 2 黒色土 10YR2/1 ロームブロック (φ10mm~30mm) 少量 住居の南半分に炭化物多量 しまりややあり 粘性あり
- カマド
- 3 黒褐色土 10YR3/2 焼土粒子 (φ1mm~5mm) 少量 しまりあり 粘性ややあり
 - 4 橙色土 5YR6/6 しまりややあり 粘性弱い 天井の崩落とみられる焼土ブロック主体
 - 5 黒色土 5YR1.7/1 しまり・粘性なし 灰層
- 貯藏穴
- 6 褐色土 10YR4/4 焼土粒子少量 炭化物 (φ2mm~7mm) 含む 下層の泥性の土 (黒褐色土10YR3/1) 多量 しまり・粘性あり
 - 7 黒褐色土 10YR3/1 ローム土 (φ5mm~20mm) 少量 しまりややあり 粘性強い

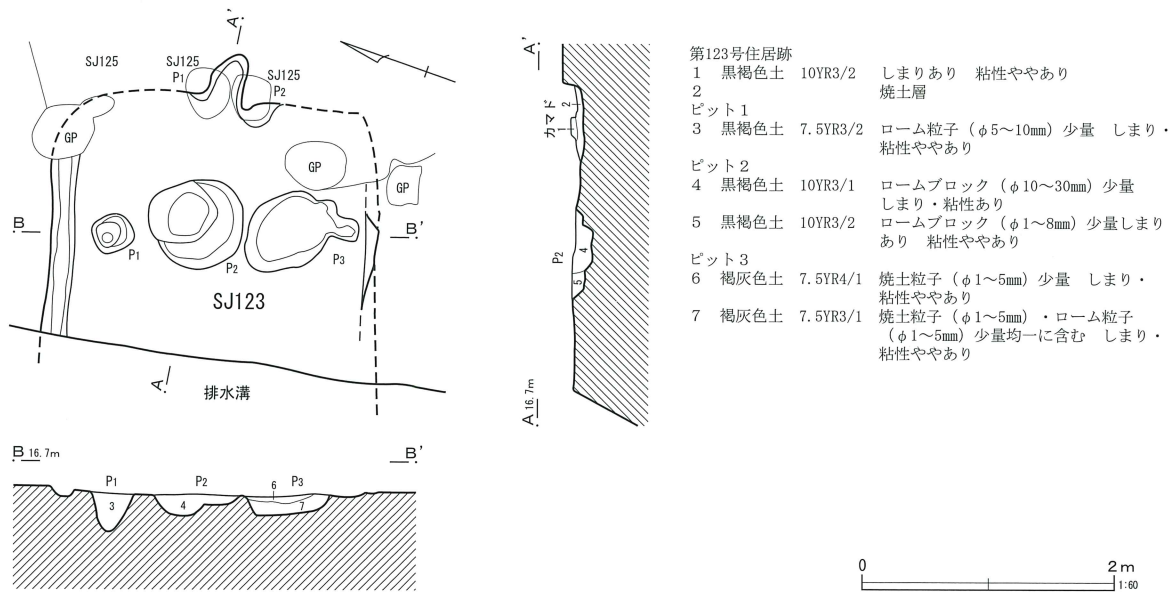
- ピット1・8
- 8 黒褐色土 10YR3/2 ロームブロック (φ10mm~40mm) 少量 しまりあり 粘性ややあり
- 9 黒褐色土 10YR3/2 ローム粒子 (φ1mm~30mm) 少量 しまりあり 粘性ややあり
- 10 黒色土 10YR2/1 しまりややあり 粘性あり (柱痕)
- ピット2
- 11 黒褐色土 10YR3/1 ローム土少量 しまり弱 粘性あり (柱痕)
- 12 黒褐色土 10YR3/1 ローム土・焼土粒子少量 しまりややあり 粘性あり
- 13 黒褐色土 10YR3/1 ローム土少量 しまりややあり 粘性あり
- 14 黒色土 10YR2/1 ローム土下面に多量 しまりなし 粘性強い
- ピット3
- 15 黒褐色土 10YR2/2 しまり・粘性あり
- 16 黒褐色土 10YR2/2 ローム土少量ブロック状に含む しまりややあり 粘性あり (柱痕)
- 17 明黄褐色土 10YR7/6 粘質土少量 しまりあり 粘性なし
- ピット4
- 18 黒褐色土 10YR3/1 ローム土及びブロックを均等に含む しまり弱い 粘性あり (柱痕)
- 19 黒褐色土 10YR3/1 ローム土及びブロック少量 しまりややあり 粘性あり
- ピット5
- 20 黒褐色土 10YR2/2 焼土粒子少量 炭化物含む しまり・粘性あり
- 21 黒褐色土 10YR2/2 ローム土ブロック状に含む しまりあり 粘性ややあり (柱痕)



第49図 第122号住居跡



第50図 第122号住居跡出土遺物



第51図 第123号住居跡

第123号住居跡 (第51図)

G-37・38グリッドに位置する。第125号住居跡を切って構築されている。西側は調査区域外にかかる。

方形を呈し、規模は南北2.5m、東西は2.1mを検出した。小型の住居跡である。埋土の残りは薄く、埋没状況は判断できない。確認面から床面までの深さは5cmである。主軸方向はN-75°-Eである。

床面近くまで削平されており、壁の立ち上がりは一部が確認されたに過ぎない。床面はしまりがなく、しっかりとしていない。

カマドは東壁のほぼ中央に設けられている。検出されたの燃焼部は55×38cmで、掘り込みは緩やかで浅く、深さは3cmほどである。焼土が周辺に多く含まれ、少し掘り下げると火床面らしき硬く焼きしまった層が検出された。袖は確認できなかった。

壁溝は北壁にのみ残っており、幅18~20cm、深さは浅く1~6cmである。

ピットは3基並んで検出されたが、その性格は不明である。ピットの深さはP1から順に30cm、16cm、16cmである。

埋土の残りが少ないため、出土遺物は少ない。土

師器高坏・甕類の破片が出土したが、図示に耐える遺物はなかった。

本住居跡の時期は古墳時代後期と推定される。

第124号住居跡 (第52図)

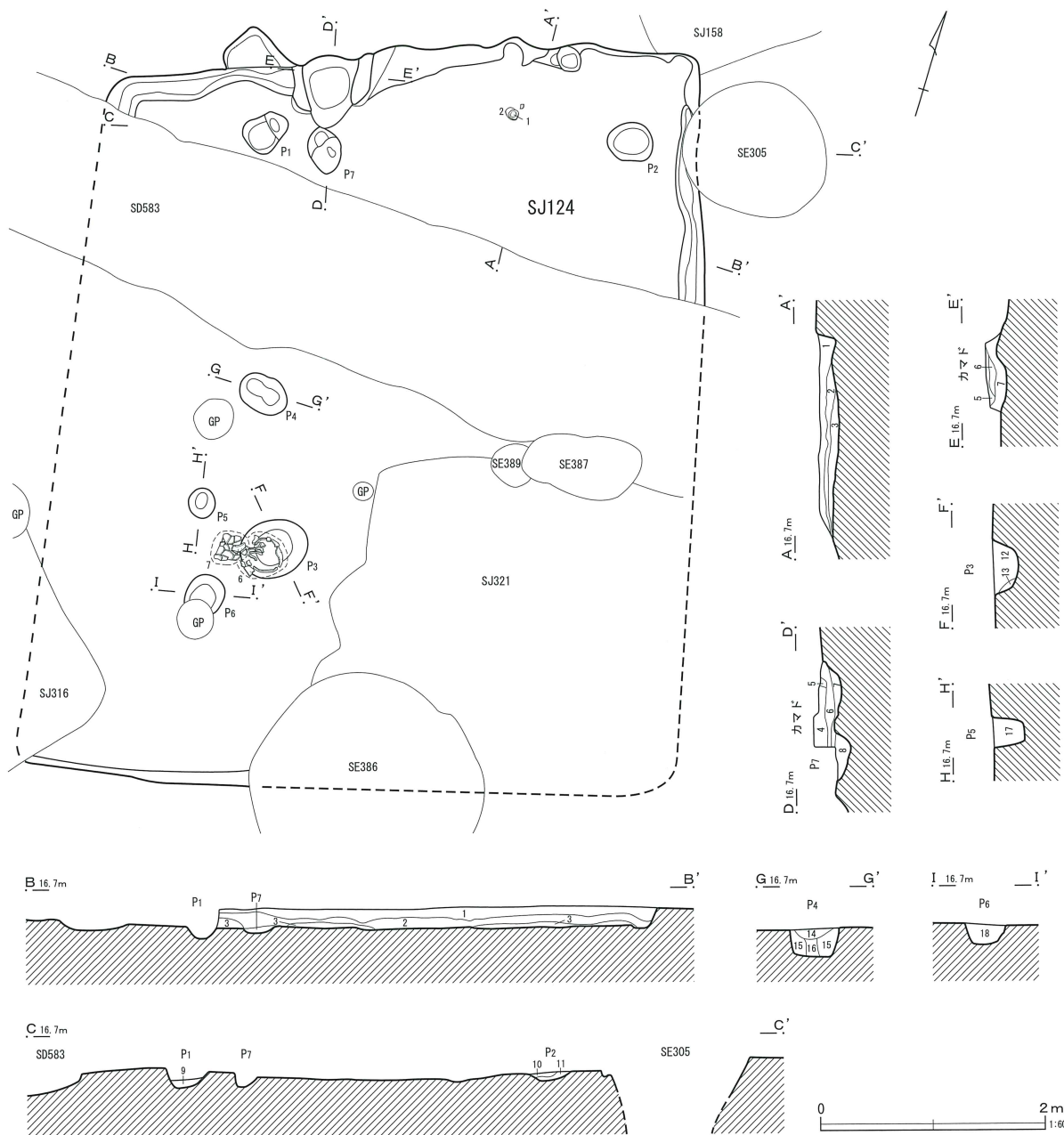
G・H-38グリッドに位置する。第158・316・321号住居跡、第583号溝跡、第305・386・387・389号井戸跡と重複する。住居跡の切り合い関係は、第158・316号住居跡よりも新しい。第321号住居跡との関係は把握できなかった。

形状は方形で、規模は東西5.5m、南北6.3mである。埋土は自然堆積であり、確認面から床面までの深さは18cmである。主軸方向はN-12°-Wである。

カマドは北壁西寄りに設けられている。煙道は失われており、検出された燃焼部は65×43cm、掘り方までの深さは15cmである。袖は基部の地山部分しか残っていなかった。

壁溝は北・東壁の一部に確認された。幅15~22cm、深さは2~4cmと浅い。

ピットは7基検出された。配列も不規則で、総じて浅く、その性格は不明である。ピットの深さはP



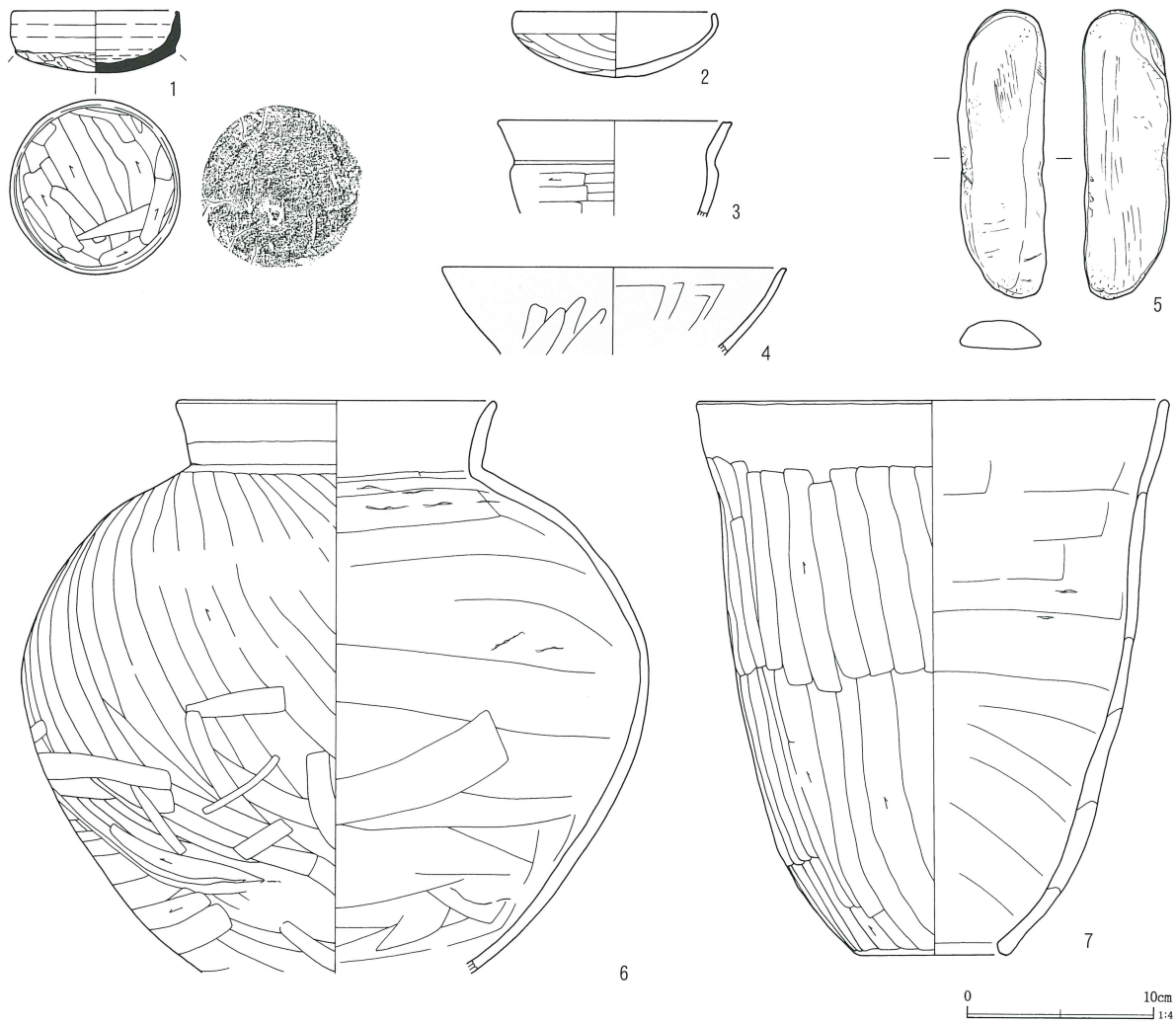
第124号住居跡

1	黒褐色土	10YR3/1	ロームブロック (φ10mm~20mm) 少量	しまり・粘性あり	ビット2	10	黒褐色土	10YR3/1	ロームブロック (φ5mm~10mm) 少量	炭化物含む
2	黒褐色土	10YR3/2	ロームブロック (φ10mm~50mm) 少量	しまり・粘性あり	ビット2	11	暗褐色土	10YR3/3	焼土粒子・炭化物含む	しまりあり 粘性ややあり
3	黒褐色土	10YR3/2	しまり・粘性ややあり		カマド	ビット3	12	黒褐色土	10YR3/2	ローム粒子 (φ1~3mm) 少量
4	黒褐色土	7.5YR3/1	焼土粒子 (φ1~8mm) 少量	しまりあり 粘性ややあり		ビット4	13	黒褐色土	10YR3/2	炭化物微量
5	褐灰色土	10YR4/1	焼土ブロック (φ10~20mm) ・灰少量	しまりややあり 粘性弱い		ビット5	14	黒褐色土	10YR3/2	12層中にロームやや多く含む
6	黒色土	N2/0	焼土ブロック (φ10~30mm) 少量	灰と焼土ブロック層 灰主体	しまり弱い 粘性なし	ビット6	15	黒褐色土	10YR3/1	ローム粒子 (φ1~5mm) ・ロームブロック多量
7	黒褐色土	7.5YR3/1	ローム粒子少量	焼土は含まない	しまりあり 粘性ややあり (カマド掘り方)	16	黒褐色土	10YR3/1	ローム粒子 (φ1~5mm) 少量	炭化物微量
8	黒褐色土	7.5YR3/1	ロームブロック (φ10~20mm) ・炭化物少量	焼土粒子含む 粘性の高い土を主体とする	しまりあり 粘性ややあり	17	黒褐色土	10YR3/2	ロームブロック多量	しまり・粘性あり
ビット1	9	黒褐色土	10YR3/1	ロームブロック (φ10mm~20mm) 少量	焼土粒子・炭化物含む	しまりあり 粘性なし	18	黒色土	10YR2/1	黄褐色土ブロック (φ1~10mm) 含む

第52図 第124号住居跡

1から順に15cm、8cm、22cm、25cm、27cm、17cm、4cmである。

出土遺物には土師器環・壺・甑などがある。
本住居跡の時期は下田町X期である。



第53図 第124号住居跡出土遺物

第125号住居跡 (第54図)

G-37・38、H-37グリッドに位置する。第106・122・123号住居跡、第306号井戸跡と重複する。切り合い関係は、第106・122号住居跡よりも古く、第123号住居跡よりも新しい。

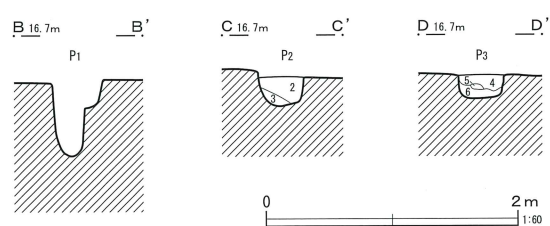
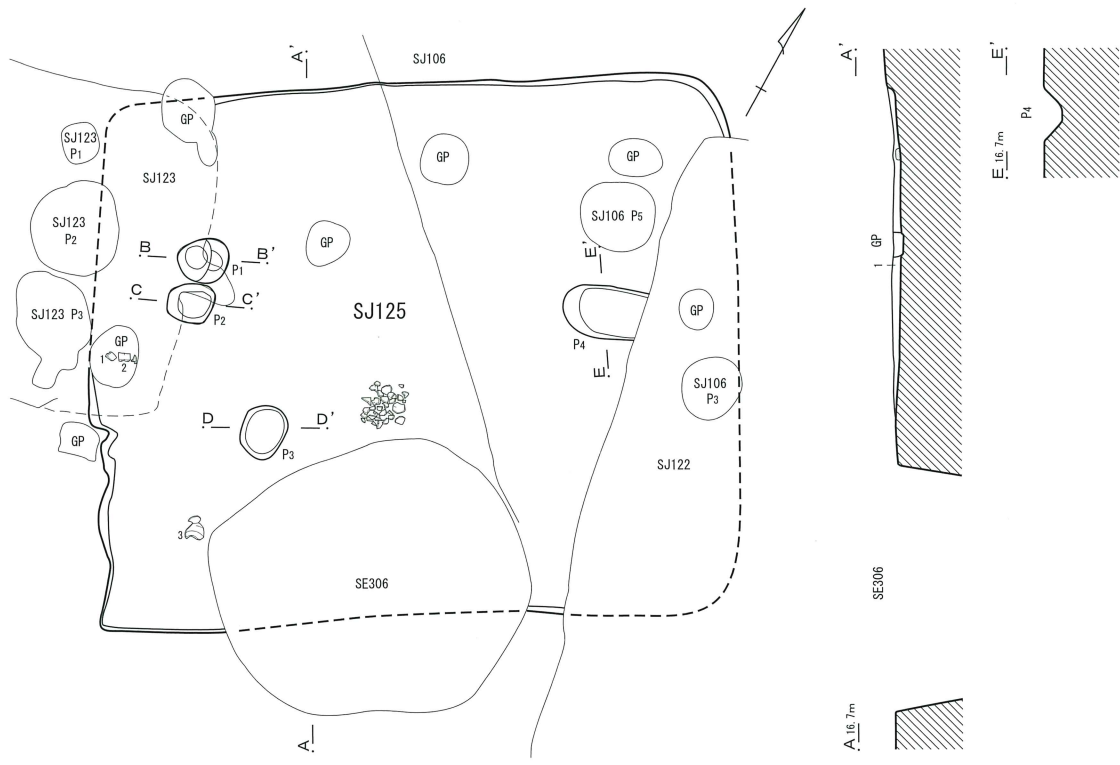
形状は方形で、規模は東西5.1m、南北4.2mである。埋土の残りは浅く、確認面から床面までの深さは6cmである。西壁を基準とした傾きはN-29°-Wである。

カマドなどの施設は検出されていない。ピットは

4基検出されたが、柱痕は認められず、その性格は不明である。ピットの深さはP1から順に58cm、25cm、20cm、14cmである。

出土遺物の量は、埋土が浅い割には多く、床直から接合率の高い遺物が出土した。土師器環・甕がある。

本住居跡の時期は下田町VI期である。



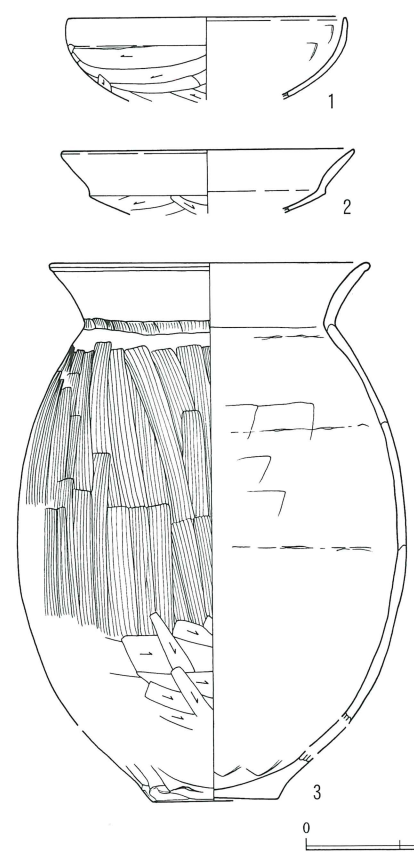
- 第125号住居跡
- | | | | | |
|---|--------------|---------------------|---------|------|
| 1 | 暗褐色土 10YR3/3 | ローム土多量 | しまりあり | 粘性なし |
| 2 | 褐色土 7.5YR4/6 | ロームブロック (φ1~15mm) | ・焼土粒子少量 | |
| 3 | 黒褐色土 10YR2/3 | ロームブロック (φ1~50mm横長) | 多量 | 粘性あり |
| 4 | 褐色土 10YR4/6 | ロームブロック微量 | | |
| 5 | 暗褐色土 10YR3/4 | ロームブロック (φ1~20mm) | 多量 | |
| 6 | 暗褐色土 10YR3/4 | ロームブロック (φ1~5mm) | 微量 | |

第54図 第125号住居跡

第126号住居跡 (第56図)

I-35グリッドに位置する。第197・240号住居跡、第585号溝跡、第335・340・354号井戸跡、第571号土坑と重複する。切り合い関係は第240号住居跡より古く、第197号住居跡との関連は不明である。溝跡や大きな井戸跡に切られており、遺存状態は悪い。

形状は方形と考えられ、規模は東南-西北4.5m、南西-北東4.1mである。確認面から床面までの深さは38cmである。南東壁を基準にした傾きはN-37-Eである。



第55図 第125号住居跡出土遺物

壁溝は検出された壁すべてに巡っている。幅15～45cm、深さ3～7cmである。

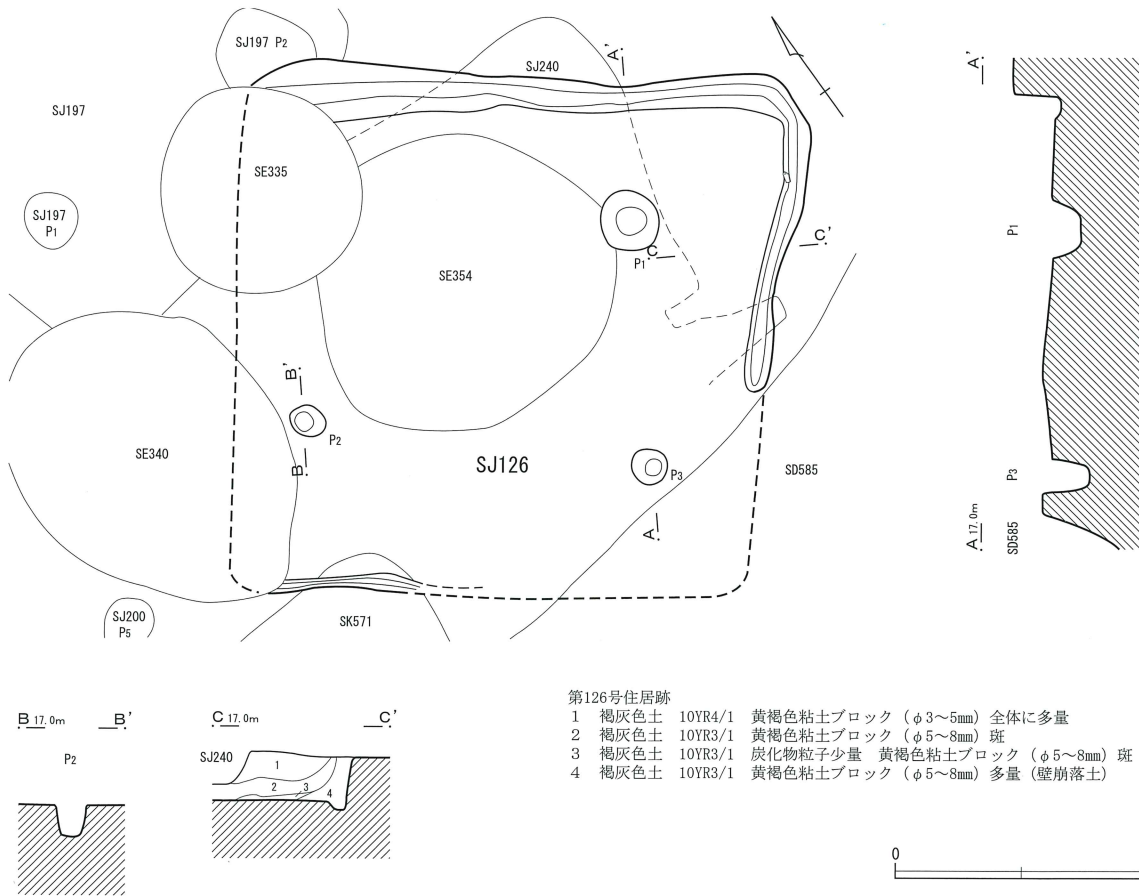
ピットは3基検出された。位置的には柱穴とみなしても矛盾しないが、柱痕は観察できなかった。ピットの深さはP1から順に22cm、25cm、28cmである。

出土遺物は破片が多く、図示できた遺物は少ない。土師器杯・高杯、砥石がある。

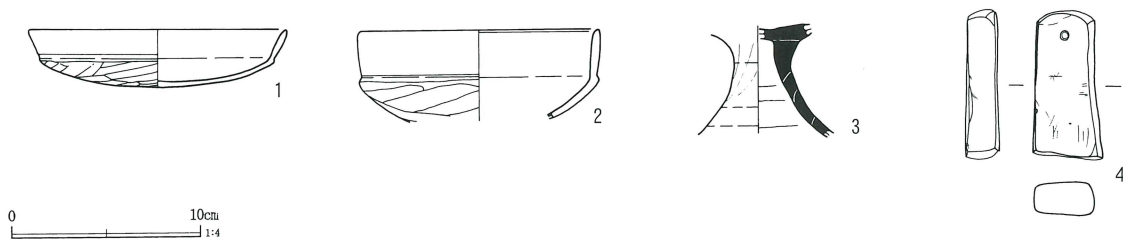
本住居跡の時期は下田町V期である。

第127号住居跡 (第58・59図)

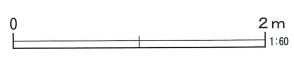
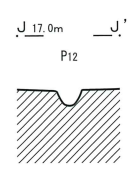
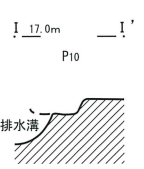
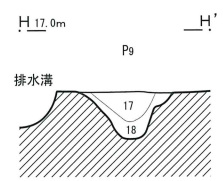
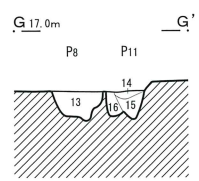
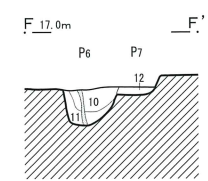
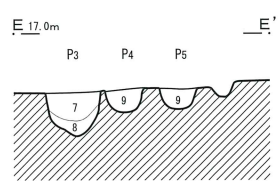
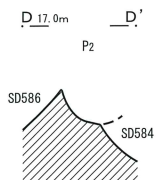
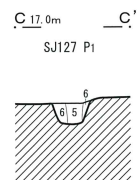
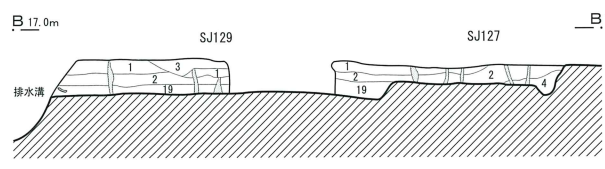
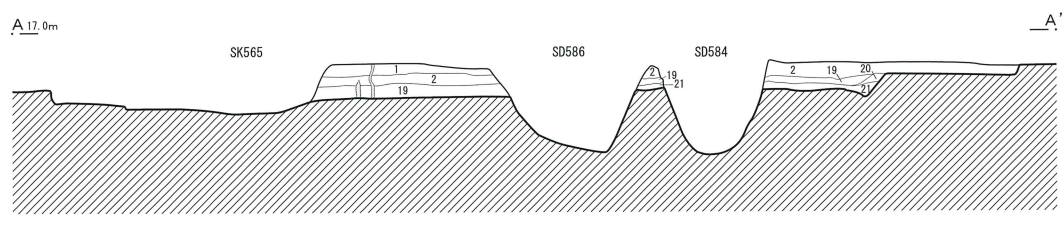
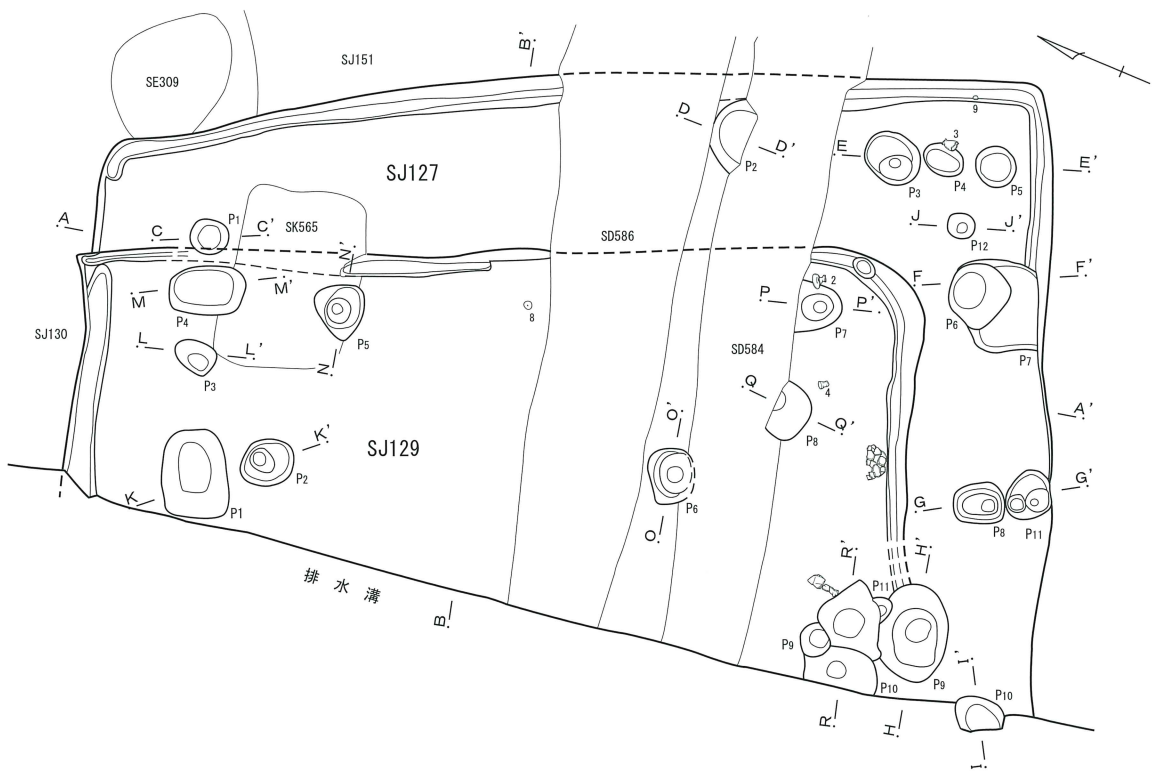
G-36・37グリッドに位置する。第129・130・151号住居跡、第584・586号溝跡、第565号土坑、第309号井戸跡と重複する。切り合う住居跡のなかではもっとも新しい。西半は調査区域外にかかる。



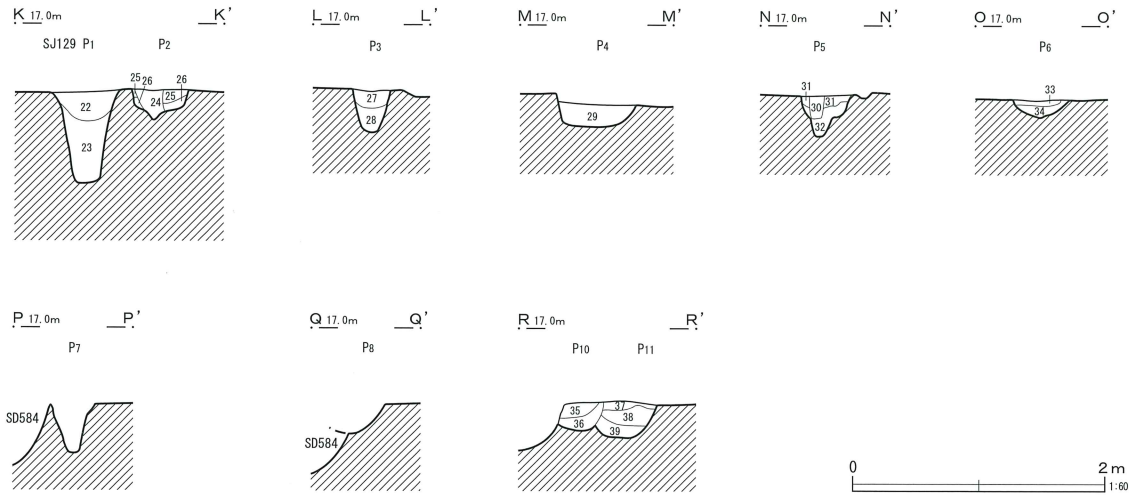
第56図 第126号住居跡



第57図 第126号住居跡出土遺物



第58图 第127・129号住居跡 (I)



第127号住居跡

1 黒褐色土	10YR2/3	焼土粒子 (φ1~2mm) 少量 黄褐色土粒子・炭化物粒子含む
2 黒褐色土	10YR3/1	黄褐色土粒子 (φ1~2mm) 微量 炭化物粒子 (φ2~3mm) 少量
3 灰色土	N4/0	焼土ブロック (φ3~20mm) 多量 炭化物粒子 (φ1~2mm) 少量 黄褐色土粒子 (φ1~2mm) 含む
4 にぶい黄褐色土	10YR4/3	黄褐色土ブロック (φ3~10mm) 多量 黄褐色土粒子 (φ1~2mm) 含む (地山崩落土)
ビット1		
5 黒褐色土	2.5Y3/1	黄褐色土粒子 (φ1~2mm) 少量 (柱痕)
6 黒褐色土	10YR3/1	黄褐色土粒子 (φ1~2mm) ・黄褐色土ブロック (φ3~10mm) 多量
ビット3		
7 黒褐色土	10YR3/2	炭化物粒子 (φ1~5mm) 少量 黄褐色土粒子 (φ1~2mm) ・黄褐色土ブロック (φ3~10mm) 含む
8 褐色粘質土	10YR4/1	黄褐色土粒子 (φ1~2mm) ・黄褐色土ブロック (φ3~10mm) 多量
ビット4・5		
9 黒褐色土	10YR3/1	黄褐色土粒子 (φ1~2mm) ・黄褐色土ブロック (φ3~20mm) 多量
ビット6		
10 黒褐色土	7.5YR3/1	黄褐色土粒子 (φ1~2mm) ・黄褐色土ブロック (φ3~20mm) 多量 焼土粒子 炭化物粒子 (φ1~3mm) 少量
11 にぶい黄褐色土	10YR4/3	黄褐色土ブロック (φ3~20mm) 多量
ビット7		
12 暗褐色土	10YR3/3	黄褐色土ブロック (φ3~30mm) 多量
ビット8		
13 黒褐色土	10YR3/1	焼土粒子 (φ1~3mm) 少量 黄褐色土粒子 (φ1~2mm) 含む
ビット11		
14 暗褐色土	10YR3/3	黄褐色土粒子 (φ1~2mm) 少量
15 黒褐色土	10YR3/1	黄褐色土粒子 (φ1~2mm) ・黄褐色土ブロック (φ3~10mm) 多量
16 にぶい黄褐色土	10YR4/3	黄褐色土粒子 (φ1~2mm) 多量 炭化物粒子 (φ1~2mm) 少量
ビット9		
17 黒褐色土	10YR3/2	焼土粒子 (φ1~3mm) 少量 黄褐色土粒子 (φ1~2mm) ・黄褐色土ブロック (φ3~10mm) 含む
18 褐色粘質土	10YR4/1	黄褐色土粒子 (φ1~2mm) ・黄褐色土ブロック (φ3~5mm) 少量

第129号住居跡

19 灰黄褐色土	10YR4/2	黄褐色土ブロック (φ3~30mm) 多量 炭化物粒子 (φ2~3mm) 少量 黄褐色土粒子 (φ1~2mm) 含む
20 にぶい黄褐色土	10YR4/3	ロームブロック主体 三角堆積とみられる
21 黒褐色土	10YR3/2	ローム粒子 (φ1~5mm) ・炭化物粒子 (φ1~3mm) 少量 床面にうすく炭化物層がのる
ビット1		
22 灰黄褐色土	10YR4/2	黄褐色土粒子 (φ1~2mm) ・黄褐色土ブロック (φ3~10mm) 多量
23 褐色粘質土	10YR4/1	炭化物粒子 (φ1~2mm) 少量 黄褐色土粒子 (φ1~2mm) 含む
ビット2		
24 黒褐色土	7.5YR3/1	焼土粒子 (φ1~2mm) 少量 黄褐色土粒子 (φ1~2mm) 含む (柱痕)
25 黒褐色土	2.5Y3/1	黄褐色土粒子 (φ1~2mm) 微量
26 にぶい黄褐色土	10YR4/3	黄褐色土粒子 (φ1~2mm) ・黄褐色土ブロック (φ3~10mm) 多量
ビット3		
27 暗褐色土	10YR3/3	黄褐色土粒子 (φ1~2mm) 多量
28 にぶい黄褐色土	10YR4/3	黄褐色土粒子 (φ1~2mm) ・黄褐色土ブロック (φ3~20mm) 多量
ビット4		
29 灰黄褐色土	10YR4/2	黄褐色土粒子 (φ1~2mm) ・黄褐色土ブロック (φ3~30mm) 多量 底面に厚さ約3mmの炭化物層
ビット5		
30 黒褐色土	10YR3/2	黄褐色土粒子 (φ1~2mm) 少量 焼土粒子・炭化物粒子 (φ1~2mm) 微量 (柱痕)
31 暗褐色土	10YR3/3	黄褐色土粒子 (φ1~2mm) ・黄褐色土ブロック (φ3~5mm) 多量
32 黒褐色土	10YR3/1	炭化物粒子 (φ2~3mm) 少量 黄褐色土粒子 (φ1~2mm) 含む
ビット6		
33 にぶい黄褐色土	10YR4/3	黄褐色土粒子 (φ1~2mm) 少量
34 黒褐色土	10YR3/1	黄褐色土粒子 (φ1~2mm) ・黄褐色土ブロック (φ3~5mm) 少量
ビット10		
35 黒色土	10YR2/1	炭化物粒子 (φ1~2mm) 少量 黄褐色土粒子 (φ1~2mm) ・黄褐色土ブロック (φ3~5mm) 含む
36 黒褐色土	10YR3/1	黄褐色土粒子 (φ1~2mm) ・黄褐色土ブロック (φ3~5mm) 微量
ビット11		
37 黒褐色土	10YR3/1	焼土粒子 (φ1~3mm) ・炭化物粒子多量 黄褐色土粒子 (φ1~2mm) ・黄褐色土ブロック (φ3~5mm) 含む
38 黒色粘質土	10YR2/1	炭化物粒子 (φ2~5mm) 多量 黄褐色土粒子 (φ1~2mm) 少量 焼土ブロック (φ3~20mm) 含む
39 灰黄褐色土	10YR4/2	黄褐色土粒子 (φ1~2mm) ・黄褐色土ブロック (φ3~10mm) 多量

第59図 第127・129号住居跡 (2)

形状は方形で、規模は南北7.6m、東西は5.0mまで検出した。確認面から床面までの深さは14cmである。東壁を基準とした傾きはN-26°-Wである。

壁溝は北壁を巡り、幅14~22cm、深さ6~8cm、掘り込みはあまり明瞭でない。

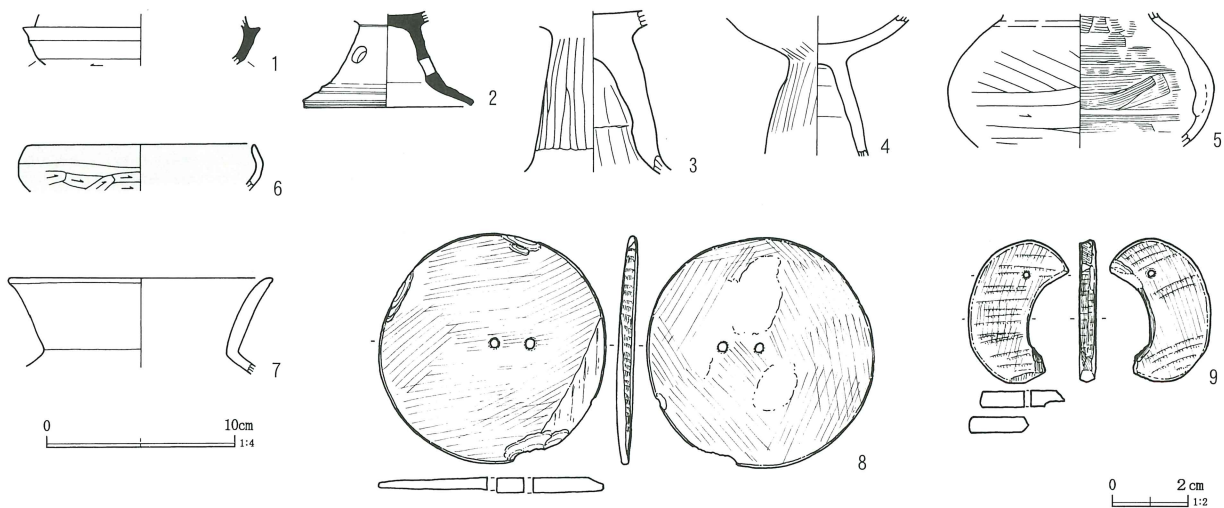
この住居跡に伴うと考えられるピットは12基である。柱痕が認められるピット(P1)もあるが、そのほとんどの機能は不明である。ピットの深さはP1から順に16cm、28cm、35cm、18cm、16cm、28cm、6cm、23cm、36cm、12cm、22cm、12cmである。

なお、第129号住居跡内で確認されたピットは、ど

ちらの住居跡に伴うものか調査時には判断できなかったため、便宜的に第129号住居跡のピットとして報告している。したがって、これらのなかにも本住居跡に帰属するピットが存在する可能性がある。位置的には、第129号住居跡P5・7は本住居跡の柱穴としても矛盾はない。

確実に本住居跡に伴うと考えられる遺物は、土師器高坏(第60図3)、勾玉形石製模造品(同図9)である。埋土出土の遺物は切り合う第129号住居跡と混在する。

本住居跡の時期は下田町VI期である。



第60図 第127・129号住居跡出土遺物

第128号住居跡(第61図)

G-37グリッドに位置する。カマドの痕跡のみが検出された住居跡である。第144号住居跡の埋土上に構築されている。本体は大半が第106号住居跡に切られているものと思われる。

カマドは燃焼部の痕跡と推定され、正確な形状や規模は不明である。断面には天井部の崩落土や火床面が確認されている。

遺物は集中的に出土し、接合率は良好である。土師器高坏・坩・甕がある。

本住居跡の時期は下田町IV期である。

第129号住居跡(第58・59図)

G-36グリッドに位置する。第127・130号住居跡、第584・586号溝跡、第565号土坑と重複する。切り合い関係は第127号住居跡よりも古く、第130号住居跡よりも新しい。第127号住居跡の内側に入れ子状に検出され、西半は調査区域外にかかる。

形状は方形で、規模は南北6.7m、東西は3.5mまで検出した。確認面(第127号住居跡床面)から床面までの深さは10cmである。東壁を基準とした傾きはN-23°-Wである。

床面はしっかりとしており、薄い炭化物の堆積が認められた。

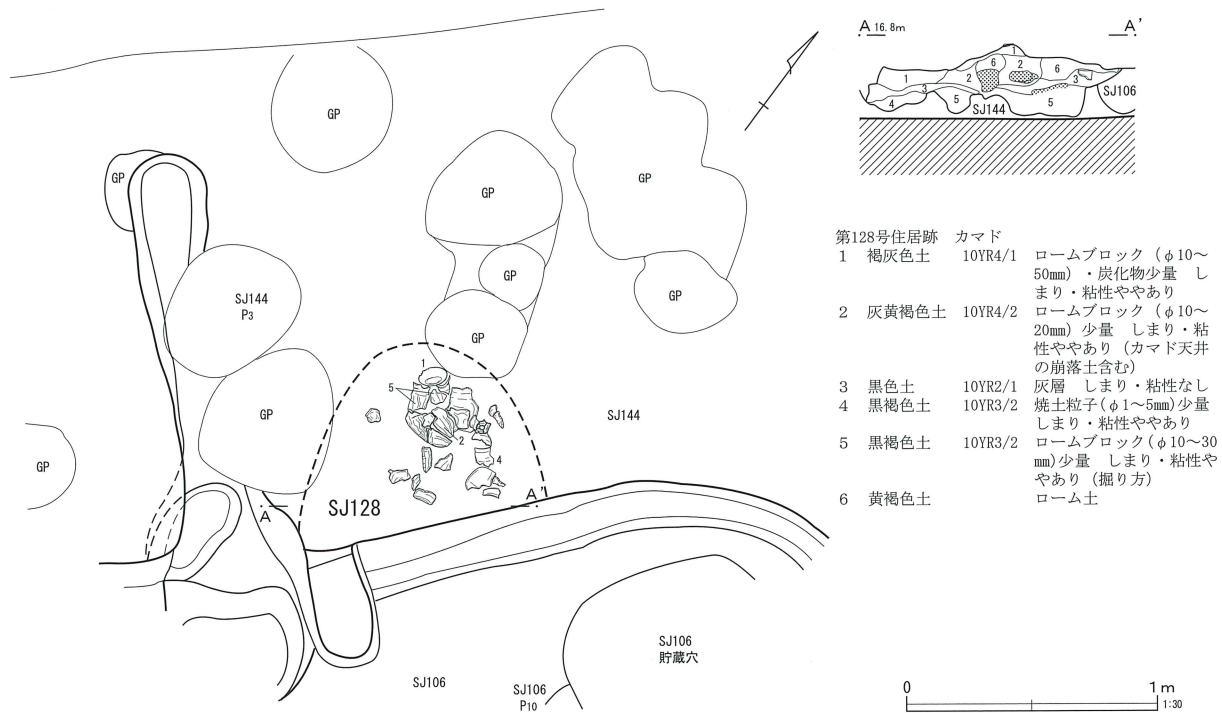
壁溝はとぎれがちに検出され、幅8~24cm、深さ

2～13cmである。

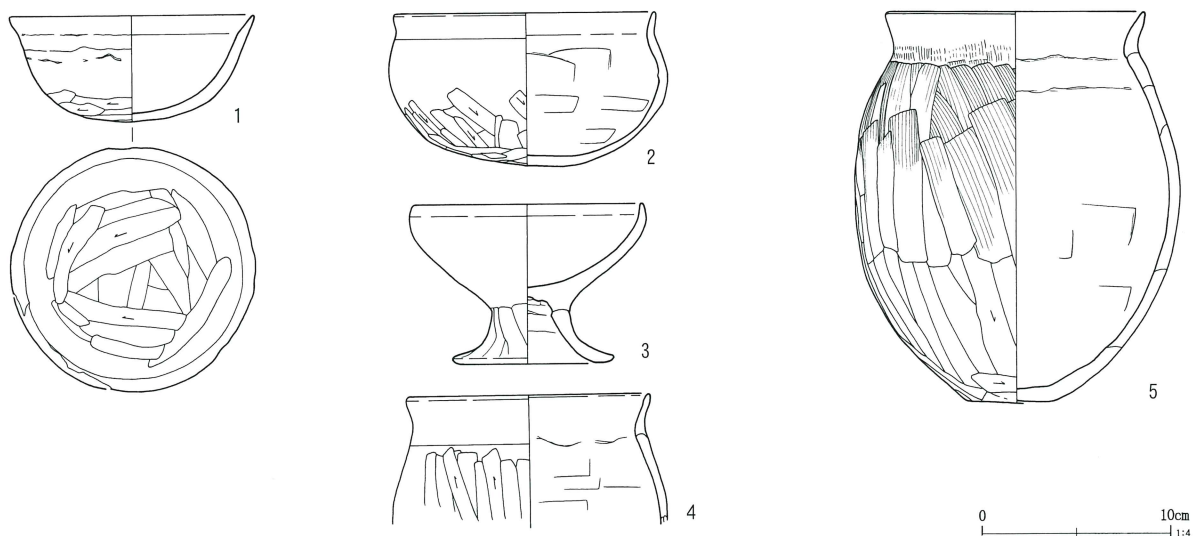
ピットは11基検出された。P2・P6が支柱穴の位置にあるが、P2には柱痕が認められるものの、P6は掘り込みも浅く、柱穴と断定するのは躊躇せざるを得ない。ピットの深さはP1から順に72cm、25cm、32cm、17cm、32cm、12cm、38cm、24cm、22cm、22cm、30cmである。

確実に本住居跡に伴うと考えられる遺物は、須恵器高坏（第60図2）、土師器高坏（同図4）、有孔円板（同図8）である。埋土出土の遺物は切り合う第127号住居跡と混在する。

本住居跡の時期は下田町VI期である。



第61図 第128号住居跡



第62図 第128号住居跡出土遺物

第130号住居跡 (第64図)

G-35・36グリッドに位置する。第127・129・131・151・152号住居跡、第585号溝跡、第309号井戸跡と重複する。住居跡の切り合い関係は、第127・129・131号住居跡よりも古く、他の住居跡との関連は把握できなかった。

形状は方形で、西側は調査区域外にかかる。規模は南東-北西5.5m、検出された東北-西南は4.4mである。確認面から床面までの深さは25cmである。主軸方向はN-29°-Wである。

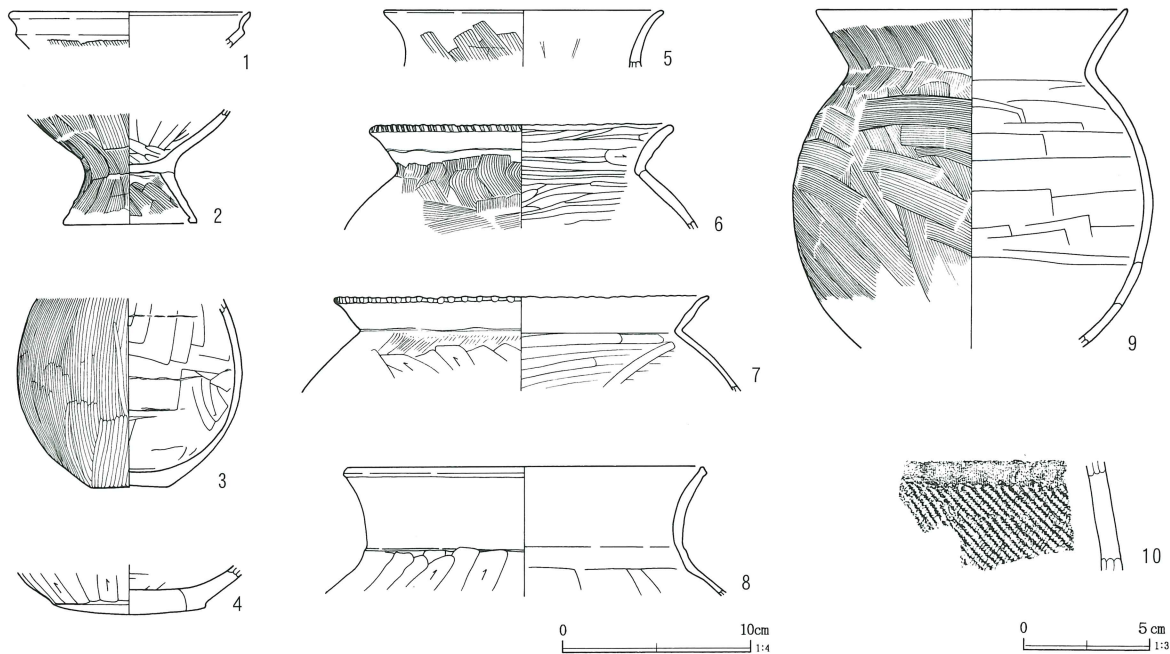
床面は明瞭で、直上には厚さ約2mmの炭化物層が堆積していた。

炉は中央やや北寄りに設けられている。掘り込みはほとんどなく、床面が火床面となっている。被熱範囲は60×55cmである。

壁溝は北西壁と東隅に検出され、全周はしていない。幅12~22cm、深さ5~10cmである。

ピットは9基検出された。位置関係や深さから、P1・8が支柱穴と考えられるが、柱痕は確認されなかった。ピットの深さはP1から順に44cm、38cm、20cm、11cm、7cm、12cm、22cm、36cm、8cmである。

出土遺物は土師器台付甕・小形甕などがある。本住居跡の時期は下田町I期である。



第63図 第130号住居跡出土遺物

第131号住居跡 (第65図)

G-35グリッドに位置する。第130・152・164・179号住居跡、第585号溝跡と重複する。切り合う住居跡のなかではもっとも新しい住居跡である。中央部を第585号溝跡に大きく切られている。

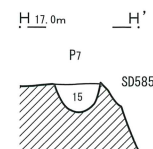
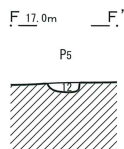
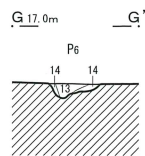
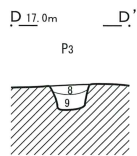
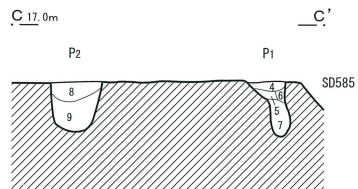
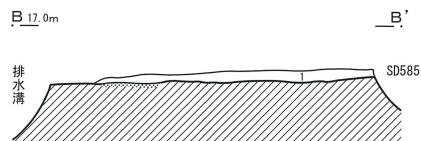
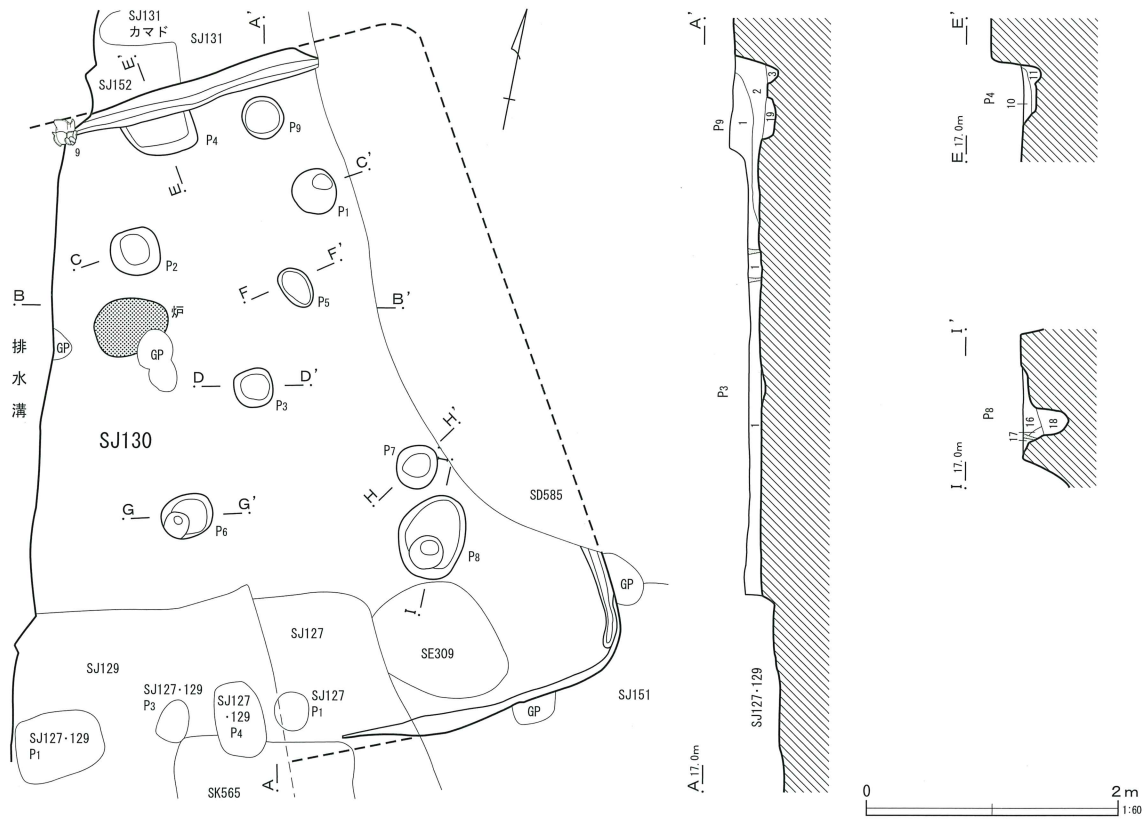
形状は方形を呈し、規模は推定で、東西4.7m、南北4.0mである。確認面から床面の深さは10cmである。主軸方向はN-63°-Eである。

カマドは西壁の南コーナー近くに設けられてい

る。検出されたのは煙道のみで、燃烧部の掘り込みはない。袖も検出されなかった。煙道の長さは60cmである。壁や床面はあまり焼けておらず、埋土下層に灰が若干含まれていた。

壁溝は途切れて検出され、幅15~24cm、深さは5~8cmである。

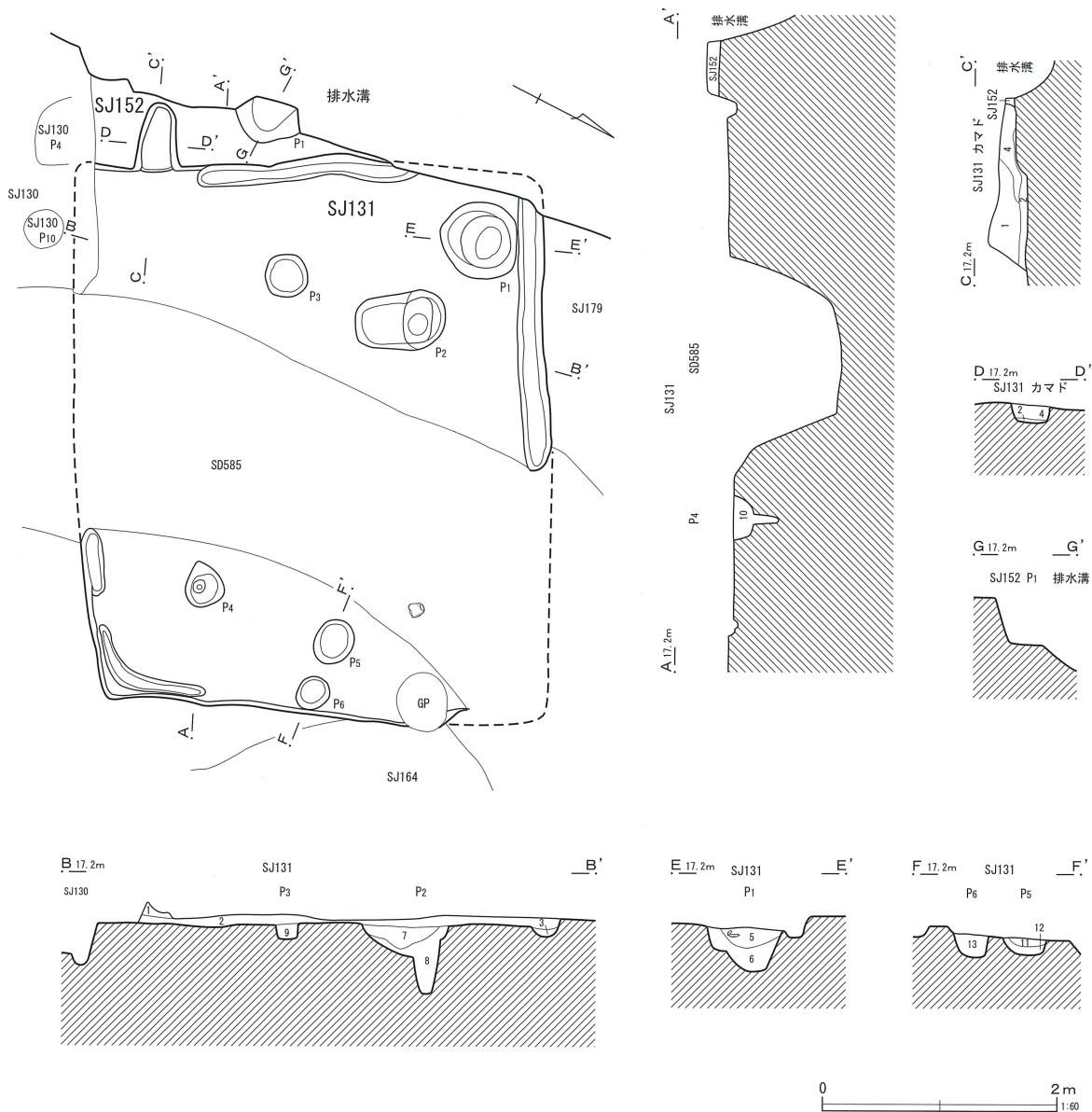
ピットは6基検出された。P1はその規模や位置から、貯蔵穴である可能性もある。そのほかのピットの性格は不明である。ピットの深さはP1から順に



第130号住居跡

- | | |
|------------|--|
| 1 暗褐色土 | 10YR3/4 炭化物粒子 (φ1~3mm) 多量 黄褐色土粒子 (φ1~2mm)・黄褐色土ブロック (φ3~30mm) 含む |
| 2 黒色土 | 10YR3/2 黄褐色土ブロック (φ5~20mm) 多量 (地山崩落土) |
| 3 褐色土 | 10YR4/6 黄褐色土ブロック (φ3~5mm) 多量 黄褐色土粒子 (φ1~2mm) 含む |
| ピット1 | |
| 4 暗褐色土 | 10YR3/4 炭化物粒子 (φ1~2mm) 少量 黄褐色土粒子 (φ1~2mm) 含む |
| 5 灰黄褐色土 | 10YR4/2 黄褐色土粒子 (φ1~2mm) 多量 炭化物粒子 (φ1~2mm) 少量 |
| 6 明黄褐色土 | 2.5Y7/6 黄褐色土主体 (地山崩落土) |
| 7 褐色土 | 10YR4/1 黄褐色土粒子 (φ1~2mm)・黄褐色土ブロック (φ3~5mm) 多量 |
| ピット2・3 | |
| 8 黒褐色土 | 10YR3/2 焼土粒子 (φ1~2mm)・炭化物粒子少量 黄褐色土粒子 (φ1~2mm) 含む |
| 9 黒色土 | 10YR2/1 黄褐色土粒子 (φ1~2mm)・黄褐色土ブロック (φ3~5mm) 微量 |
| ピット4 | |
| 10 黒褐色土 | 10YR3/1 黄褐色土粒子 (φ1~2mm) 少量 |
| 11 黄褐色土 | 2.5Y5/3 黄褐色土粒子 (φ1~2mm)・黄褐色土ブロック (φ3~10mm) 多量 |
| ピット5 | |
| 12 黒褐色土 | 10YR3/1 炭化物粒子 (φ2~3mm) 多量 黄褐色土粒子 (φ1~2mm) 少量 |
| ピット6 | |
| 13 黒褐色土 | 10YR3/1 焼土粒子 (φ1~2mm) 少量 黄褐色土粒子 (φ1~2mm) 含む |
| 14 灰黄褐色土 | 10YR4/2 黄褐色土粒子 (φ1~2mm)・黄褐色土ブロック (φ3~10mm) 多量 |
| ピット7 | |
| 15 黒褐色土 | 10YR3/2 黄褐色土粒子 (φ1~2mm)・黄褐色土ブロック (φ3~20mm) 多量 焼土粒子・炭化物粒子 (φ1~2mm) 少量 |
| ピット8 | |
| 16 黒褐色土 | 10YR3/2 黄褐色土粒子 (φ1~2mm)・黄褐色土ブロック (φ3~5mm) 多量 |
| 17 にぶい黄褐色土 | 10YR4/2 黄褐色土ブロック主体 |
| 18 褐色土 | 10YR4/1 黄褐色土粒子 (φ1~2mm)・黄褐色土ブロック (φ3~10mm) 多量 |
| ピット9 | |
| 19 暗褐色土 | 10YR3/3 焼土粒子 (φ1~2mm)・炭化物粒子少量 黄褐色土粒子 (φ1~2mm) 含む |

第64図 第130号住居跡



第131・152号住居跡

1 黒褐色土	10YR3/2	炭化物粒子極少量 焼土粒子含む しまりあり 粘性ややあり	ピット3	9 黒褐色土	10YR3/2	焼土粒子 (φ1~2mm) 少量 黄褐色土粒子 (φ1~2mm)・黄褐色土ブロック (φ3~5mm) 含む
2 黒褐色土	10YR3/1	ロームブロック (φ10~30mm) 少量 しまりややあり 粘性あり 一部灰が含まれる	ピット4	10 黒褐色土	10YR3/1	炭化物粒子 (φ1~3mm) 多量 黄褐色土粒子 (φ1~2mm)・黄褐色土ブロック (φ3~30mm)・焼土粒子 (φ2~5mm) 含む
3 暗褐色土 カマド	10YR3/3	黄褐色土ブロック (φ10~20mm) 多量	ピット5	11 黒褐色土	10YR3/2	焼土粒子・炭化物粒子 (φ1~2mm) 少量 黄褐色土粒子 (φ1~2mm) 含む
4 黒褐色土	7.5YR3/2	焼土粒子 (φ1~5mm) 少量 しまり・粘性ややあり	ピット6	12 黒色土	10YR2/1	黄褐色土ブロック (φ3~10mm) 多量
ピット1			13 黒褐色土	10YR3/2	黄褐色土ブロック (φ3~10mm) 多量 黄褐色土粒子・焼土粒子 (φ1~2mm) 少量	
5 暗褐色土	10YR3/3	炭化物粒子 (φ1~5mm) 多量 黄褐色土ブロック (φ3~5mm) 少量				
6 黒褐色土	10YR3/3	黄褐色土ブロック (φ3~20mm) 多量 炭化物粒子 (φ1~3mm) 含む				
ピット2						
7 黒褐色土	10YR2/2	焼土粒子 (φ1~2mm) 少量 黄褐色土粒子 (φ1~2mm)・黄褐色土ブロック (φ3~10mm) 含む (人為的な埋戻しと思われる)				
8 にぶい黄褐色土	10YR4/3	黄褐色土ブロック (φ3~30mm) 多量 炭化物粒子 (φ1~3mm) 少量 (人為的な埋戻しと思われる)				

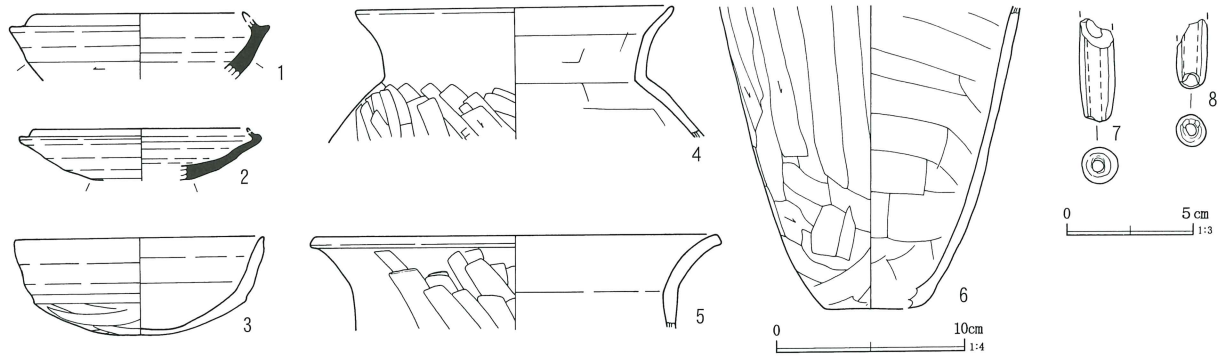
第65図 第131・152号住居跡

35cm、56cm、13cm、38cm、14cm、20cmである。

師器環・甕、土鍾などが出土した。

出土遺物は少なく、接合率も低い。須恵器環、土

本住居跡の時期は下田町X期である。



第66図 第131号住居跡出土遺物

第132号住居跡（第67図）

I・J-36・37グリッドに位置する。第107・134・157号住居跡を切って構築されている。

形状は方形で、規模は東西3.4m、南北4.1mである。埋土はあまり分層されず、短期間に埋没した様相を呈している。確認面から床面の深さは20cmである。主軸方向はN-58°-Eである。

床面はやや斑で、部分的に貼床が認められる。

カマドは東壁ほぼ中央に設けられている。燃焼部の掘り込みはなく、その深さは煙道の先端に向かってゆるやかに浅くなる。煙道と燃焼部を合わせた長さは94cm、燃焼部の幅は42cmである。袖は付け袖である。手前の床には灰の薄い層が広がっていた。

壁溝は検出された壁すべてに認められ、全周していたと考えられる。幅10~25cm、深さ6~12cmである。

ピットは6基検出された。位置的に、P1~3は主柱穴と考えられるが、総じて浅く、柱痕は確認されていない。また、南東隅にはピットは検出されなかった。ピットの深さはP1から順に20cm、38cm、22cm、3cm、12cm、21cmである。

出土遺物の量は少なくはないが、すべて破片である。土器は図示していないが、土師器坏・甕などの破片が出土している。また、石製模造品が2点、埋土から出土している。

本住居跡の時期は下田町X期である。

第133号住居跡（第69図）

J-36・37グリッドに位置する。第135・145・147・154・157号住居跡、第598号溝跡と重複する。住居跡の切り合い関係は、第145号住居跡よりも古く、第135・147・154・157号住居跡よりも新しい。

形状は長方形で、規模は東北-西南5.4m、南東-北西3.2m、である。埋土には地山ブロックが含まれ、比較的短期間に埋没した状況を示している。確認面から床面までの深さは16cmである。主軸方向はN-44°-Wである。

カマドは、北西壁中央付近に設けられている。焚口付近がかろうじて検出された。袖もほとんど残っていない。燃焼部の掘り込みはない。煙道の長さは推定で62cm、燃焼部の規模は推定で80×55cmである。

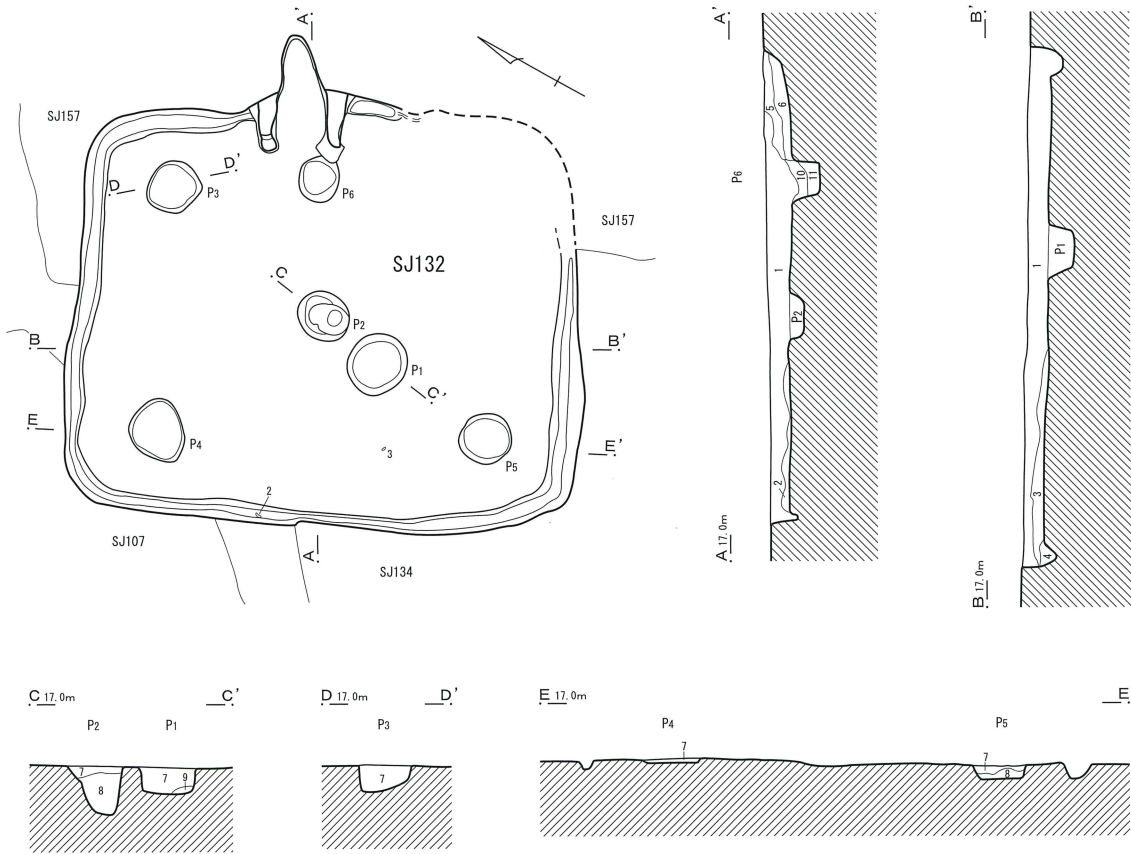
貯蔵穴はバケツ状の掘り込みで、規模は83×70cm、深さは44cmである。

壁溝はほぼ全周する。幅12~24cm、深さ3~12cmである。

本住居跡に伴うと考えられるピットは13基検出された。配置は不規則で柱痕は認められない。ピットの深さはP1から順に12cm、43cm、8cm、46cm、28cm、25cm、55cm、9cm、17cm、21cm、10cm、24cm、27cmである。

出土遺物は破片が多く、図示したのは土師器坏・甕、須恵器甕である。

本住居跡の時期は下田町IX期である。

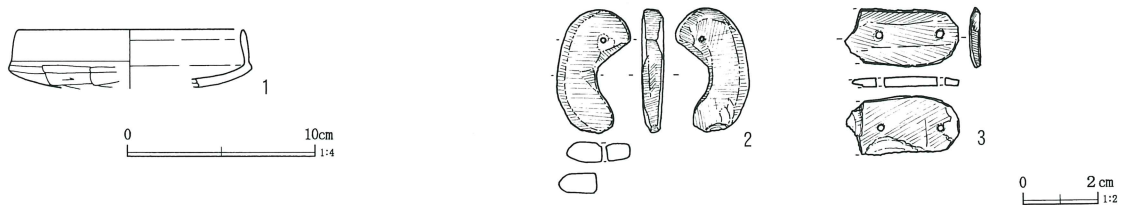


第132号住居跡

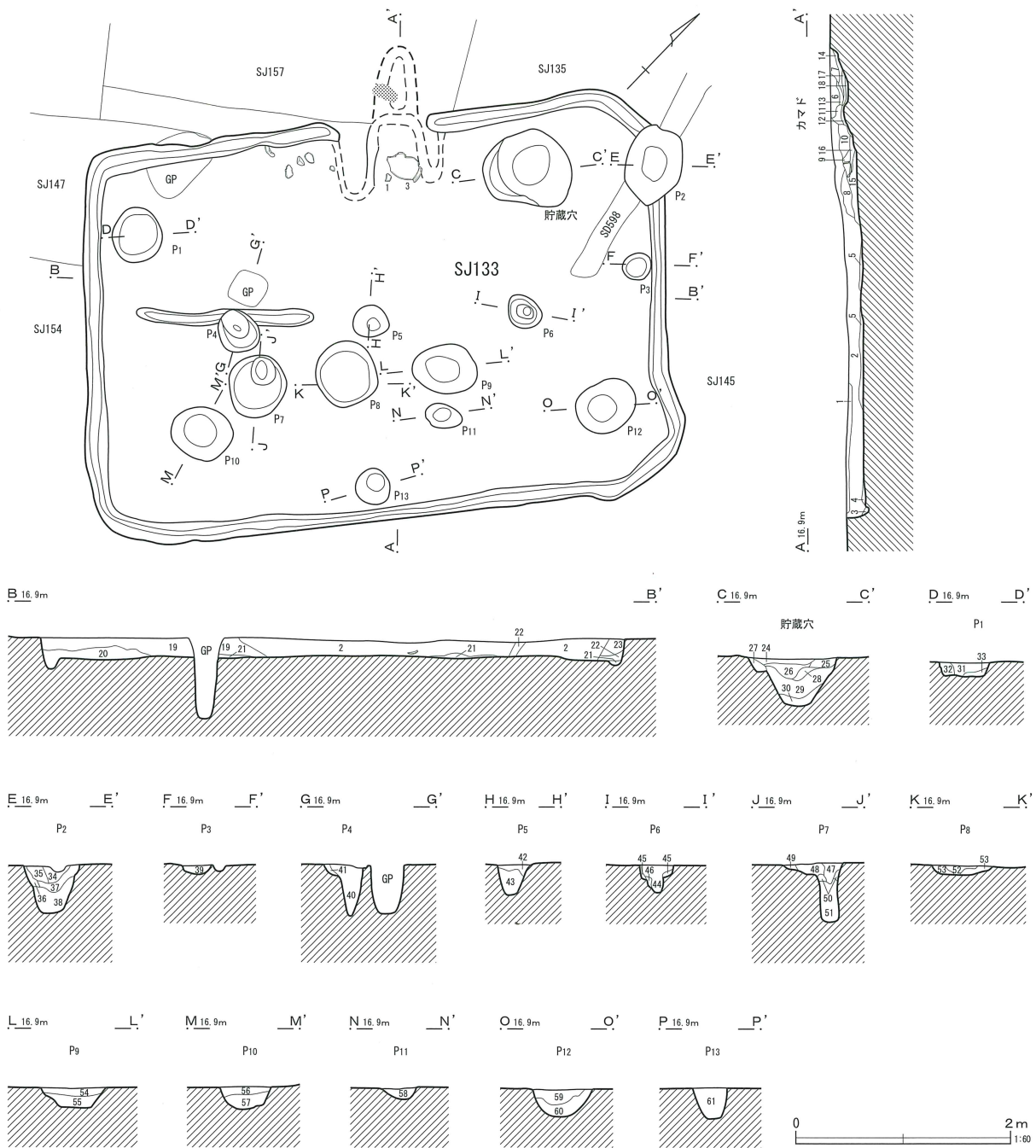
- | | | | | | | | |
|-----|---------|----------|--|--------|---------|---|---|
| 1 | オリーブ黒色土 | 7.5YR2/2 | ロームブロック (φ約10mm) 少量 焼土粒子 (φ2~8mm) 微量 しまりあり 粘性ややあり | ピット1~5 | 7 黒褐色土 | 10YR3/1 | ロームブロック (φ10~30mm) 少量 しまりあり 粘性ややあり |
| 2 | オリーブ黒色土 | 7.5YR2/2 | 地山ブロック (φ5~50mm) 多量 しまりややあり 粘性あり (貼り床) | 8 黒褐色土 | 10YR3/1 | ロームブロック (φ10~30mm) 少量 しまり・粘性ややあり | ローム粒子少量 しまり弱い 粘性あり |
| 3 | 黒褐色土 | 7.5YR3/1 | ロームブロック (φ10~50mm) ・ローム粒子 (φ1~3mm) 少量 しまりあり 粘性ややあり | 9 黒褐色土 | 10YR3/2 | ローム粒子 (φ1~5mm) 少量 炭化物 (φ約8mm) 微量 しまりややあり 粘性あり | |
| 4 | 黒色土 | 7.5YR2/1 | しまりややあり 粘性強い (周溝覆土) | 10 | オリーブ黒色土 | 7.5YR2/2 | ローム粒子 (φ1~5mm) 少量 炭化物 (φ約8mm) 微量 しまりややあり 粘性あり |
| カマド | | | | 11 | オリーブ黒色土 | 7.5YR2/2 | 地山ブロック (広範囲にφ5~30mm) 多量 しまりややあり 粘性あり |
| 5 | オリーブ黒色土 | 7.5YR2/2 | 焼土ブロック (φ5~30mm) 多量 しまりあり 粘性ややあり (天井崩落土) | | | | |
| 6 | オリーブ黒色土 | 7.5YR2/2 | 灰層 炭化物 (φ約13mm) 少量 焼土粒子 微量 しまりややあり 粘性なし | | | | |



第67図 第132号住居跡



第68図 第132号住居跡出土遺物

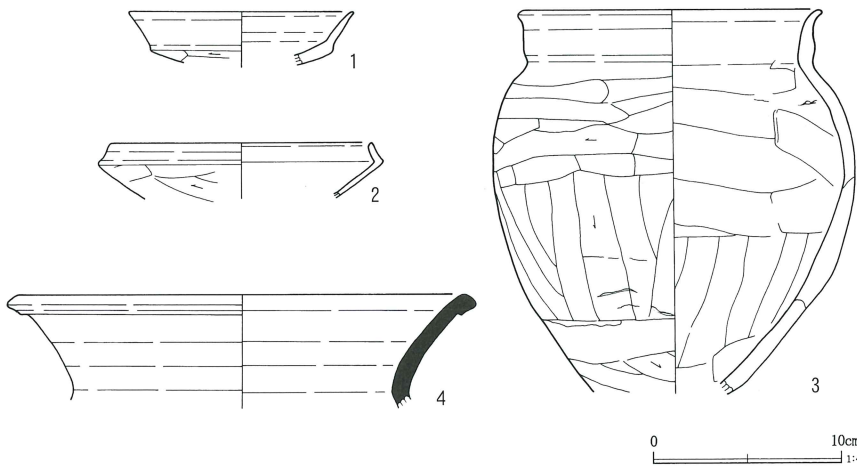


第133号住居跡

1 灰白色土	5Y7/2	地山ブロック多量	12 灰色土	5Y4/1	焼土ブロック多量
2 緑黑色土	5G2/1	焼土ブロック少量 炭化物微量 地山ブロック (φ1~30mm) 含む	13 黄灰色土	2. 5Y5/1	地山ブロック少量 炭化物微量 焼土粒子含む
3 黒色土	10Y2/1	地山ブロック多量 (周溝埋土)	14 黒褐色土	2. 5Y3/1	地山ブロック (φ1~15mm) ・焼土ブロック (φ1~5mm) ・炭化物含む
4 緑黑色土	5G2/1	地山ブロック多量	15 暗オリーブ褐色土	2. 5Y3/3	地山ブロック (φ1~40mm) 多量 焼土ブロック少量
5 オリーブ黒色土	5Y2/2	地山ブロック・焼土ブロック少量	16 暗灰色土	N3/	地山ブロック・焼土ブロック少量
6 黄灰色土	2. 5Y4/1	地山ブロック少量 焼土ブロック (φ1~5mm) ・鉄分含む	17 オリーブ黒色土	5Y2/1	地山ブロック微量 炭化物含む
7 黄灰色土	2. 5Y4/1	地山ブロック・炭化物微量 焼土粒子含む	18 灰色土	N5/	地山ブロック (φ1~15mm) 含む
8 黒色土	7. 5Y2/1	炭化物少量 地山ブロック (φ1~20mm) ・焼土ブロック (φ1~10mm) 含む	19 黒色土	7. 5Y2/1	焼土ブロック (φ1~10mm) 少量 地山ブロック (φ1~25mm) ・炭化物含む
9 黒色土	N2/	焼土ブロック少量 地山ブロック微量 炭化物含む	20 暗灰色土	N3/	焼土ブロック少量 地山ブロック (φ1~20mm) 含む
10 黒褐色土	2. 5Y3/2	焼土ブロック少量 地山ブロック (φ1~10mm) ・炭化物含む	21 オリーブ灰色土	5GY5/1	地山ブロック (φ1~20mm) 多量
11 オリーブ黒色土	5Y3/1	地山ブロック (φ1~20mm) 少量 焼土ブロック (φ1~5mm) ・鉄分含む	22 暗灰色土	N3/	地山ブロック (φ1~20mm) 含む
			23 灰色土	5Y4/1	焼土ブロック少量 地山ブロック (φ1~5mm) 含む

第69図 第133号住居跡

貯蔵穴					
24 黒褐色土	2. 5Y3/1	地山ブロック (φ1~20mm) 多量 焼土ブロック 微量 炭化物含む	ビット5	42 黒褐色土	2. 5Y3/1 地山ブロック (φ1~10mm) 含む 焼土ブロック 微量 炭化物含む
25 黒色土	5Y2/1	地山ブロック微量 炭化物含む		43 黒色土	2. 5Y2/1 地山ブロック・炭化物微量
26 黒褐色土	10YR3/1	地山ブロック (φ1~5mm) 少量 焼土ブロック 微量 炭化物含む	ビット6	44 黒色土	7. 5Y2/1 地山ブロック (φ1~5mm) 少量 鉄分含む
27 黒褐色土	2. 5Y3/1	地山ブロック多量	45 黒褐色土	2. 5Y3/1	地山ブロック多量
28 黒色土	5Y2/1	地山ブロック (φ1~20mm) 多量 焼土ブロック 微量 炭化物含む	46 黒褐色土	2. 5Y3/1	地山ブロック少量
29 黒色土	2. 5Y2/1	地山ブロック・焼土ブロック少量 炭化物・鉄分含む	ビット7	47 オリーブ黒色土	5Y2/2 地山ブロック (φ1~20mm)・炭化物含む
30 暗灰色土	2. 5Y4/2	地山ブロック少量 炭化物含む	48 黒色土	5Y2/1	地山ブロック多量 炭化物含む
ビット1			49 黒色土	5Y2/1	地山ブロック多量
31 黒色土	10YR1. 7/	地山ブロック (φ1~30mm) 多量 焼土ブロック 少量	50 暗灰色土	N2/1	地山ブロック多量
32 黒褐色土	10YR3/1	地山ブロック (φ1~10mm)・炭化物含む	51 黒褐色土	10YR3/1	地山ブロック多量 炭化物含む
33 灰白色土	5Y7/1	地山ブロック多量 炭化物含む	ビット8	52 黒色土	5Y2/1 地山ブロック (φ1~20mm) 含む
ビット2			53 黒色土	5Y2/1	地山ブロック (φ1~40mm) 多量
34 黒褐色土	2. 5Y3/1	地山ブロック・焼土粒子微量 炭化物含む	ビット9		
35 黒褐色土	2. 5Y3/1	地山ブロック (φ1~20mm) 多量 炭化物含む	54 黒褐色土	10YR3/1	地山ブロック (φ1~10mm) 多量 焼土ブロック 微量 炭化物含む
36 オリーブ黒色土	5Y3/1	地山ブロック (φ1~5mm) 少量 炭化物・鉄分含む	55 灰色土	7. 5Y4/1	地山ブロック少量 鉄分含む
37 オリーブ黒色土	7. 5Y3/2	地山ブロック (φ1~5mm)・焼土ブロック・炭化物・鉄分含む	56 灰色土	7. 5Y4/1	地山ブロック (φ1~20mm) 多量 炭化物含む
38 黒色土	7. 5Y2/1	炭化物・鉄分含む	57 黒色土	7. 5Y2/1	地山ブロック (φ1~10mm) 多量 炭化物含む
ビット3			ビット11		
39 黒褐色土	10YR2/2	黄褐色土ブロック混入	58 黒褐色土	10YR2/2	黄褐色土ブロック混入
ビット4			ビット12		
40 黒褐色土	2. 5Y3/1	地山ブロック微量 炭化物少量	59 黒褐色土	10YR3/1	地山ブロック (φ1~20mm)・炭化物含む
41 灰色土	7. 5Y4/1	地山ブロック (φ1~5mm)・鉄分含む	60 黒色土	2. 5Y2/1	地山ブロック微量 炭化物含む
			ビット13		
			61 褐色土	10YR5/3	黄褐色土ブロック混入



第70図 第133号住居跡出土遺物

一西南は切り合いで判然としませんが、7.0mと推定される。切り合いが著しく、埋土の残っている部分は少ないが、確認面から床面までの深さは22cmである。主軸方向はN-51°-Wである。

カマドは南東壁やや西よりに検出された。燃烧部のみで煙道は検出されなかった。燃烧部の形状は楕円形で、規模は88×52cm、

床面からの掘り込みの深さは8cmである。袖は地山の削り出しである。

貯蔵穴はカマドの右側、南コーナー近くに設けられている。円形で円錐状に掘り込まれている。規模は90×79cm、深さは47cmである。

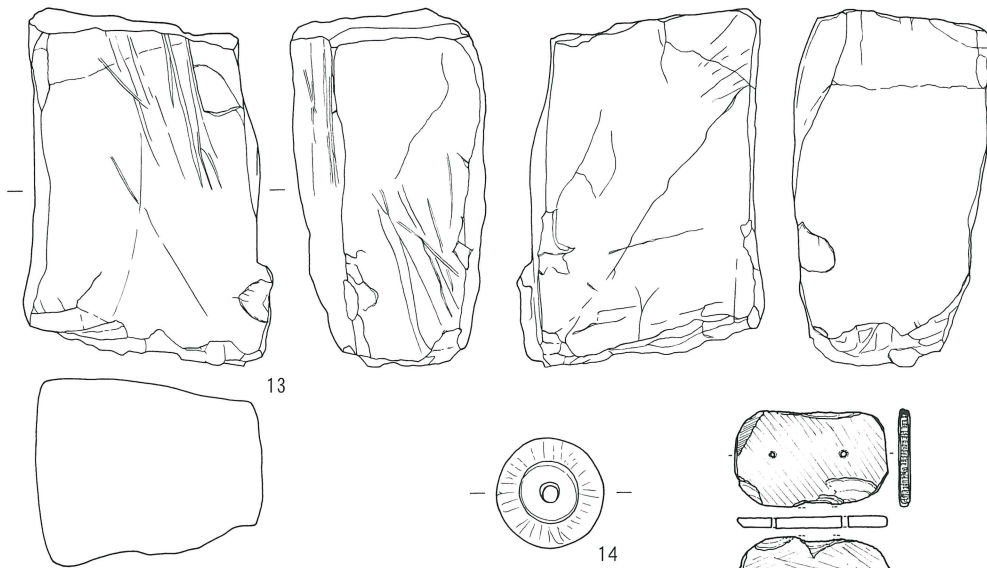
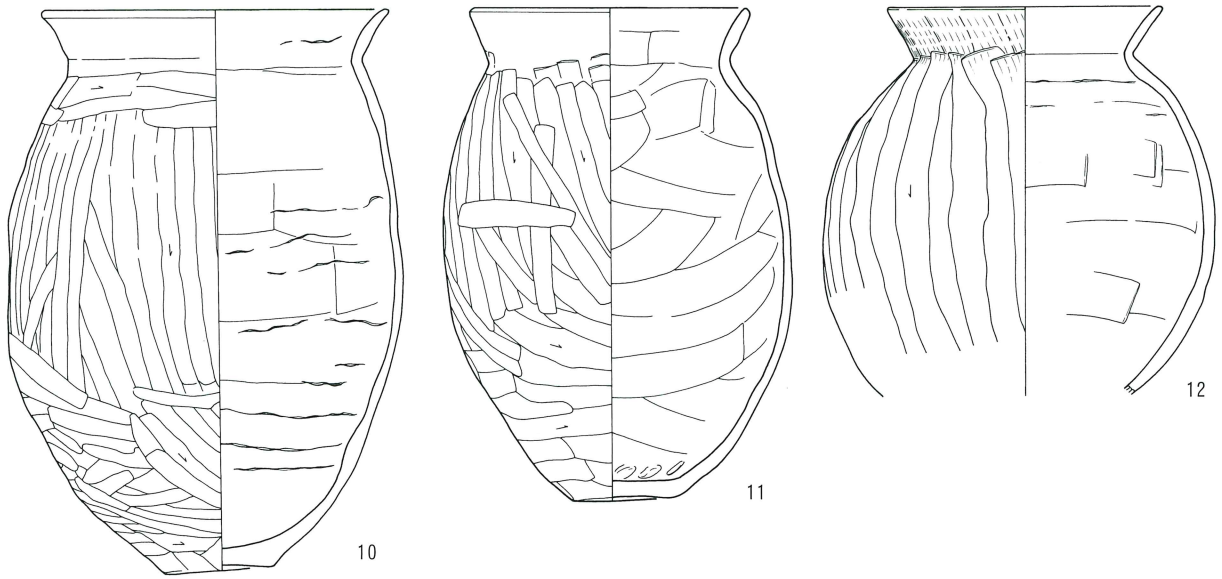
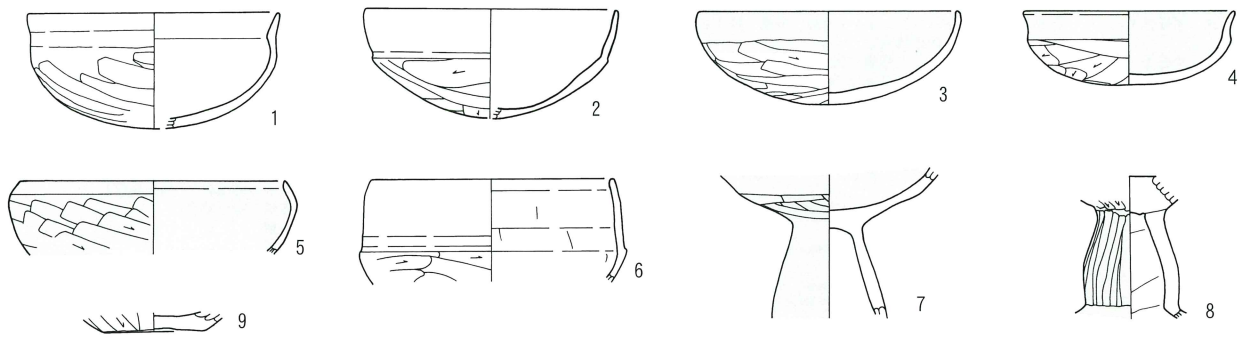
壁溝は幅12~18cm、深さ3~10cmである。

ピットは5基検出された。P1~4が主柱穴と考えられる。P3はあまり深く掘り込まれていない。ピットの深さはP1から順に65cm、58cm、18cm、44cm、27

第134号住居跡 (第72図)

I-36・37、J-37グリッドに位置する。第110・111・121・132・138・147・153・154・157号住居跡、第593・594号溝跡、第50号掘立柱建物跡と重複する。住居跡の切り合い関係は、第110・111・132・147号住居跡より古く、第121・138・154・157号住居跡より新しい。第153号住居跡との切り合いは不明である。

形状は正方形で、規模は南東一北西7.0m、東北



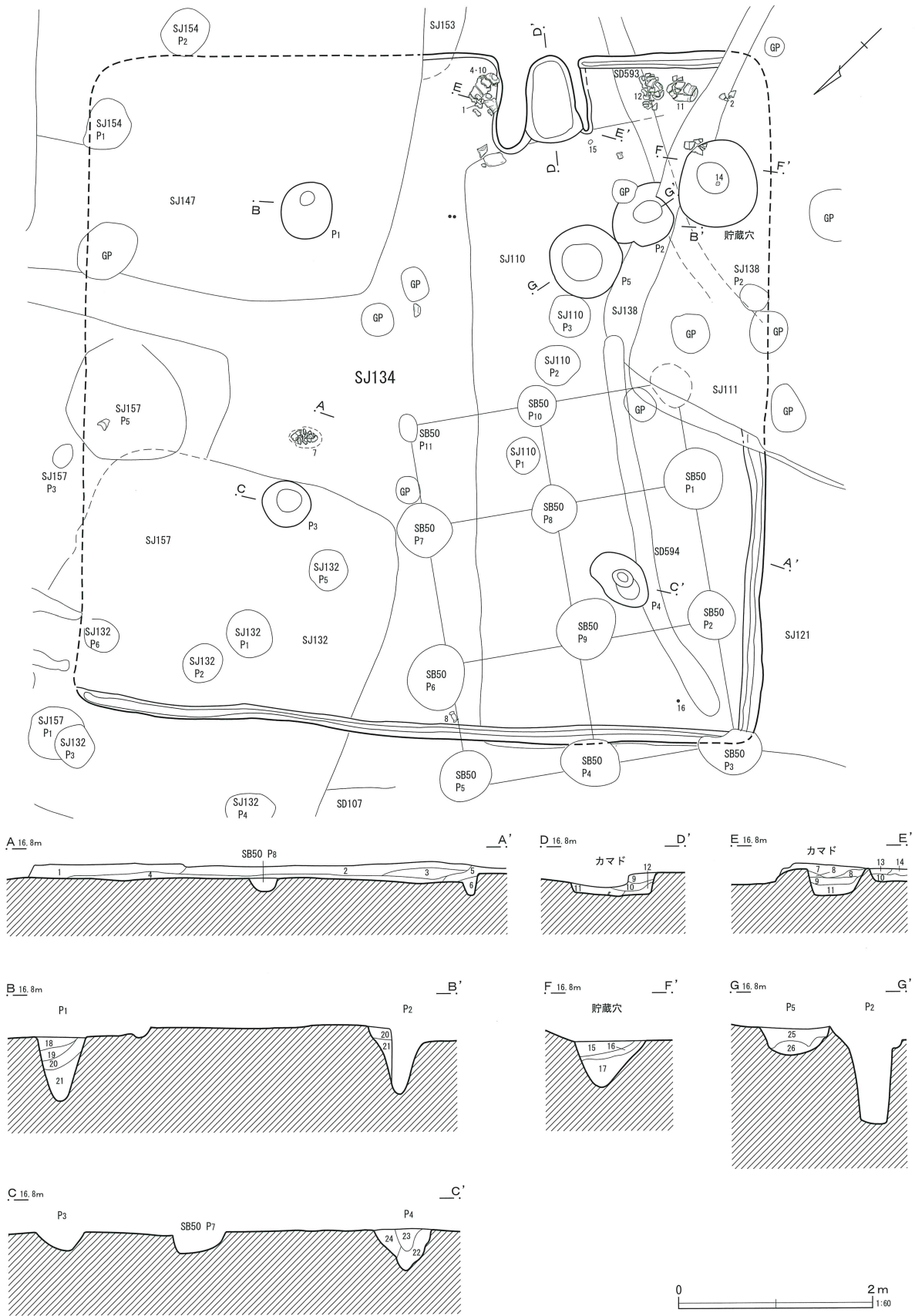
0 10cm 1:4

0 5cm 1:3

0 2cm 1:2

0 1cm 1:1

第71图 第134号住居跡出土遺物



第72図 第134号住居跡

第134号住居跡			貯蔵穴		
1 褐灰色土	10YR4/1	黄褐色粘土ブロック (φ2~3mm) 多量	15 灰黄褐色土	10YR4/2	黄褐色粘土ブロック (φ2~3mm) 少量
2 黒褐色土	10YR3/2	黄褐色粘土ブロック (φ2~3mm) ・ 焼土粒子少量	16 褐灰色土	10YR4/1	黄褐色粘土ブロック (φ5~8mm) 多量
3 褐灰色土	10YR4/1	黄褐色粘土ブロック (φ10mm) 多量	17 褐灰色土	10YR4/1	黄褐色粘土ブロック (φ5~8mm) 少量
4 褐灰色土	10YR4/1	黄褐色粘土ブロック (φ5~8mm) 多量	ピット1・2		
5 黒褐色土	10YR2/3	焼土粒子・炭化物多量 黄褐色粘土ブ ロック (φ2~3mm) 少量	18 灰黄褐色土	10YR5/2	黄褐色粘土ブロック (φ5~8mm) 多量 他住居の貼床
6 にぶい黄褐色土 カマド	10YR5/3	黄褐色粘土ブロック (φ5~8mm) 多量	19 灰黄褐色土	10YR4/2	黄褐色粘土ブロック (φ5~8mm) 少量 柱抜き取り痕
7 褐灰色土	10YR4/1	黄褐色粘土ブロック (φ2~3mm) 少量 焼土ブロック (φ2~3mm) 微量 灰ブ ロック含む	20 灰黄褐色土	10YR4/2	黄褐色粘土ブロック (φ10mm) 少量 柱抜き取り痕
8 褐灰色土	10YR4/1	焼土ブロック (φ5~8mm) 多量 黄褐 色粘土ブロック (φ3~5mm) 少量	21 灰黄褐色土	10YR4/2	黄褐色粘土ブロック (φ10mm) 多量 柱抜き取り痕
9 灰褐色土	7.5YR4/2	黄褐色粘土ブロック (φ3~5mm) ・ 焼土ブロック (φ5mm) 多量 (天井崩落土)	ピット4		
10 黒色土	10YR2/1	焼土ブロック (φ3~5mm) 少量 灰層	22 褐灰色土	10YR4/1	黄褐色粘土ブロック (φ30~50mm) 多量 (埋戻し)
11 にぶい黄褐色土	10YR5/3	炭化物 (φ3~5mm) 多量 黄灰色粘土 ブロック (φ3~5mm) まばら (カマド掘り方)	23 黒褐色土	10YR3/2	黄褐色粘土ブロック (φ3~5mm) ・ 焼土粒子・炭化物少量
12 灰黄褐色土	10YR4/2	黄褐色粘土ブロック (φ5~8mm) 多量 (カマド掘り方)	24 暗褐色土 ピット5	10YR3/3	
13 にぶい黄褐色土	10YR7/4	黄褐色粘土ブロック (φ5~8mm) 多量	25 暗褐色土	10YR3/3	黄褐色粘土ブロック (φ3~20mm) 多量
14 黒褐色土	10YR3/1	黄灰色粘土ブロック (φ2~3mm) 微量	26 黒褐色土	10YR3/1	黄褐色粘土ブロック (φ3~20mm) 多量

cmである。

出土遺物は多く、接合率も高い。カマドの周辺から土師器坏・甗などが、貯蔵穴埋土から紡錘車が出土している。

本住居跡の時期は下田町Ⅳ期である。

第135号住居跡 (第74図)

I-36、J-36・37グリッドに位置する。第133・145・146・147・157号住居跡、第587・598号溝跡、第307・323号井戸跡と重複する。住居跡の切り合い関係は、第133・145号住居跡よりも古く、第146・157号住居跡よりも新しい。第147号住居跡との関係は把握できなかった。

規模は東西6.2m、南側を第133・145号住居跡に切られているため、南北は6.0mまで検出した。おそらく形状は正方形に近いと推定される。埋土はほぼ一層で、短期間に埋没したと思われる。確認面から床

面までの深さは22cmである。主軸方向はN-40°-Wである。

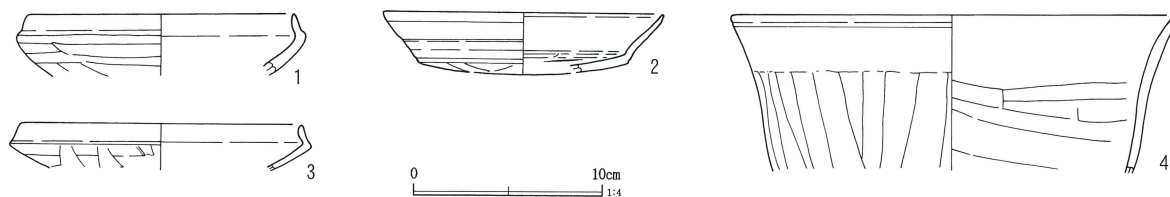
床面はしっかりとしており、部分的に貼床が認められた。直上には焼土と炭化物を含んだ浅い層がほぼ全面に堆積していた。

カマドは、北西壁やや南西コーナー寄りに設けられている。残りは悪く、煙道のみ検出された。煙道の長さは60cmである。

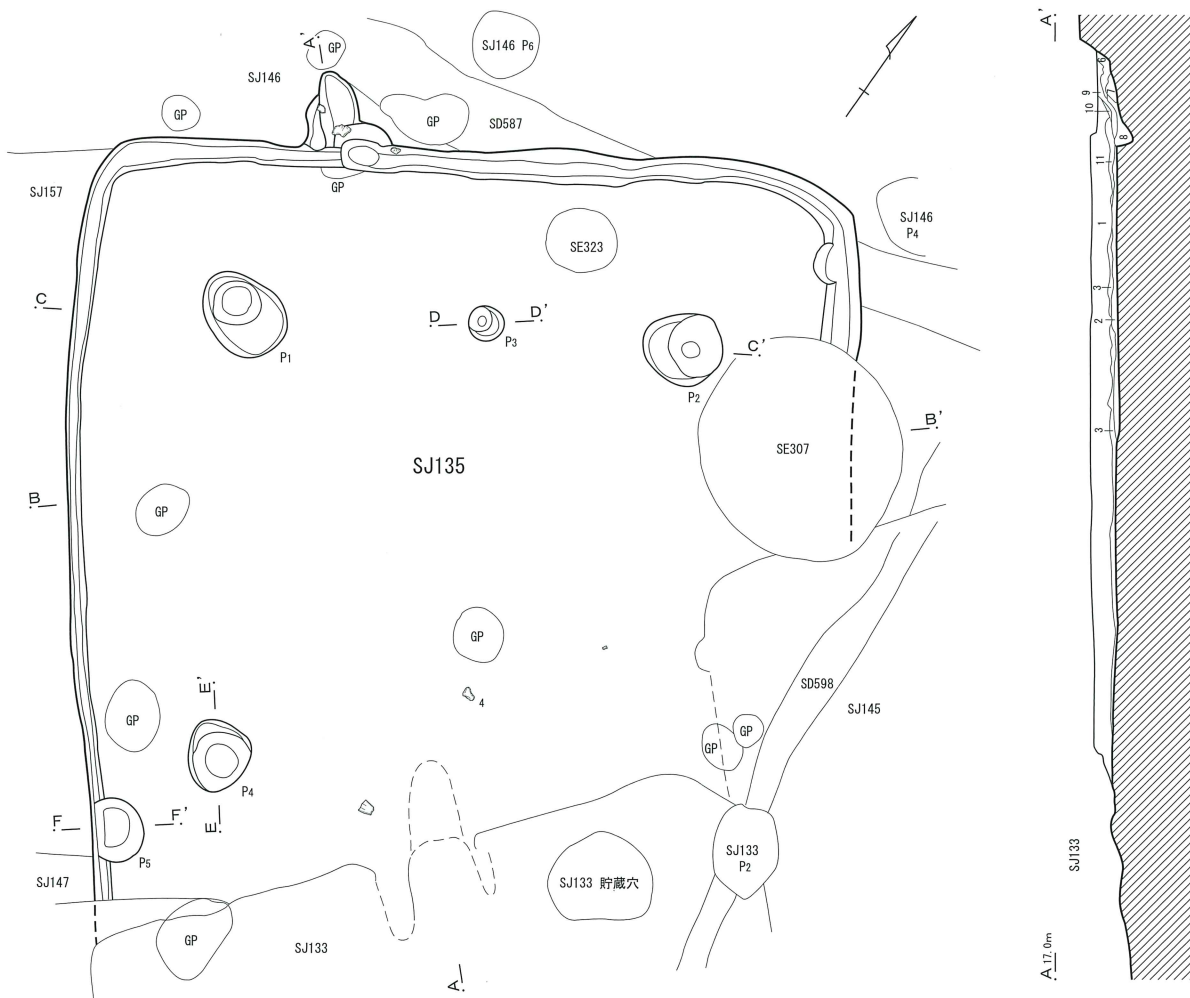
壁溝は検出された壁すべてに認められた。カマド構築前に設けられていたものと考えられる。幅10~30cm、深さ3~12cmである。

ピットは5基検出された。その配置から支柱穴はP1・2・4と考えられるが、掘り込みも一定せず、柱痕も認められなかった。ピットの深さはP1から順に22cm、40cm、25cm、45cm、28cmである。

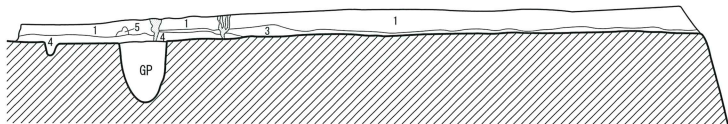
遺物は埋土から破片が多く出土した。図示したのは土師器坏・甗である。



第73図 第135号住居跡出土遺物



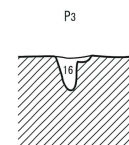
B 17.0m



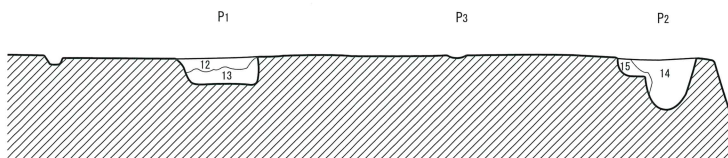
B'

SE307

D 17.0m D'

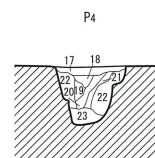


C 17.0m



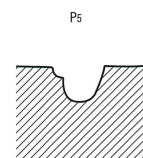
C'

E 17.0m



E'

F 17.0m F'



第74图 第135号住居跡

第135号住居跡

1	黒褐色土	2.5Y3/1	地山ブロック（φ1~10mm）多量 焼土ブロック・炭化物少量
2	黒褐色土	10YR2/3	地山ブロック（φ1~30mm）多量 焼土ブロック少量（貼床）
3	黒褐色土	2.5Y3/1	地山ブロック（φ1~10mm）・炭化物多量
4	黒色土	7.5YR2/1	地山ブロック（φ1~10mm）・焼土ブロック（φ1~5mm）・炭化物含む
5	灰黄褐色土 カマド	10YR4/2	地山ブロック・炭化物含む
6	黒褐色土	10YR2/2	焼土ブロック（φ1~10mm）多量
7	暗灰黄色土	2.5Y4/2	地山ブロック多量
8	黒褐色土	10YR3/1	焼土ブロック少量
9	灰オリーブ色土	5Y4/2	地山ブロック多量 炭化物少量 焼土粒子含む
10	オリーブ黒色土	5Y3/1	地山ブロック（φ1~10mm）含む
11	黒色土	5Y2/1	炭化物微量 焼土ブロック（φ1~15mm）含む
12	黒褐色土	2.5Y3/1	地山ブロック（φ1~5mm）・焼土ブロック少量 炭化物含む
13	黒色土	2.5Y2/1	地山ブロック（φ1~30mm）・炭化物多量 焼土ブロック（φ1~5mm）含む

ピット2			
14	黒褐色土	10YR3/1	地山ブロック（φ1~5mm）・炭化物少量 焼土ブロック微量
15	黒褐色土	2.5Y3/1	地山ブロック（φ1~30mm）多量 焼土ブロック微量
16	褐色土	10YR5/3	黄褐色土ブロック混入
17	黒褐色土	7.5YR3/1	地山ブロック少量 焼土ブロック微量 炭化物含む
18	黒褐色土	10YR3/1	地山ブロック少量 炭化物含む
19	黒色土	10YR1.7/	地山ブロック少量
20	黒色土	2.5Y2/1	地山ブロック（φ1~15mm）多量 鉄分含む
21	黒色土	5Y2/1	地山ブロック少量 焼土・炭化物含む
22	黒褐色土	10YR3/2	地山ブロック（φ1~20mm）多量 炭化物含む
23	黒色土	7.5Y1.7/1	地山ブロック（φ1~30mm）含む

本住居跡の時期は下田町Ⅷ期である。

第136号住居跡 欠番

第137号住居跡（第75図）

I・J—38グリッドに位置する。第140号住居跡を切り、第583号溝跡に切られる。

形状は長方形を呈し、規模は東西4.8m、南北7.3mである。埋土の残りは薄い、自然堆積と考えられる。確認面から床面までの深さは10cmである。主軸方向はN—2°—Eでほぼ真北を向く。

床面は明瞭で、中央部がとくに硬く踏みしめられている。全面に炭化物の薄い堆積が認められた。

カマドは北壁やや東寄りに設けられている。煙道は一部のみで、検出された長さは16cmである。燃烧部は楕円形のしっかりと掘り込みで、規模は105×60cm、掘り込みの深さは20cmである。底には炭化物を含む灰層が厚く堆積していた。袖は粘土を貼り付けて構築している。

壁溝は東壁の一部を除いて巡っている。幅14~30cm、深さ4~9cmである。

ピットは7基検出された。P1~4は深さや柱痕の存在から、主柱穴と考えられる。コーナーに設けられたP5・7はともにバケツ状の掘り込みであり、貯蔵穴の可能性はある。ピットの深さはP1から順

に64cm、48cm、50cm、48cm、40cm、38cm、39cmである。

遺物はおもに埋土から破片が多く出土した。須恵器甕・甕、土師器坏・甕などが出土している。土器以外の遺物には白玉がある。

本住居跡の時期は下田町Ⅷ期である。

第138号住居跡（第77図）

I—37・38グリッドに位置する。第110・111・113・121・134号住居跡、第593・594号溝跡と重複する。住居跡の切り合い関係は、第113・121号住居跡よりも新しく、他の住居跡よりも古い。

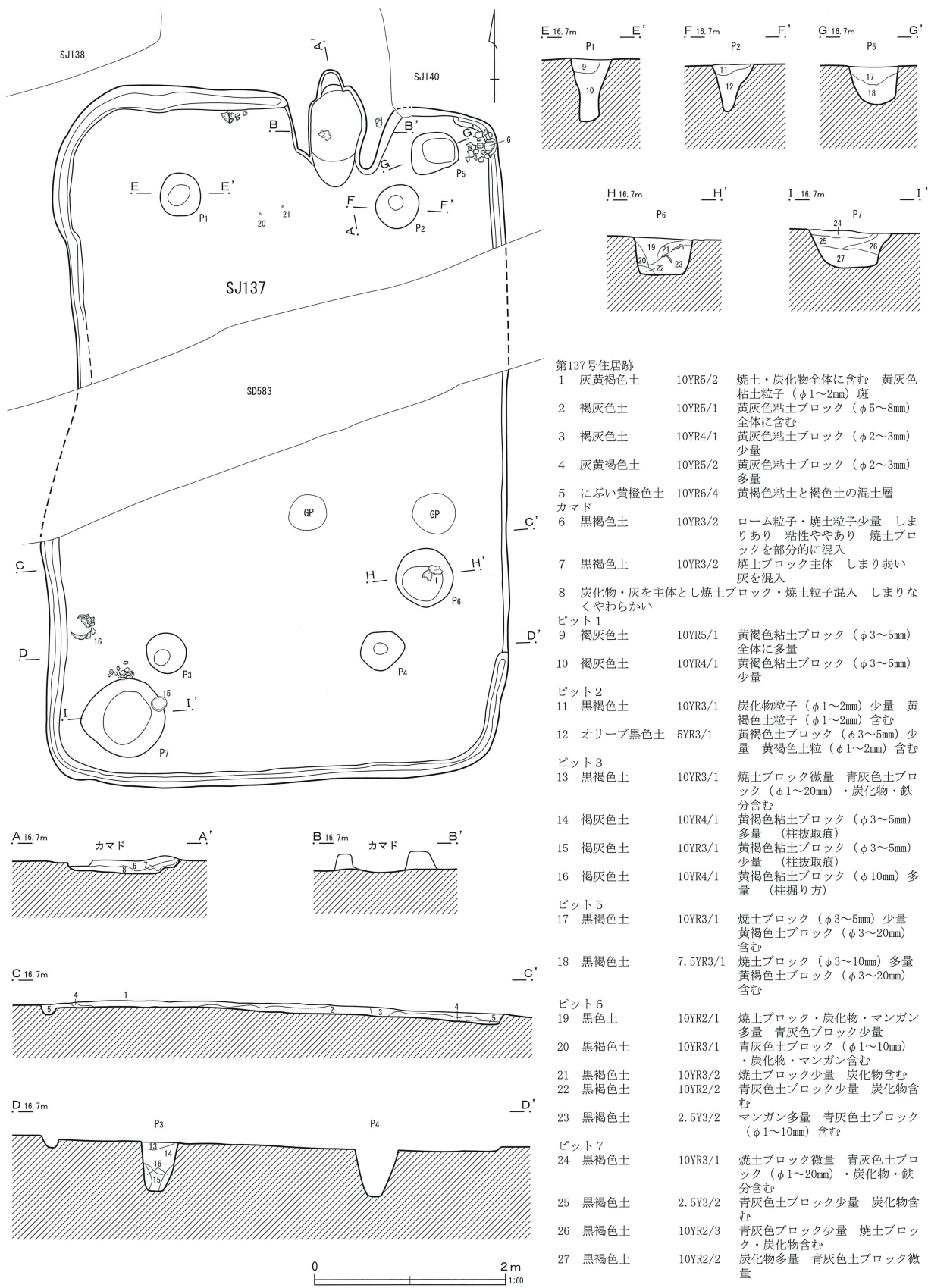
形状は正方形に近く、規模は東西5.9m、南北5.6mである。埋土の堆積は人為的な埋め戻しの様相を呈している。確認面から床面までの深さは34cmである。主軸方向はN—20°—Wである。

床面は明瞭で、よく踏みしめられている。

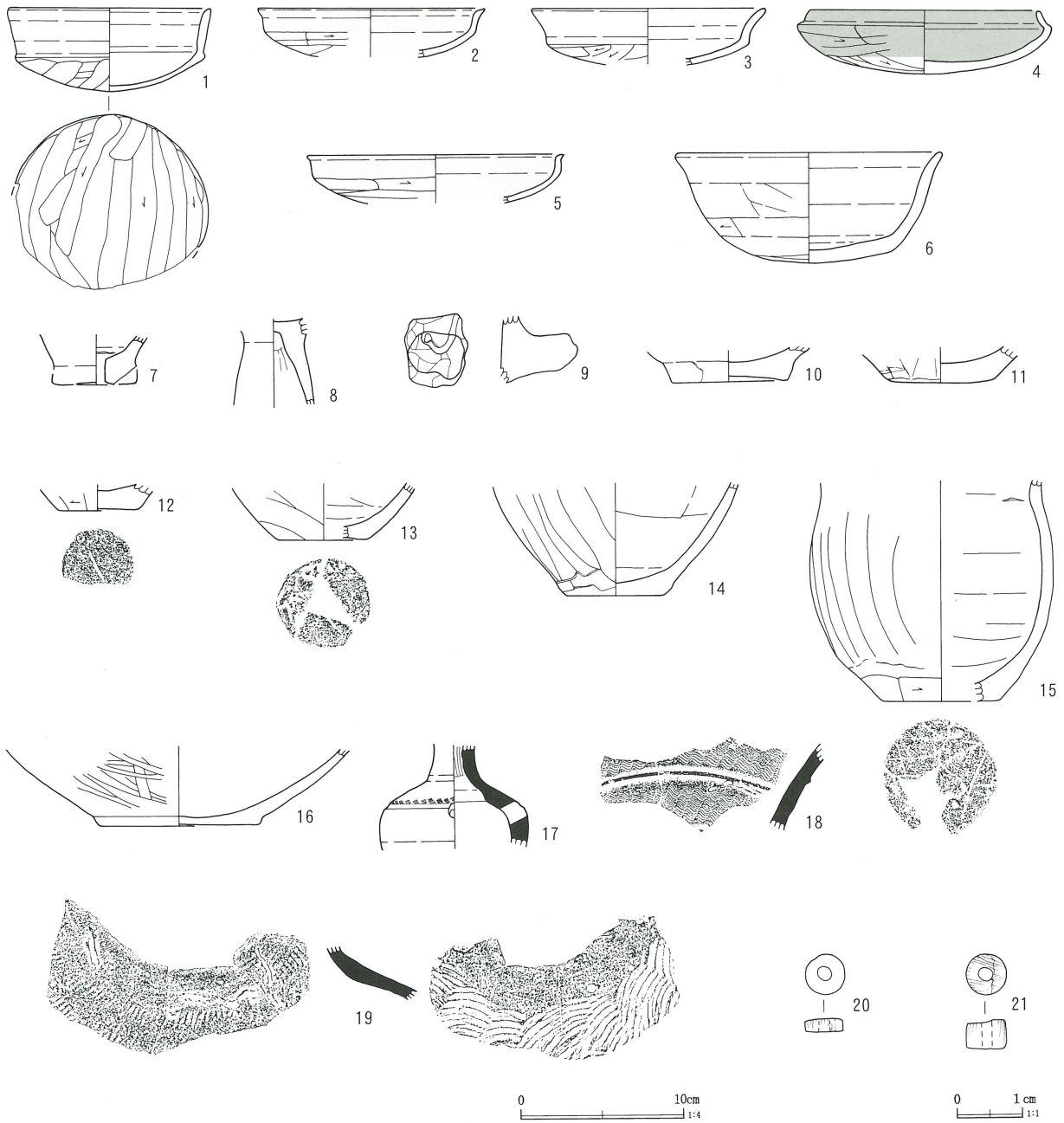
炉は2基、北壁寄り中央に検出された。ともに粘土を貼って火床面としている。炉1は38×36cm、掘り方の深さは8cmである。炉2は35×25cm、掘り方の深さは6cmである。

壁溝は全周する。掘り込みは浅く、幅13~20cm、深さ3~6cmである。

ピットは4基検出された。P1・2には柱痕が確認され、これらは主柱穴になると考えられる。ピット



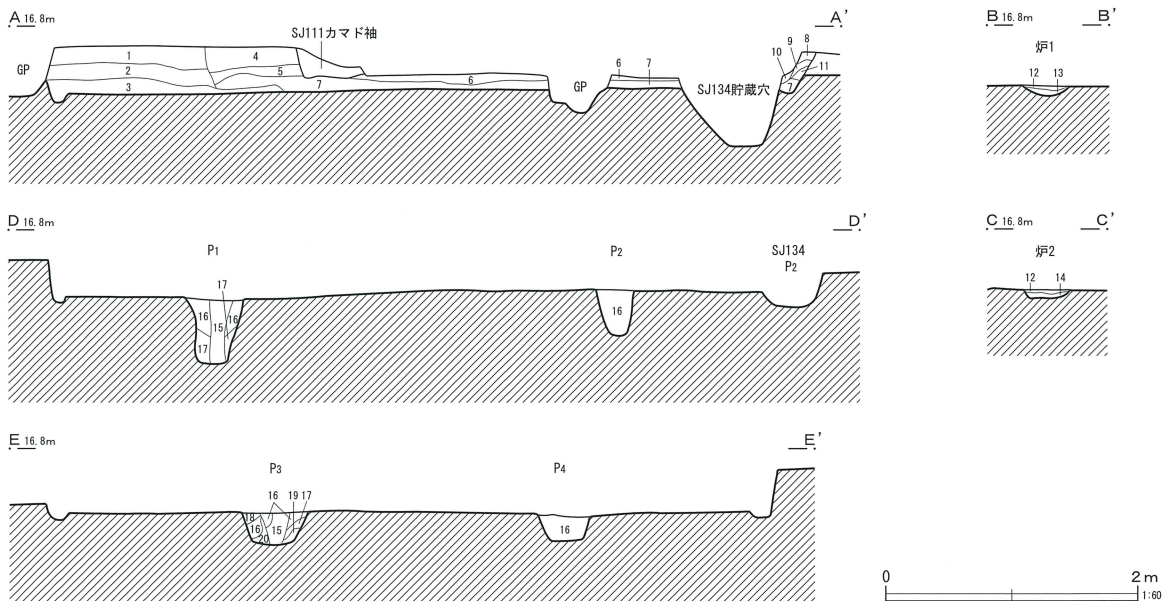
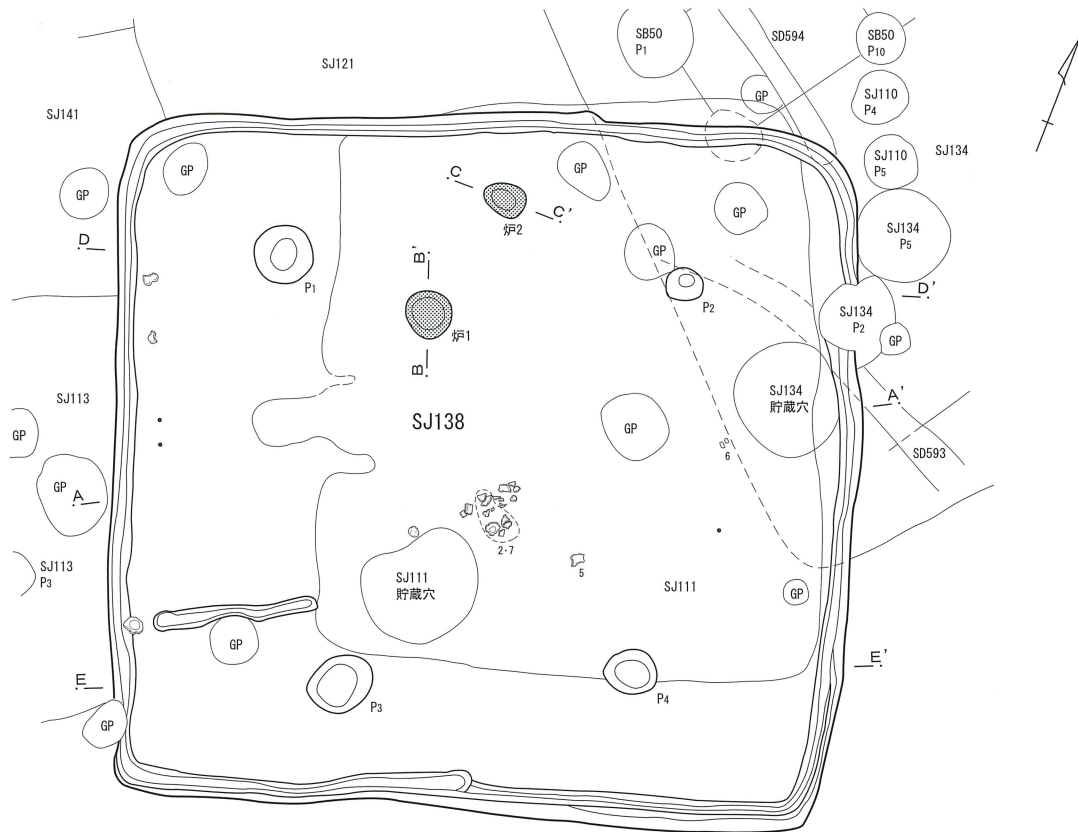
第75図 第137号住居跡



第76図 第137号住居跡出土遺物

の深さはP1から順に50cm、35cm、25cm、20cmである。
出土遺物は多く、上層には周辺からの混入遺物が

含まれる。土師器器台・甌・台付甕などがある。
本住居跡の時期は下田町II期である。



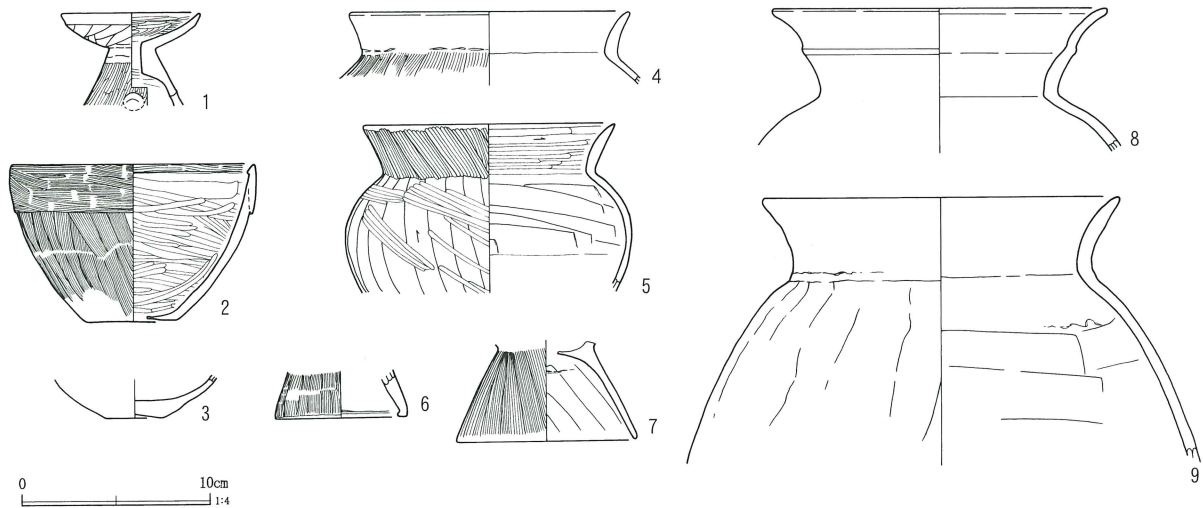
第138号住居跡

- | | | |
|----------|---------|-------------------------------|
| 1 黒褐色土 | 10YR3/2 | 黄褐色粘土ブロック (φ1~2mm) 少量 |
| 2 灰黄褐色土 | 10YR4/2 | 黄褐色粘土ブロック (φ2~3mm) 多量 |
| 3 黒褐色土 | 10YR3/2 | 黄褐色粘土粒子 (φ0.5~1mm) 多量 霜降り状を含む |
| 4 灰黄褐色土 | 10YR4/2 | 黄褐色粘土ブロック (φ5~8mm) 多量 |
| 5 褐灰色土 | 10YR4/1 | 黄褐色粘土ブロック (φ3~5mm) まばら |
| 6 灰黄褐色土 | 10YR4/2 | 黄褐色粘土ブロック (φ3~5mm) 少量 炭化物多量 |
| 7 黒褐色土 | 10YR3/2 | 黄褐色粘土ブロック (φ5~8mm) 炭化物粒子多量 |
| 8 褐灰色土 | 10YR4/1 | 黄褐色粘土粒子 (φ0.5~1mm) 少量 |
| 9 黒褐色土 | 10YR3/2 | 黄褐色粘土ブロック (φ2~3mm) 炭化物粒子少量 |
| 10 黒褐色土 | 10YR3/1 | 炭化物層 |
| 11 灰黄褐色土 | 10YR4/2 | 黄褐色粘土ブロック (φ2~3mm) 多量 |

炉1・2

- | | | |
|------------|---------|-----------------------------|
| 12 にぶい橙色土 | 5YR6/4 | 焼土層・黄褐色粘土が硬化したもの |
| 13 にぶい黄橙色土 | 10YR7/4 | 部分的に焼土化する |
| 14 明黄褐色土 | 10YR7/6 | 暗褐色土多量 炭化物少量 |
| ピット1~4 | | |
| 15 褐灰色土 | 10YR4/1 | 黄褐色粘土ブロック (φ3~5mm) 少量 (柱痕) |
| 16 灰黄褐色土 | 10YR4/2 | 黄褐色粘土ブロック (φ5~8mm) 多量 (掘り方) |
| 17 灰黄褐色土 | 10YR4/2 | 黄褐色粘土ブロック (φ5~8mm) 少量 (掘り方) |
| 18 黄灰色土 | 2.5Y6/1 | 黄灰色粘土ブロックの層 (掘り方) |
| 19 灰黄褐色土 | 10YR4/2 | 黄褐色粘土ブロック (φ2~3mm) 少量 (掘り方) |
| 20 にぶい黄橙 | 10YR6/4 | 暗褐色土をブロック状に含む |

第77図 第138号住居跡



第78図 第138号住居跡出土遺物

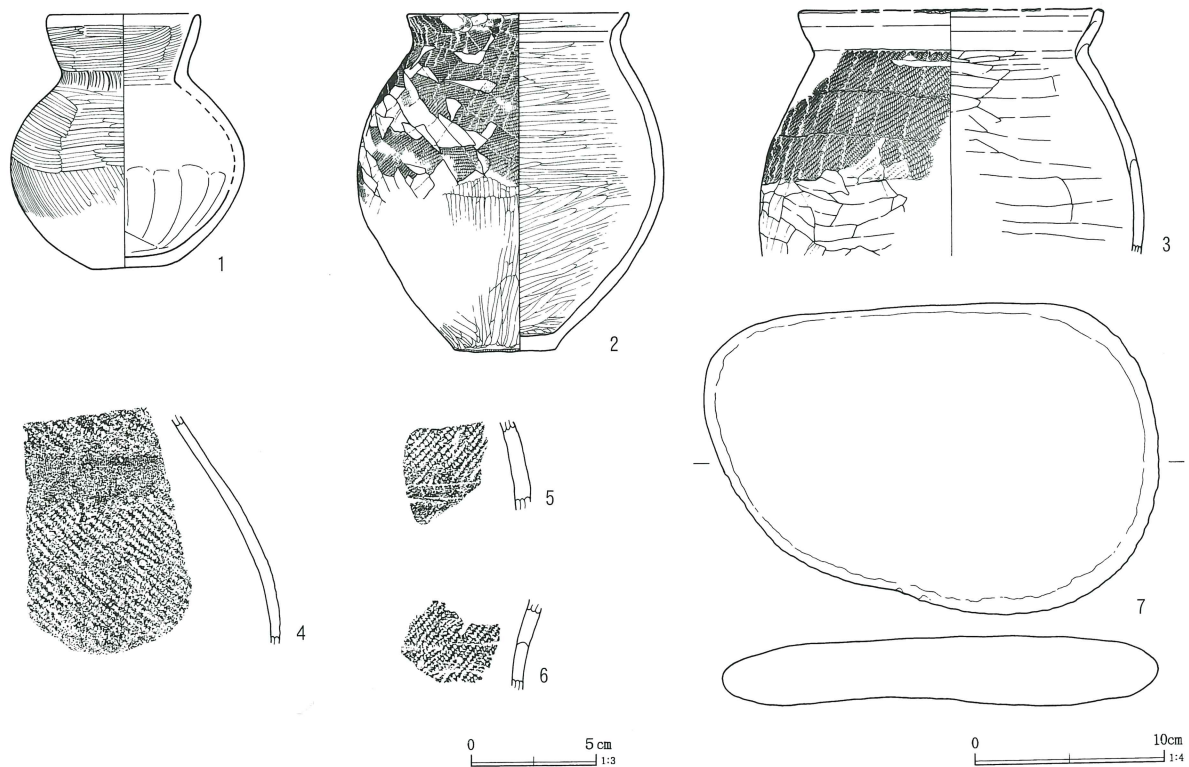
第139号住居跡 (第80図)

H・I-38グリッドに位置する。第141・160・322号住居跡、第583号溝跡と重複する。住居跡の切り合い関係は、第160・322号住居跡よりも古く、第141号住居跡との関連は不明である。

形状はやや歪んだ方形で、規模は東西4.7m、南北

5.5mである。中央を第583号溝跡が横断し、西半は第160・322号住居跡に切られ、残りは悪い。確認面から床面までの深さは17cmである。主軸方向はN-19°-Wである。

炉は北寄りに1基検出された。わずかにくぼむが、床面が火床面となっている。被熱範囲は不定形で、



第79図 第139号住居跡出土遺物

規模は30×15cmである。

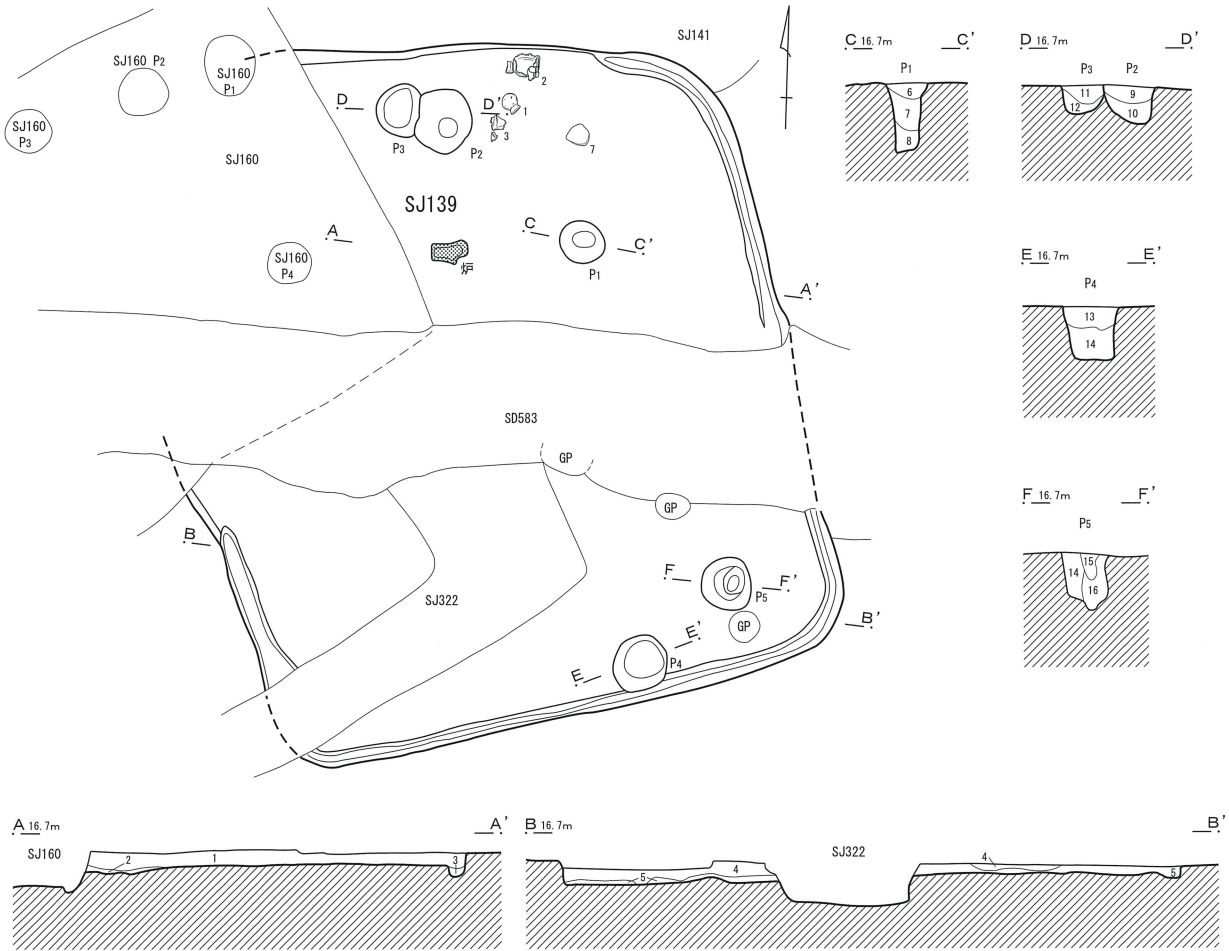
壁溝は幅10～20cm、深さ3～10cmである。北壁中央には巡っていない。

ピットは5基検出された。位置や埋土から、P1・5は柱穴の可能性もある。配置的には第160号住居跡のP4が対応する可能性もある。ピットの深さはP1から順に54cm、28cm、22cm、43cm、45cmで

ある。

出土遺物は、北半の床面近くからのものが比較的残りがよい。土師器小型壺・台付甕、摺石などが出土している。

本住居跡の時期は下田町I期である。



第139号住居跡

- 1 黒褐色土 10YR2/2 黄褐色土粒子 (φ1~2mm)・黄褐色土ブロック (φ3~10mm) 多量 炭化物粒子 (φ2~3mm) 少量
- 2 暗灰色土 N3/0 灰主体 焼土ブロック (φ2~10mm) 少量 (炉跡埋土)
- 3 にぶい黄褐色土 10YR4/3 黄褐色土ブロック (φ3~5mm) 多量 (壁溝埋土)
- 4 黒褐色土 10YR3/2 黄褐色粘土ブロック (φ2~5mm) 少量 炭化物粒子 (φ3~5mm) 含む
- 5 褐灰色土 10YR5/1 黄褐色粘土ブロックとの混土層
- ピット1 10YR3/3 黄褐色土粒子 (φ1~2mm) 少量
- 7 黒褐色土 10YR3/1 黄褐色土粒子 (φ1~2mm)・黄褐色土ブロック (φ3~10mm) 多量
- 8 オリーブ黒色 5Y3/1 黄褐色土粒子 (φ1~2mm)・黄褐色土ブロック (φ3~5mm) 少量 粘性強い

- ピット2 9 暗褐色土 10YR3/3 黄褐色土粒子 (φ1~2mm)・焼土ブロック (φ2~5mm) 少量
- 10 黒褐色土 10YR2/2 黄褐色土粒子 (φ1~2mm) 微量
- ピット3 11 黒褐色土 10YR3/1 黄褐色土粒子 (φ1~2mm) 少量
- 12 黒褐色土 10YR2/2 黄褐色土ブロック (φ3~10mm) 少量
- ピット4・5 13 灰黄褐色土 10YR4/2 灰色で粘性のややある土を主体 黄褐色土粒子 (φ2mm) 多量 しまりあり 粘性ややあり
- 14 褐灰色土 10YR4/1 灰色で粘性のある土を主体 炭化物微量 しまりややあり 粘性あり
- 15 灰黄褐色土 10YR4/2 黄褐色土ブロック (φ10mm) 含む しまり・粘性あり
- 16 褐灰色土 10YR4/1 褐色土粒子 (φ2mm) 含む しまりあり 粘性ややあり



第80図 第139号住居跡

第140号住居跡（第81図）

J-37・38グリッドに位置する。第137・147・153・154・165・166号住居跡、第583・591・593・599号溝跡と重複する。住居跡の切り合い関係は、第137・147・153・165・166号住居跡よりも古い。第154号住居跡との関係は明らかにできなかった。

方形で、検出された部分の規模は東西3.3m、南北4.7mである。埋土の残りは浅く、確認面から床面までの深さは10cmである。西壁を基準とした傾きはN-10°-Wである。

床面は硬く、炭化物の薄い堆積が部分的に検出さ

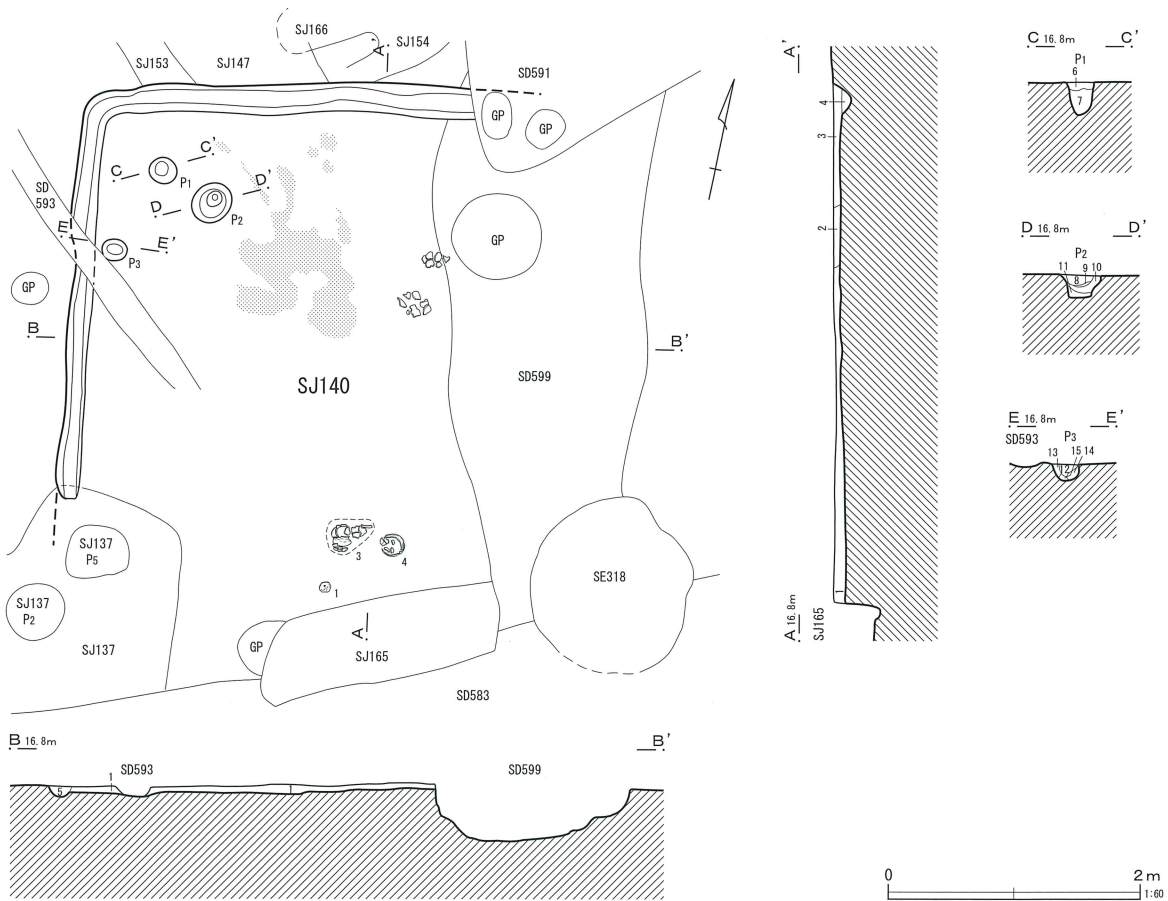
れた。

壁溝は検出された壁すべてに確認された。幅16~25cm、深さ5~12cmである。

ピットは北西コーナー付近に集中して3基検出された。いずれも小さく、その性格は不明である。ピットの深さはP1から順に26cm、18cm、13cmである。

出土遺物は多く、形となる土器が床面直上から出土している。土師器器台・台付甕などがある。

本住居跡の時期は下田町I期である。



第140号住居跡

- | | | |
|--------|----------|-------------------------|
| 1 灰色土 | N4/ | 地山ブロック (φ1~10mm) 多量 |
| 2 褐灰色土 | 10YR5/1 | 地山ブロック少量 |
| 3 黒褐色土 | 10YR3/1 | 地山ブロック・焼土粒子少量 炭化物含む |
| 4 黒色土 | 2.5Y2/1 | 地山ブロック少量 |
| 5 黒褐色土 | 7.5YR3/1 | 焼土ブロック多量 地山ブロック少量 炭化物含む |
- ピット1
- | | | |
|-----------|---------|---------------------|
| 6 オリーブ黒色土 | 5Y2/2 | 地山ブロック (φ1~20mm) 含む |
| 7 オリーブ黒色土 | 7.5Y2/2 | 地山ブロック (φ1~15mm) 多量 |

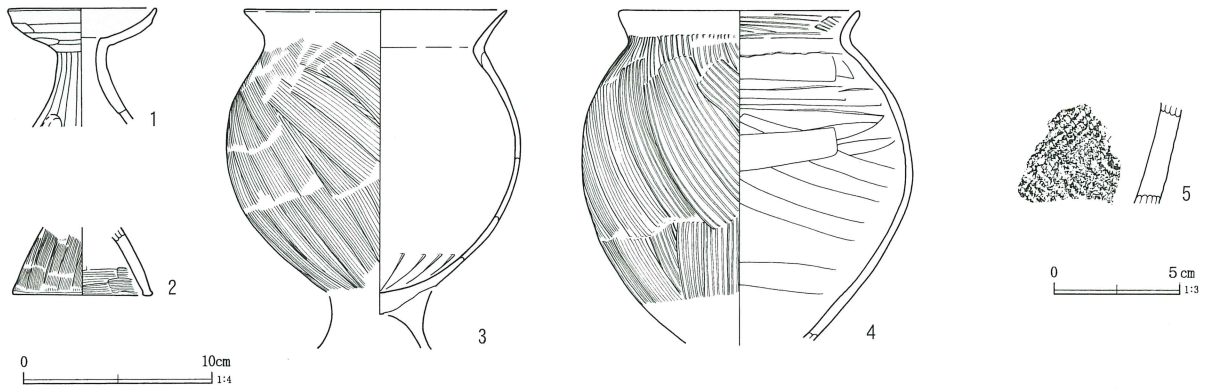
ピット2

- | | | |
|------------|---------|---------------------|
| 8 黒褐色土 | 2.5Y3/1 | 地山ブロック少量 炭化物含む |
| 9 黒色土 | N1.5/ | 炭化物含む |
| 10 オリーブ黒色土 | 7.5Y3/1 | 地山ブロック少量 炭化物含む |
| 11 灰オリーブ色土 | 7.5Y4/2 | 地山ブロック (φ1~10mm) 多量 |

ピット3

- | | | |
|------------|-------|----------|
| 12 オリーブ黒色土 | 5Y2/2 | 地山ブロック少量 |
| 13 オリーブ黒色土 | 5Y2/2 | 地山ブロック多量 |
| 14 灰オリーブ色土 | 5Y5/2 | 地山ブロック多量 |
| 15 オリーブ黒色土 | 5Y2/2 | 地山ブロック多量 |

第81図 第140号住居跡



第82図 第140号住居跡出土遺物

第141号住居跡 (第83・84図)

H・I—37・38グリッドに位置する。第113・118・121・138・139・159・160号住居跡、第592号溝跡と重複する。住居跡の切り合い関係は、第138・159号住居跡よりも古いが、他の住居跡との関係は明確に捉えられなかった。

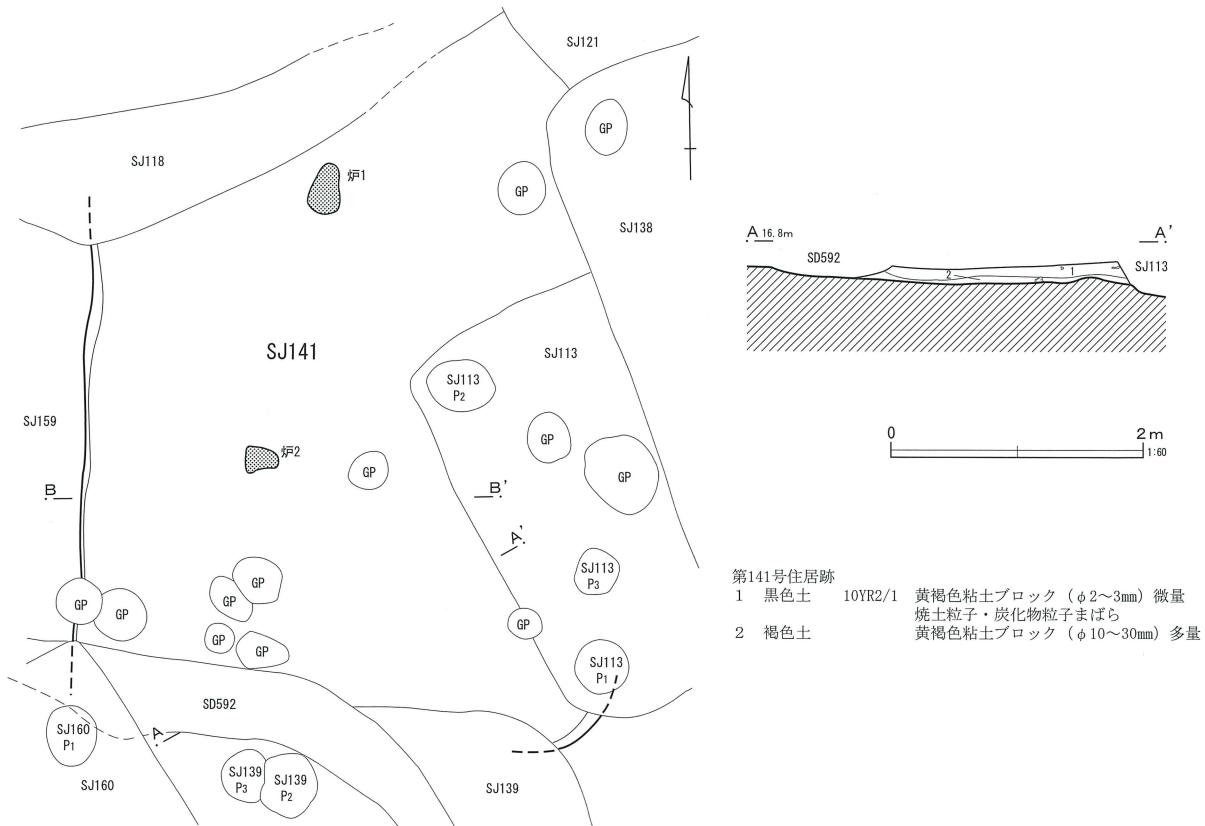
方形を呈すると考えられ、規模は推定で東西4.3m、南北の確認範囲は5.0mほどである。埋土の残り

は薄く、確認面から床面までの深さは15cmである。主軸方向はN—3°—Eである。

炉は2基検出された。いずれも床面が火床面となる。炉1は40×25cm、炉2は25×20cmの範囲に被熱面が確認された。その他の施設は検出されなかった。

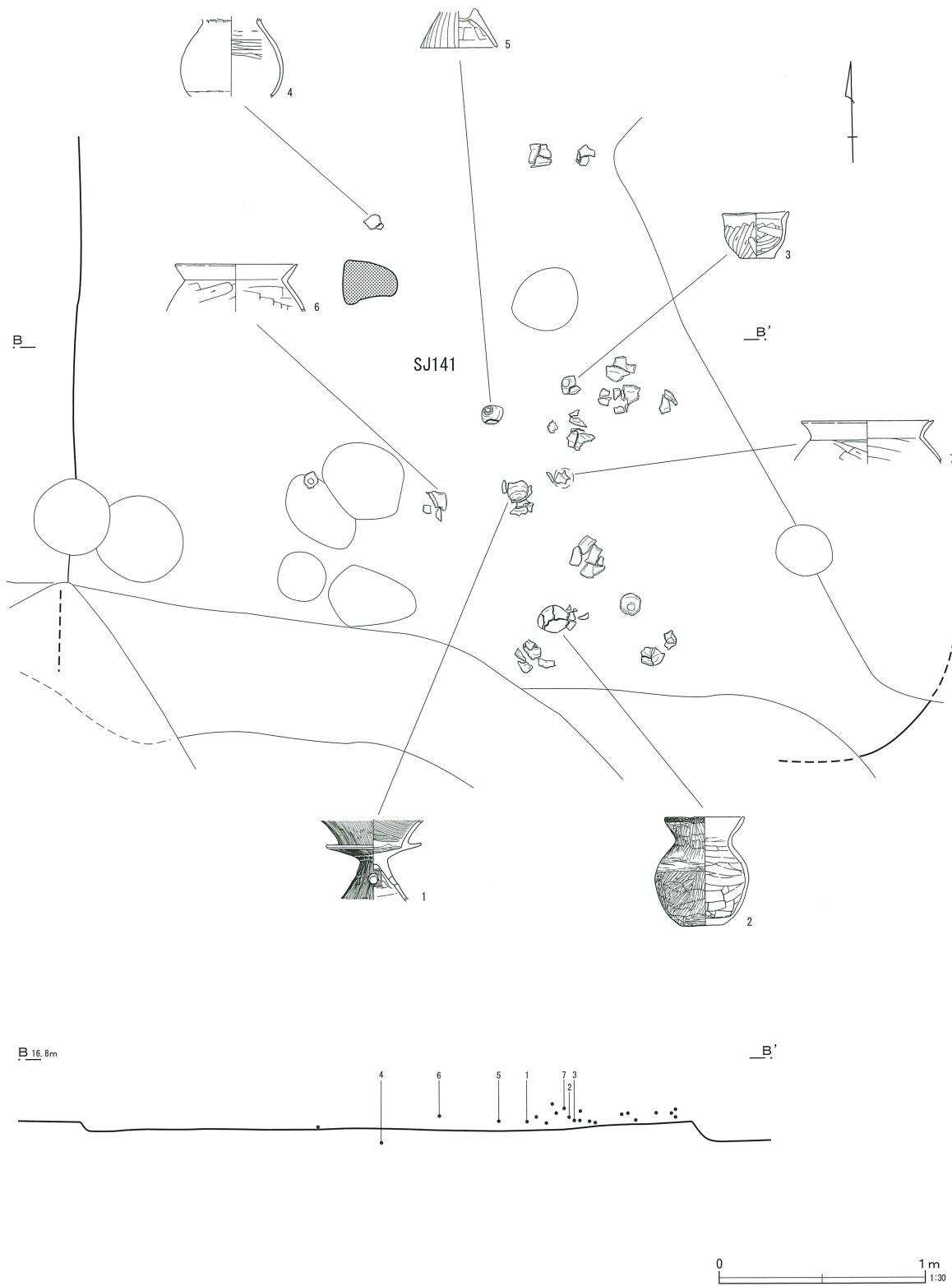
出土遺物は比較的多く、南半の床面から良好な状態で出土した。土師器高坏・壺・台付甕などがある。

本住居跡の時期は下田町I期である。

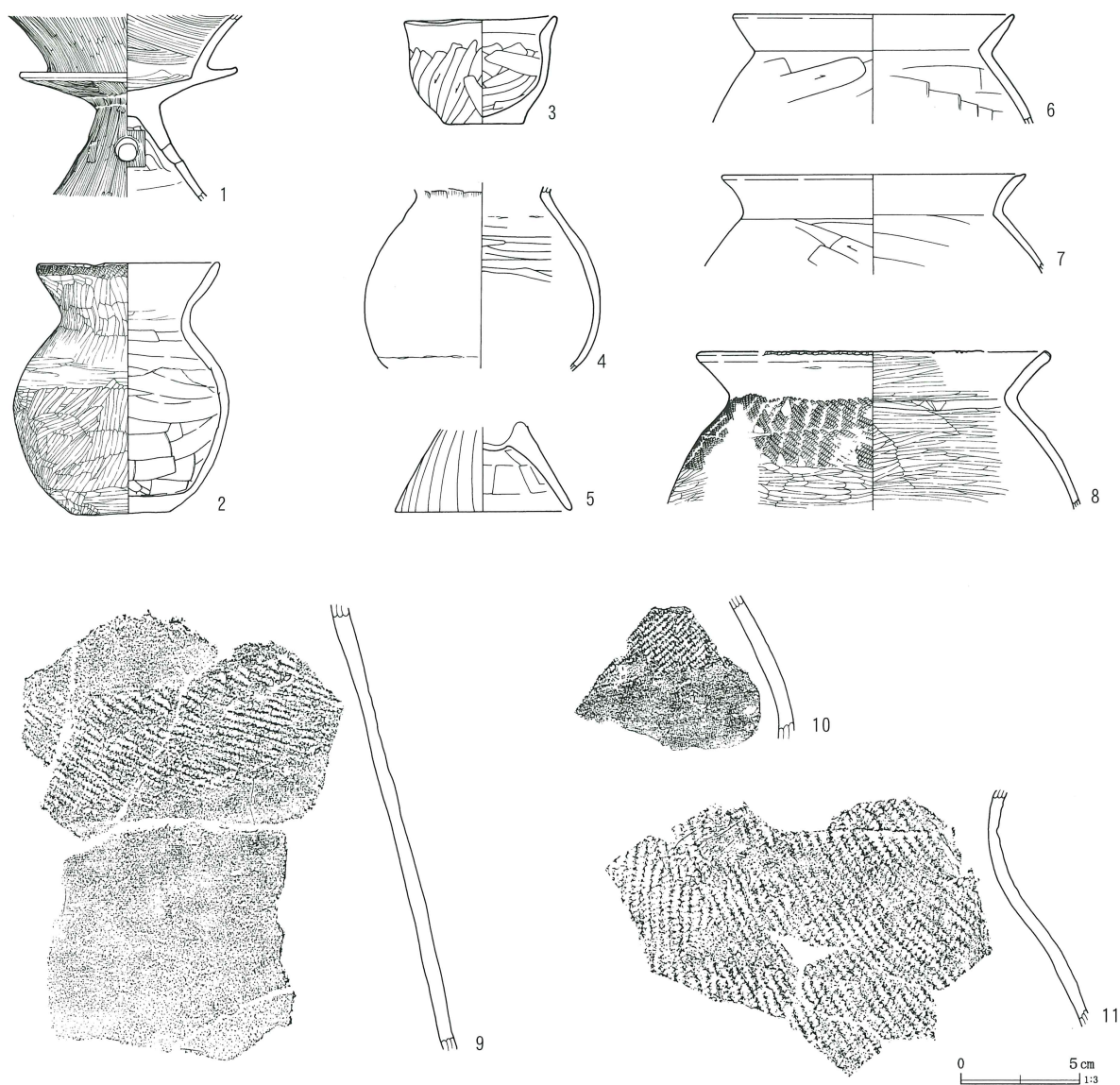


- 第141号住居跡
- 1 黑色土 10YR2/1 黄褐色粘土ブロック (φ2~3mm) 微量
焼土粒子・炭化物粒子まばら
 - 2 褐色土 黄褐色粘土ブロック (φ10~30mm) 多量

第83図 第141号住居跡



第84図 第141号住居跡遺物出土状況



第85図 第141号住居跡出土遺物

第142号住居跡 (第86図)

G-36、H-36・37グリッドに位置する。第114号住居跡の内側に入れ子状に検出された。北側は第584・586号溝跡が東西に切っている。

方形の住居跡で、規模は東北-西南4.5m、南北はおよそ4.0mになると推定される。埋土はたいへん浅く、ほとんど残っていない。確認面から床面までの深さはもっとも深いところで6cmである。南東壁を基準とした傾きはN-37°-Wである。

貯蔵穴は北東コーナーに設けられている。形状は円形で、やや底に丸みを帯びたバケツ状の掘り込み

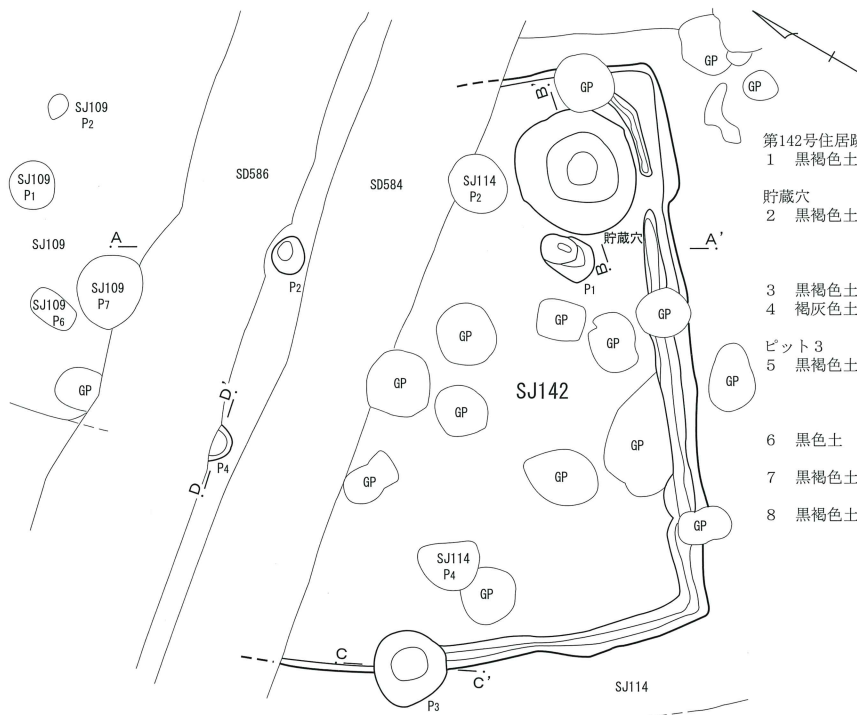
である。規模は100×92cm、深さは48cmである。

壁溝は南東壁を中心に検出された。幅12~22cm、深さ3~10cmである。

本住居跡に伴うと考えられるピットは4基である。その性格は不明であるが、P3の埋土中からは、残りの良好な土器が出土した。ピットの深さはP1から順に55cm、45cm、37cm、13cmである。

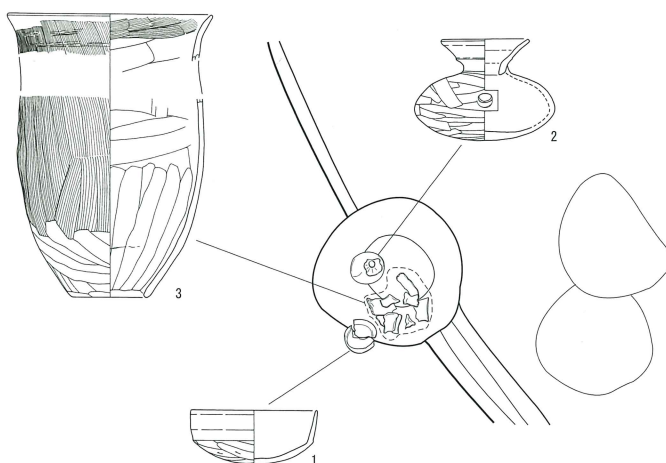
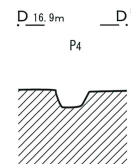
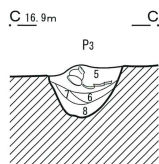
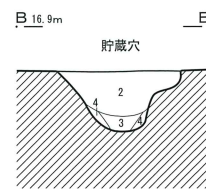
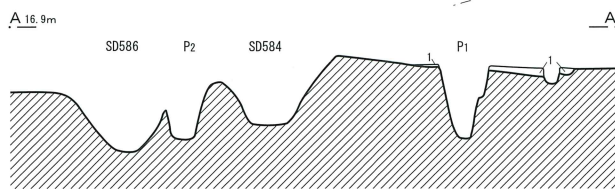
埋土からの出土遺物はほとんど破片で、図化したものはすべてP3から出土した土器である。土師器 坏・甗・甑がある。

本住居跡の時期は下田町IV期である。

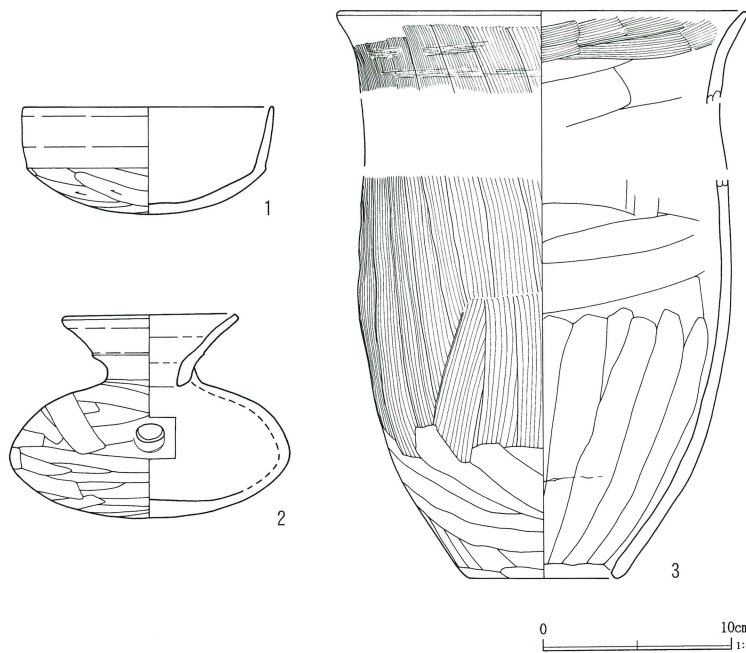


第142号住居跡

- | | | | |
|------|------|---------|--|
| 1 | 黒褐色土 | 10YR3/1 | ロームブロック (φ10~30mm) 少量 しまり・粘性ややあり |
| 貯蔵穴 | | | |
| 2 | 黒褐色土 | 10YR3/2 | ロームブロック (φ10~80mm) ・ローム粒子 (φ1~5mm) ・焼土粒子 (φ1~5mm) 少量 しまりあり 粘性ややあり 底に薄く炭化物層 |
| 3 | 黒褐色土 | 10YR3/1 | しまり弱 粘性あり |
| 4 | 褐灰色土 | 10YR4/1 | ローム粒子 (φ1~3mm) 少量 しまり・粘性ややあり |
| ピット3 | | | |
| 5 | 黒褐色土 | 10YR3/2 | ロームブロック (φ10~30mm) 少量 ローム粒子・焼土粒子・炭化物極微量 しまりあり 粘性ややあり |
| 6 | 黒色土 | 10YR2/1 | 焼土粒子 (φ1~5mm) 少量 しまり・粘性弱 |
| 7 | 黒褐色土 | 10YR3/2 | ロームブロック主体 (φ10~30mm) しまり・粘性ややあり |
| 8 | 黒褐色土 | 10YR3/2 | しまり弱 粘性ややあり 均一の色調で混じりけも少ない |



第86図 第142号住居跡



第87図 第142号住居跡出土遺物

第143号住居跡 (第89図)

H・I-36グリッドに位置する。第169号住居跡、第584・586・595・597号溝跡、第322号井戸跡と重複する。切り合い関係は第169号住居跡よりも新しく、他の遺構よりも古い。

形状は方形で、規模は東西5.4m、南北5.3mである。溝跡の南側では、埋土中位に炭化物の薄い層が堆積し、部分的に集中する箇所が検出された。被熱面がみられないことから、住居が廃絶され、ある程度埋没した後に廃棄されたものと推定される。確認面から床面までの深さは16cmである。西壁を基準とした傾きはN-30°-Wである。

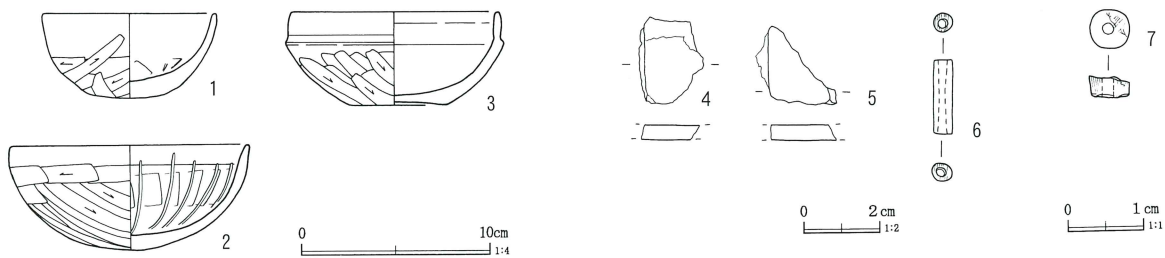
床面は中央付近に貼床があり、全体的に硬く踏みしめられている。

壁溝は途切れて検出され、総じて浅い。北コーナーは壁の内側を大きく巡り、テラス状になっている。幅12~20cm、深さ2~6cmである。

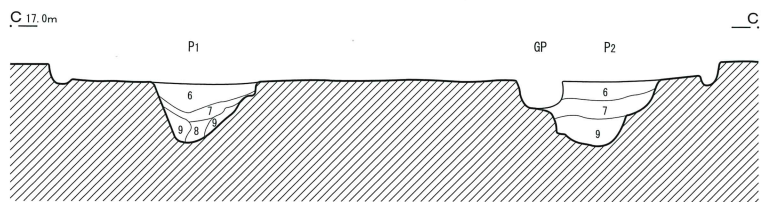
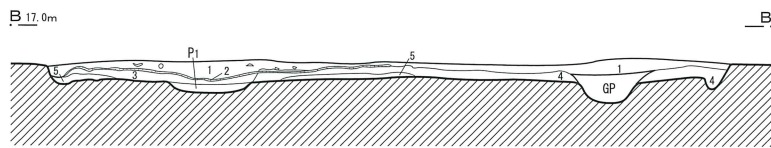
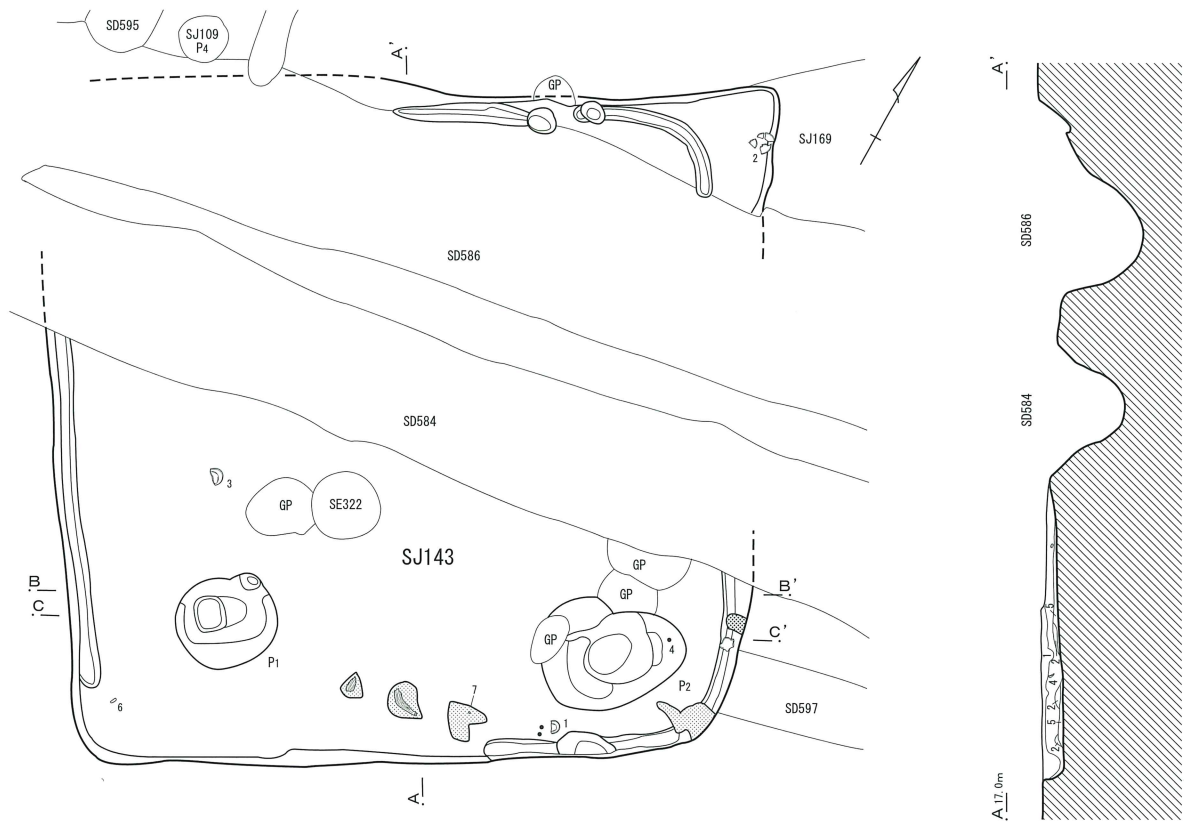
ピットは2基検出された。P1には柱痕が確認され、ともに柱穴と判断される。4本柱穴のうち、北側の列は溝跡によって壊されたものと考えられる。ピットの深さはP1から順に45cm、50cmである。

出土遺物は少なく、図示した土器は土師器坏である。このほかに玉類や鉄製品が出土している。

本住居跡の時期は下田町V期である。



第88図 第143号住居跡出土遺物



第143号住居跡

- 1 褐灰色土 7.5YR4/1 焼土粒子 (φ1~3mm) 少量 しまりあり 粘性ややあり
- 2 炭化物層
- 3 褐灰色土 7.5YR3/1 焼土粒子 (φ1~3mm) 少量 炭化物極少量 しまり・粘性ややあり
- 4 黒褐色土 10YR3/2 ロームブロック (φ10~30mm) 少量 しまりあり 粘性ややあり
- 5 黒褐色土 10YR3/2 ロームブロック (φ10~50mm) 少量 しまり・粘性ややあり(貼床)
- ビット1・2
- 6 黒褐色土 10YR3/2 ロームブロック (φ10~30mm) ・焼土粒子 (φ1~5mm) 少量 しまりあり 粘性ややあり
- 7 黒褐色土 10YR3/1 しまりややあり 粘性あり
- 8 黒褐色土 10YR3/1 しまり弱 粘性あり 粘質土層(柱痕)
- 9 黒褐色土 10YR3/1 ローム粒子 (φ1~3mm) 多量 しまり弱 粘性強(埋土)



第89図 第143号住居跡

第144号住居跡 (第90図)

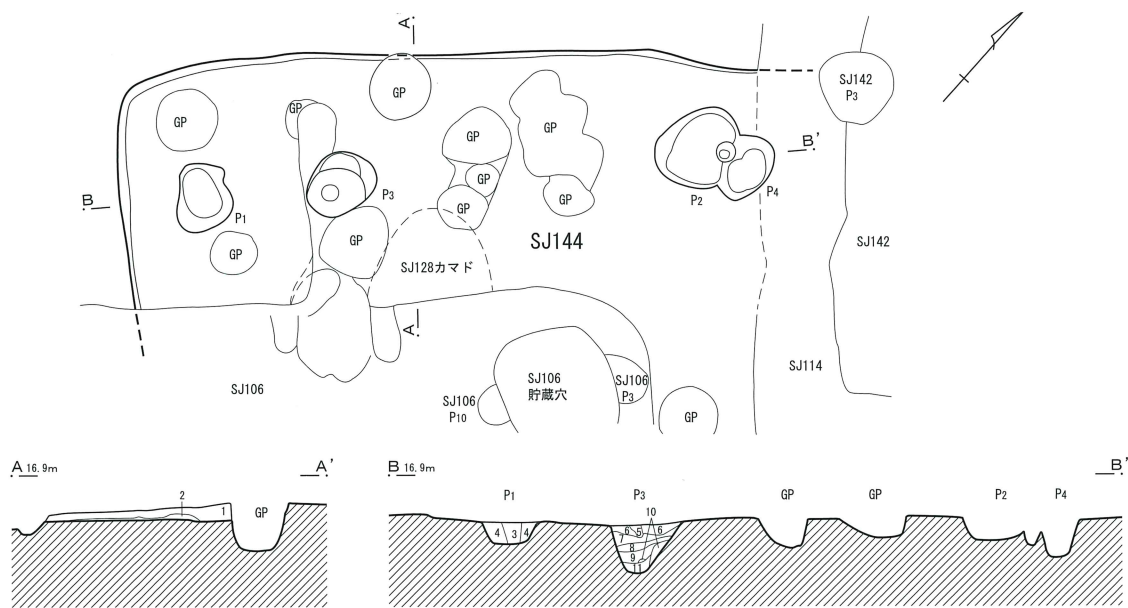
G-36・37グリッドに位置する。第106・114・128号住居跡と重複する。切り合う住居跡のなかではもっとも古い。

検出されたのは南西コーナーを中心とした範囲で、東北-西南は5.1m、南東-北西は2.0mまで検出された。埋土は薄く、確認面から床面までの深さは14cmである。南西壁を基準とした傾きはN-43°-Wである。

本住居跡に属するピットの可能性のあるものは4基である。断面が観察できたピットでも柱痕は確認されなかった。ピットの深さはP1から順に16cm、17cm、37cm、29cmである。

出土遺物は少ない。すべて破片で、図示できる遺物はなかった。

本住居跡の時期は不明であるが、他遺構との切り合い関係や、調査時の所見から、古墳時代前期に属するものと推定される。



第144号住居跡			
1	にぶい黄褐色土	10YR4/3	ローム粒子多量 しまりあり 粘性弱い
2	暗褐色土	10YR3/4	ロームブロック (φ10~20mm) 少量 ローム粒子含む しまりややあり 粘性弱い
ピット 1			
3	暗褐色土	10YR3/3	ローム粒子 (φ10mm) 少量 しまりあり
4	黒褐色土	10YR3/2	ロームブロック (φ30mm) 多量 しまりあり
ピット 3			
5	黒褐色土	7.5YR3/2	上部にロームブロック含む 比較的硬い
6	黄褐色土	10YR7/8	ロームの層で比較的硬い
7	にぶい黄褐色土	10YR4/3	ロームブロックを全体の約半分を占めている
8	黄褐色土	7.5YR8/8	全体がロームの層で成り立っている
9	黒褐色土	7.5YR2/2	部分的にロームブロック含む 面積割合15%程 比較的柔らかい層である
10	橙色土	7.5YR6/6	全体的にロームの層である
11	浅黄褐色土	7.5YR8/4	比較的柔らかい 全体的にロームが広がっている

第90図 第144号住居跡

第145号住居跡 (第91図)

J・K-36グリッドに位置する。第133・135号住居跡を切る。第598号溝跡、第307号井戸跡と重複する。南東側の立ち上がりは明確にできなかった。

形状は方形で、規模は東北-西南は3.5m、南東-北西は少なくとも4.5m程は延びると考えられ

る。確認面から床面までの深さは21cmである。埋土の基本は一層で、短期間に埋没した状況を示す。北東側にも共通する埋土が延びており、住居の壁が崩落した後に埋没したと考えられる。北西壁を東西の基準とした傾きはN-46°-Wである。

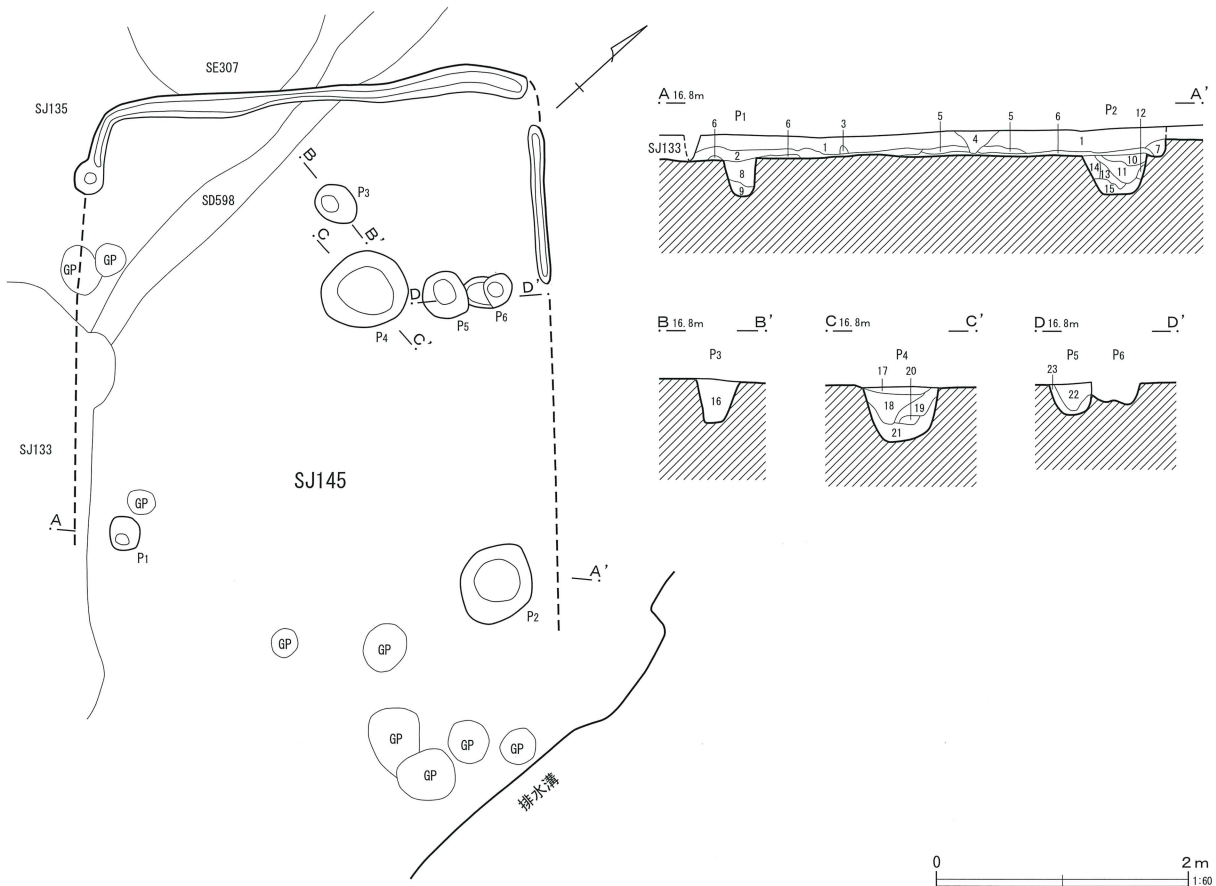
壁溝は北西側で検出された。幅10~20cm、深さは

浅く2~6cmである。

ピットは6基を認定した。柱穴の可能性もあるが、性格は不明である。ピットの深さはP1から順に29cm、31cm、35cm、42cm、25cm、17cmである。

出土遺物は破片が多い。図化したものは緑釉陶器
埴、灰釉陶器埴、須恵器坏、土師器坏・甕などである。土器以外には椀型滓が出土している。

本住居跡の時期は下田町Ⅲ期である。



第145号住居跡

- | | | |
|--------|----------|---|
| 1 黒色土 | 5YR1.7/1 | 地山ブロック (φ1~30mm) 含む 焼土ブロック (φ1~5mm)・炭化物少量 |
| 2 褐灰色土 | 10Y4/1 | 地山ブロック (φ1~10mm)・鉄分含む 焼土ブロック少量 |
| 3 暗灰色土 | N3/0 | 炭化物少量 |
| 4 黒色土 | N2/0 | 焼土ブロック微量 鉄分含む |
| 5 灰色土 | 5Y5/1 | 地山ブロック (φ1~5mm)・鉄分含む 焼土ブロック微量 |

ピット1

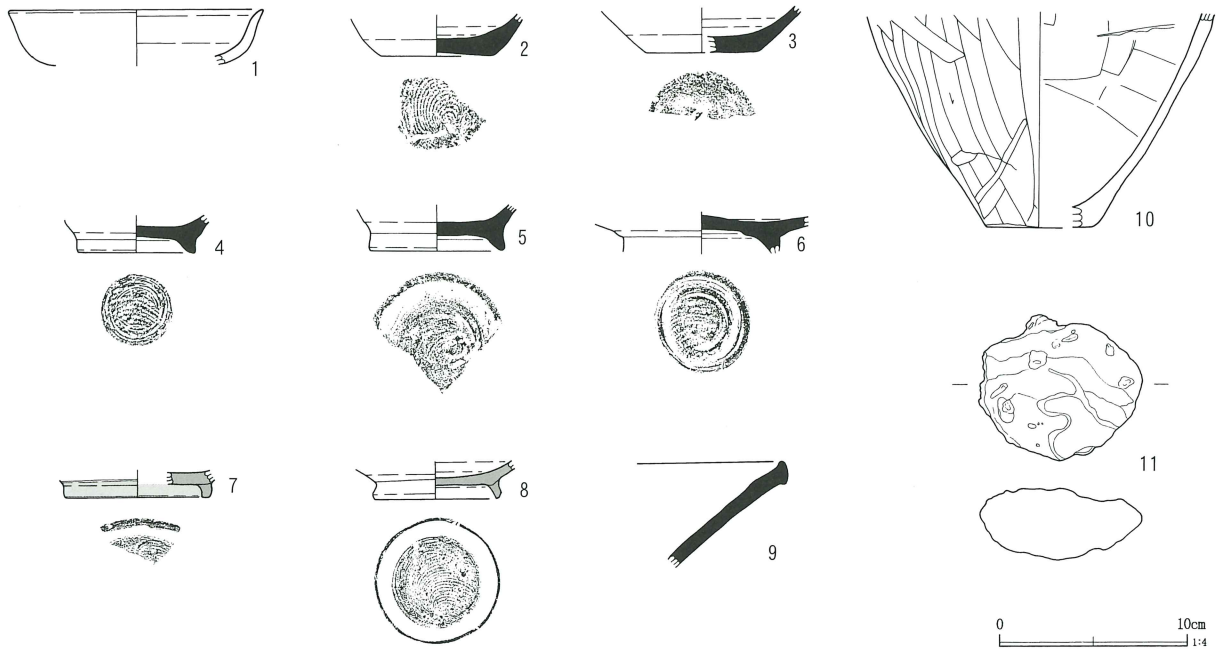
- | | | |
|--------|----------|---|
| 7 黒色土 | 7.5YR2/1 | ローム粒子微量 炭化物含む |
| 8 黒色土 | 7.5Y2/1 | 地山ブロック (φ1~25mm) 含む 焼土ブロック (φ1~10mm) 少量 炭化物含む |
| 9 暗灰色土 | N3/0 | 地山ブロック (φ1~20mm) 含む 焼土ブロック少量 |

ピット2

- | | | |
|---------|-------|-----------------------------------|
| 10 黒褐色土 | | 地山ブロック少量 炭化物・鉄分含む |
| 11 灰色土 | 5Y4/1 | 地山ブロック (φ1~10mm) 含む 焼土ブロック微量 鉄分多量 |

- | | | |
|------------|---------|----------------------------------|
| 12 オリーブ黒色土 | | 炭化物少量 |
| 13 黒色土 | 10Y2/1 | 地山ブロック (φ1~5mm) 含む 焼土ブロック微量 鉄分多量 |
| 14 オリーブ黒色土 | | 炭化物少量 |
| 15 黒褐色土 | 2.5Y2/1 | 地山ブロック (φ1~15mm) 含む 焼土ブロック微量 |
| ピット3 | | |
| 16 黒褐色土 | 10YR2/2 | 黄褐色土ブロック混入 |
| ピット4 | | |
| 17 黒褐色土 | 10YR2/2 | 地山ブロック (φ1~20mm)・炭化物含む |
| 18 黒褐色土 | 2.5Y3/1 | 地山ブロック (φ1~30mm)・焼土ブロック少量 炭化物含む |
| 19 オリーブ黒色土 | 5Y2/2 | 地山ブロック少量 焼土ブロック微量 |
| 20 黒色土 | N1.5/0 | 焼土ブロック少量 炭化物層 |
| 21 黒色土 | 7.5Y2/1 | 地山ブロック (φ1~20mm)・焼土ブロック少量 |
| ピット5 | | |
| 22 黒褐色土 | 10YR2/2 | 地山ブロック (φ1~10mm) 多量 炭化物含む |
| 23 黒褐色土 | 2.5Y3/2 | 地山ブロック (φ1~20mm) 多量 |

第91図 第145号住居跡



第92図 第145号住居跡出土遺物

第146号住居跡 (第94図)

I-36、J-35・36グリッドに位置する。第135・156・157号住居跡、第584・586・587・589・597・598号溝跡、第564号土坑、第303号井戸跡と重複する。住居跡の切り合い関係は、第135号住居跡よりも古く、第157号住居跡よりも新しい。第156号住居跡との関連は把握できなかった。

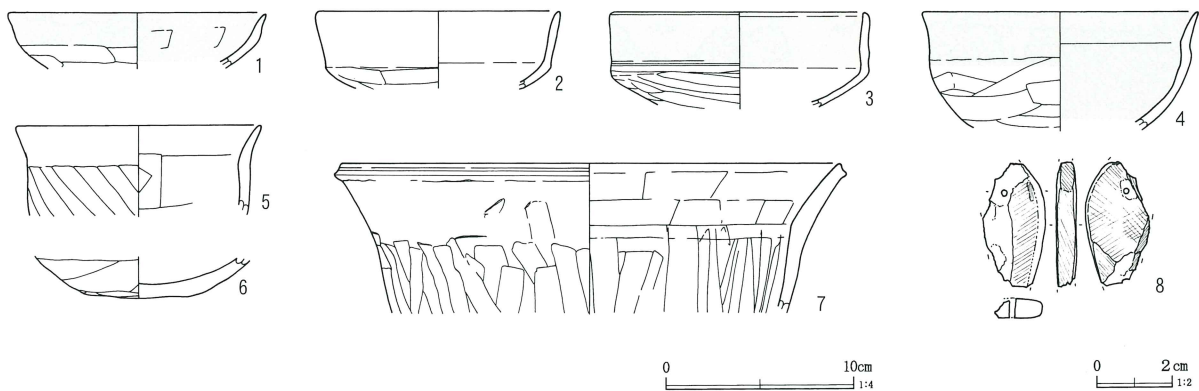
形状は方形で、規模は南西-北東は8.3m、東南-西北は5.3mまで確認された。中央を2条の溝跡に横断されているため、埋土の残りは少ない。確認面から床面までの深さは、深いところで22cmである。北西壁を基準とした傾きはN-42°-Eである。

床面は、検出された範囲では貼床が認められる。壁溝は部分的に検出された。幅12~25cm、深さ6~10cmである。なお、カマドは検出されなかった。

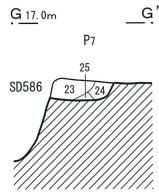
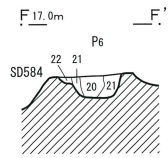
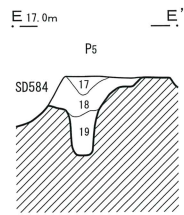
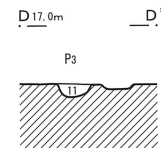
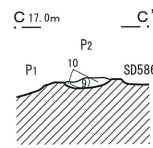
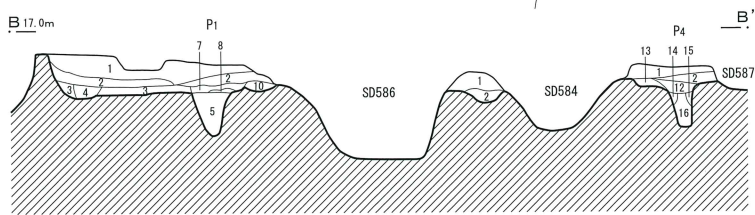
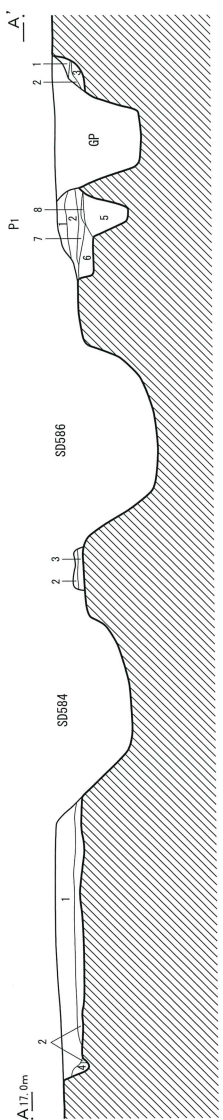
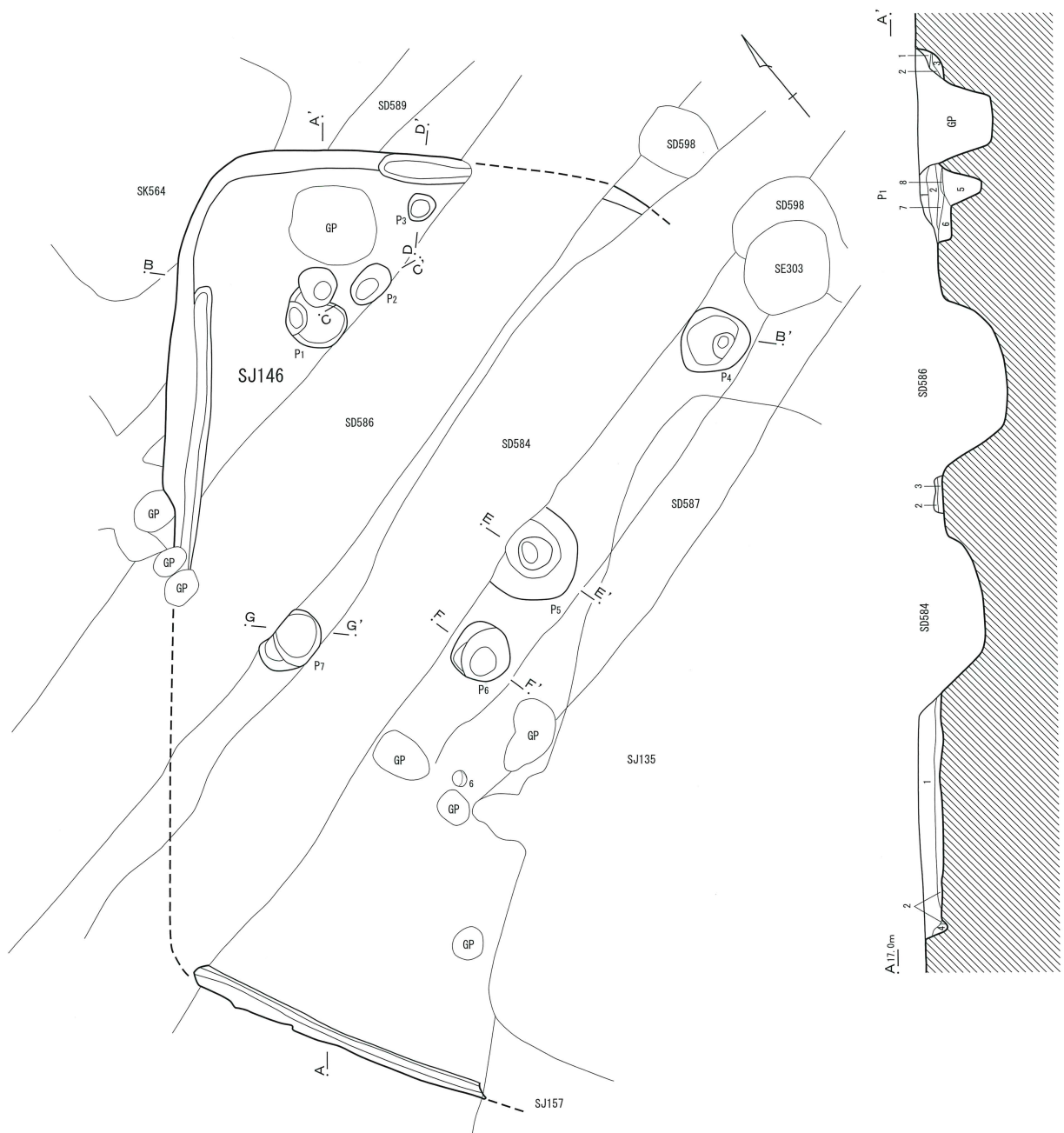
本住居跡に帰属するピットは7基と考えられる。P1・4・5は柱穴の可能性はある。ピットの深さはP1から順に33cm、8cm、10cm、27cm、63cm、18cm、16cmである。

出土遺物は少なく、いずれも破片である。図示したものは土師器坏・甕などがある。また、埋土中から剣形石製模造品が出土している。

本住居跡の時期は下田町V期である。



第93図 第146号住居跡出土遺物



第94图 第146号住居跡

第146号住居跡		
1 暗褐色土	7.5YR3/3	黄褐色土ブロック (φ2~15mm) 少量 焼土粒子 (φ1~18mm) 極少量
2 暗褐色土	7.5YR3/4	黄褐色土ブロック多量 焼土粒子 (φ1~14mm) 極少量
3 暗褐色土	10YR3/3	黄褐色土ブロック多量 暗褐色土 (7.5YR3/4) 斑 (貼床)
4 黒褐色土	10YR2/3	黄褐色土ブロック (φ2~9mm) 極少量
ピット1		
5 黒色土	10YR2/1	地山ブロック (φ1~15mm) 含む 焼土ブロック 微量 炭化物少量
6 黒色土	2.5Y2/1	地山ブロック (φ1~30mm) 含む 炭化物多量
7 灰黄褐色土	10YR5/2	黄褐色土ブロック (φ1~43mm) 極少量
8 灰黄褐色土	10YR4/2	黄褐色土ブロック (φ1~5mm) 少量
ピット2		
9 黒色土	10YR1.7/1	焼土ブロック (φ5~10mm) 含む 炭化物多量
10 暗灰黄色土	2.5Y4/2	地山ブロック多量
ピット3		
11 黒色土	2.5Y1.2/1	地山ブロック (φ1~25mm) 多量 炭化物少量

ピット4		
12 黒褐色土	7.5YR3/1	地山ブロック (φ1~10mm) ・焼土粒子・炭化物 含む
13 黒褐色土	7.5YR3/1	地山ブロック多量
14 黒褐色土	10YR3/2	地山ブロック (φ1~10mm) 多量 焼土含む
15 黒褐色土	10YR3/1	地山ブロック (φ1~30mm) 多量 焼土多量
16 黒色土	10YR2/1	炭化物含む
ピット5		
17 黒褐色土	7.5YR3/1	地山ブロック (φ1~30mm) 多量 炭化物含む
18 黒褐色土	10YR3/2	地山ブロック少量 焼土ブロック微量 炭化物 含む
19 黒色土	10YR2/1	地山ブロック (φ1~5mm) 少量 炭化物含む
ピット6		
20 黒褐色土	7.5YR3/1	地山ブロック (φ1~10mm) ・焼土ブロック含む
21 黒褐色土	7.5YR2/2	焼土ブロック (φ1~5mm) 多量 炭化物含む
22 黒褐色土	2.5YR3/1	地山ブロック・炭化物含む
ピット7		
23 黒褐色土	10YR3/2	焼土粒子・炭化物含む
24 黒褐色土	7.5YR3/1	地山ブロック多量 炭化物含む
25		地山ブロック

第147号住居跡 (第96図)

I・J-37グリッドに位置する。第133・134・135・140・153・154・166号住居跡、第591号溝跡と重複する。住居跡の切り合い関係は、第133・166住居跡よりも古く、第134・140・154号住居跡より新しい。第135・153号住居跡との関連は不明である。

形状は方形を呈し、規模は南東一北西5.4m、北西壁は4.5mまで検出した。確認面から床面までの深さは16cmである。南西壁を基準とした傾きはN-37°-Wである。

壁溝は検出された壁すべてに巡っており、掘り方は明瞭である。幅20~48cm、深さ5~11cmである。同様の溝が北西一南東壁と平行に、壁からの距離がほぼ等間隔に検出された。仕切りの痕跡と考えられる。壁溝以外の施設は検出されなかった。

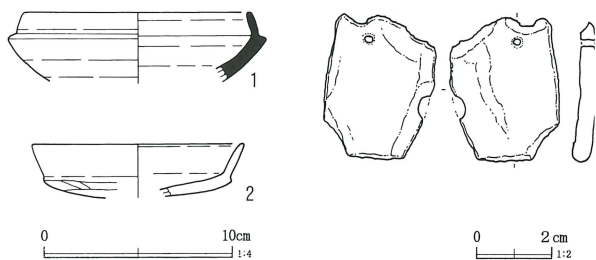
出土遺物は破片で、須恵器環、土師器環などがある。土器以外には石製模造品の破片がある。

本住居跡の時期は下田町IX期である。

第148号住居跡 (第97図)

I-35・36グリッドに位置する。第169号住居跡、第585・586・589号溝跡、第566号土坑、第304号井戸跡と重複する。住居跡の切り合い関係は、第169号住居跡よりも新しい。

溝跡に両側を切られ、カマドを含む中央部が帯状に残る住居跡である。規模は東西5.2m、南北は2.5mの範囲が検出された。埋土も切り合いのため部分



第95図 第147号住居跡出土遺物

的にしか残っていない。確認面から床面までの深さは17cmである。主軸方向はN-70°-Eである。

カマドは東壁に設けられている。燃焼部の掘り込みはほとんどなく、煙道を含めた長さは85cm、幅50cmである。袖は粘土で構築され、袖の内壁と火床面はよく焼けている。粘土を円錐形に固めただけの土製支脚が北側寄りに、斜めに立って検出された。

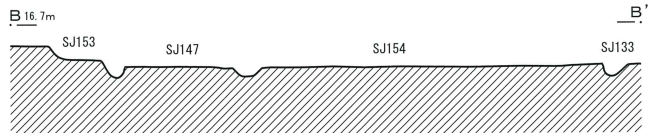
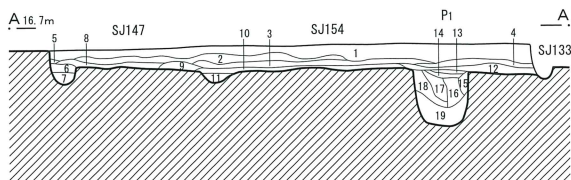
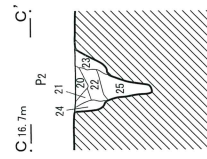
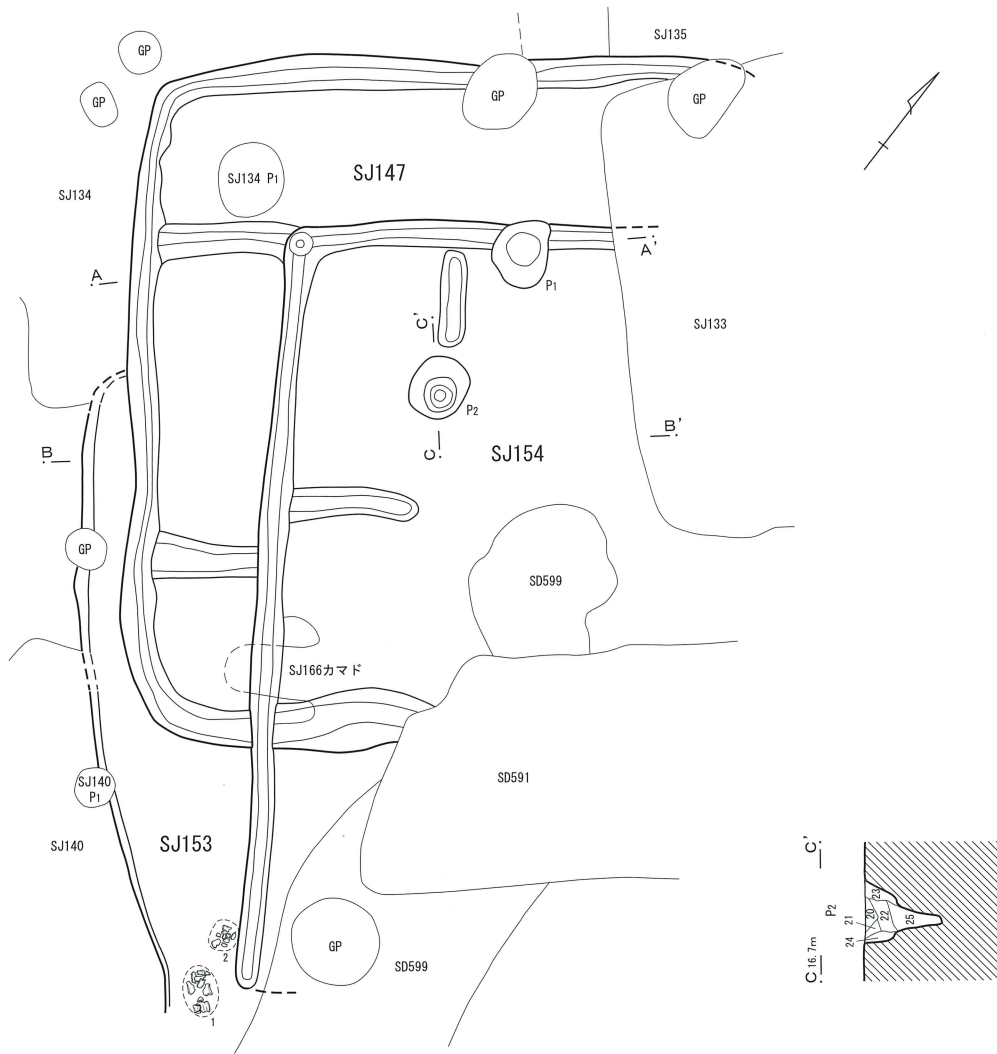
貯蔵穴はカマドの右に設けられている。形状は円形で、掘り込みは浅い。規模は72×70cm、深さは21cmである。

壁溝は西壁で検出された。幅11~24cm、深さ4~7cmである。

ピットは5基検出された。P2・4には柱痕が確認された。ピットの深さはP1から順に11cm、40cm、17cm、20cm、16cmである。

出土遺物の量は少なく、接合率も低い。貯蔵穴から土師器甕が出土している。

本住居跡の時期は下田町VIII期である。



第147号住居跡

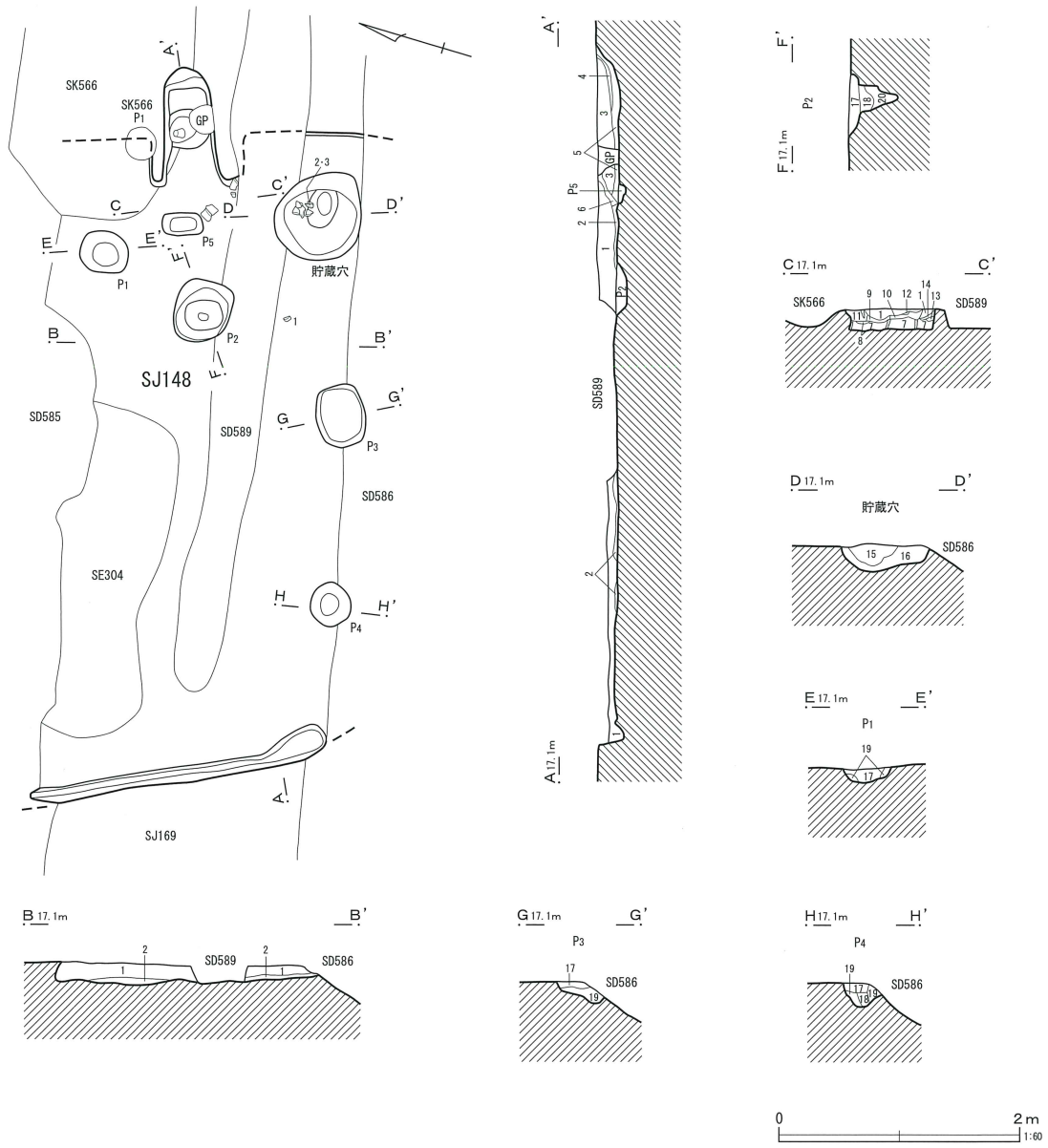
1 暗灰色土	N3/0	地山ブロック (φ1~20mm) 含む 焼土ブロック少量
2 黒褐色土	2.5Y3/2	地山ブロック・焼土ブロック含む
3 オリーブ黒色土	5Y2/2	地山ブロック (φ1~5mm) 多量 焼土ブロック (φ1~5mm) 少量
4 灰色土	5Y4/1	地山ブロック (φ1~20mm) 含む 焼土ブロック少量
5 黒褐色土	2.5Y3/1	地山ブロック少量
6 黒色土	2.5Y2/	地山ブロック少量
7 黒色土	7.5Y2/1	地山ブロック (φ1~20mm) 多量 鉄分含む
8 灰色土	N4/0	地山ブロック (φ1~5mm) 含む
9 暗灰色土	N3/0	地山ブロック少量 炭化物多量

第154号住居跡

10 黒褐色土	10YR3/1	地山ブロック (φ1~5mm) ・鉄分含む
11 黒色土	5Y2/1	地山ブロック (φ1~5mm) ・鉄分含む
12 黒褐色土	2.5Y3/1	地山ブロック (φ1~10mm) 含む 焼土ブロック微量

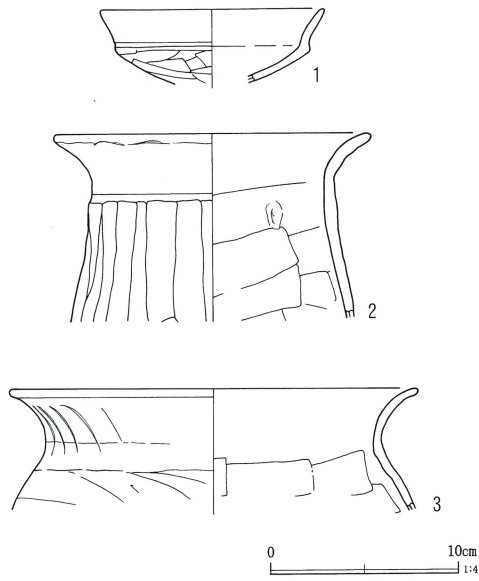
ピット1		
13 黒褐色土	10YR3/1	地山ブロック (φ1~5mm) 含む
14 黒褐色土	10YR3/1	地山ブロック (φ1~10mm) 含む
15 灰オリーブ色土	5GY5/3	地山ブロック多量
16 黒褐色土	2.5Y3/1	地山ブロック (φ1~25mm) 多量
17 オリーブ黒色土	5Y3/2	地山ブロック (φ1~30mm) 多量
18 黒色土	10Y2/1	地山ブロック (φ1~10mm) 含む 炭化物微量
19 黒色土	10Y2/1	地山ブロック (φ1~20mm) 含む
ピット2		
20 黒褐色土	2.5Y3/1	地山ブロック (φ1~10mm) ・焼土ブロック少量 炭化物粒子多量
21 黒褐色土	10YR3/1	地山ブロック (φ1~15mm) 焼土ブロック少量 炭化物粒子含む
22 黒色土	2.5Y2/1	地山ブロック少量 焼土ブロック微量 炭化物粒子含む
23 灰白色土	7.5Y7/1	地山ブロック含む (崩落土)
24 黒褐色土	2.5Y3/1	地山ブロック多量
25 黒色土	5Y2/1	地山ブロック少量 炭化物粒子含む

第96図 第147・153・154号住居跡

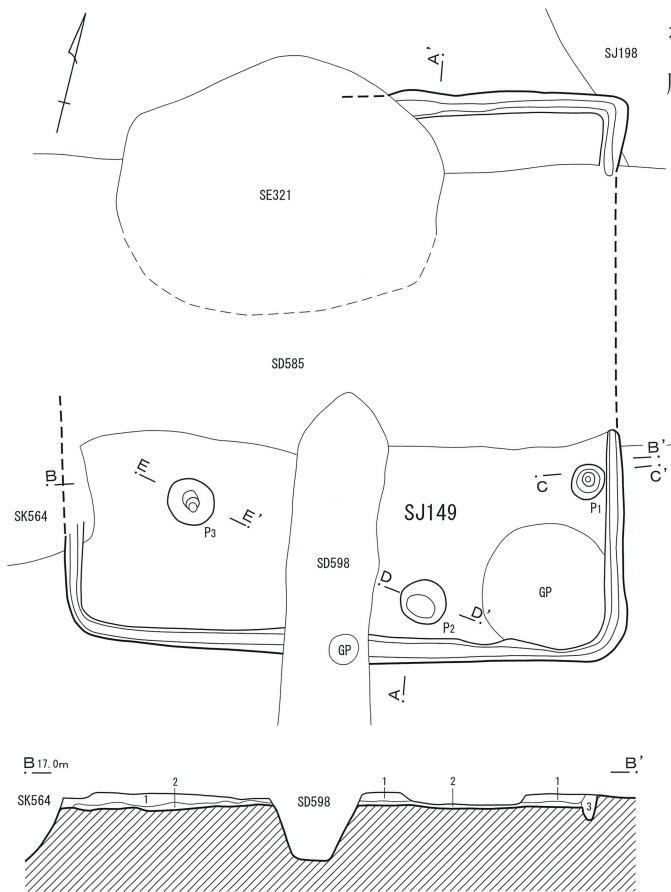


第148号住居跡			
1	黒褐色土	7. 5YR3/1	焼土粒子 (φ1~5mm) 少量 しまりあり 粘性ややあり
2	黒褐色土	10YR3/2	ロームブロック主体 (φ10~30mm) しまりややあり 粘性あり
カマド			
3	にぶい黄褐色土	10YR4/3	黄褐色粘土ブロック (φ3~5mm) 多量 焼土ブロック (φ5~8mm) 多量
4	にぶい黄褐色土	10YR4/3	焼土ブロック (φ5~8mm) 多量
5	黒褐色土	10YR3/2	焼土ブロック (φ5~8mm) 少量
6	褐灰色土	10YR4/1	焼土ブロック (φ5~8mm) 少量
7	暗褐色土	10YR3/3	地山ブロック (φ1~5mm) 多量 焼土ブロック (φ1~5mm)・炭化物含む
8	オリーブ黒色土	5GY2/1	焼土ブロック・炭化物含む
9	灰色土	5Y4/1	焼土粒子微量 炭化物少量
10	黒色土	5Y2/1	焼土ブロック (φ1~5mm) 少量 炭化物含む
11	黒褐色土	2. 5Y3/1	地山ブロック (φ1~5mm) 含む 焼土ブロック・炭化物少量
12	灰色土	5Y4/1	焼土粒子微量 炭化物含む
13	灰色土	5Y4/1	炭化物少量
14	黒褐色土		地山ブロック多量 焼土ブロック少量
15	灰黄褐色土	10YR4/2	ロームブロック (φ10~20mm) 少量 炭化物粒子 (φ10~20mm) 少量 しまりあり 粘性弱い
16	灰黄褐色土	10YR4/2	ロームブロック (φ10~30mm) 少量 しまりあり 粘性ややあり
ピット 1~4			
17	黒褐色土	10YR3/2	ロームブロック (φ10~20mm) 少量 しまりあり 粘性ややあり
18	黒褐色土	10YR3/2	ローム粒子 (φ1~5mm) 少量 しまりあり 粘性ややあり (柱痕か)
19	黒褐色土	10YR3/2	ローム粒子 (φ1~5mm) 少量 しまりあり 粘性ややあり
20	黒褐色土	10YR3/1	しまり弱い 粘性あり (柱痕か)

第97図 第148号住居跡



第98図 第148号住居跡出土遺物



第149号住居跡

- | | | |
|--------|---------|--|
| 1 黒色土 | 7.5Y2/1 | 地山ブロック・焼土ブロック (φ1~5mm) 少量 炭化物微量 |
| 2 黒色土 | 10Y2/1 | 地山ブロック少量 焼土ブロック (φ1~5mm) 多量 炭化物微量 |
| 3 黒褐色土 | 2.5Y2/1 | 地山ブロック少量 焼土ブロック (φ1~5mm) 多量 |
| 4 黒褐色土 | 10Y3/1 | 地山ブロック (φ1~5mm)・焼土ブロック (φ1~10mm)・炭化物含む |
| 5 黒色土 | 2.5Y2/1 | 地山ブロック・炭化物少量 焼土ブロック (φ1~5mm) 含む |

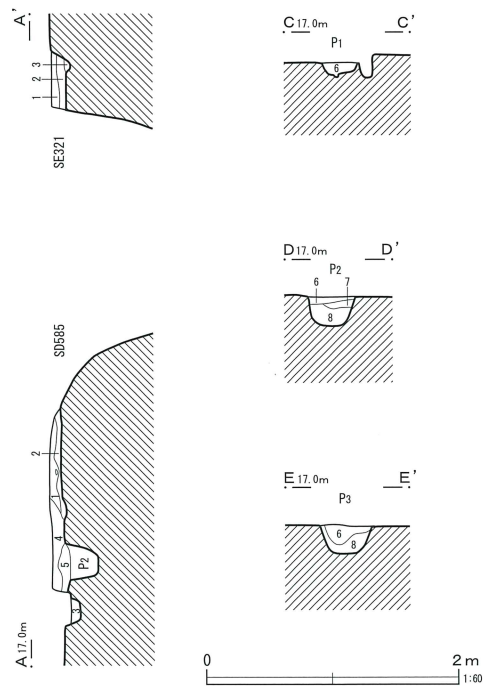
第149号住居跡 (第99図)

J-35グリッドに位置する。第198号住居跡、第585・598号溝跡、第564号土坑、第321号井戸跡と重複し、そのすべてに切られている。

形状はほぼ正方形を呈し、規模は東西4.4m、南北4.5mである。溝跡と井戸跡によって大きく削平され、確認された範囲は全体の約1/3である。埋土の状況は自然堆積を示している。確認面から床面までの深さは13cmである。東壁を基準とした傾きはN-12°-Wである。

壁溝は検出された壁すべてに設けられ、幅10~20cm、深さ2~10cmである。

ピットは3基検出された。配置は不規則で柱痕もなくその性格は不明である。ピットの深さはP1から順に12cm、24cm、22cmである。



ピット1~3

- | | | |
|-----------|---------|-----------------------------|
| 6 褐灰色土 | 10YR4/1 | 焼土粒子 (φ1~5mm)・炭化物粒子少量 しまりあり |
| 7 にぶい黄橙色土 | 10YR6/4 | ローム土主体 しまりあり |
| 8 灰黄褐色土 | 10YR4/2 | ローム粒子 (φ10~30mm) 少量 しまりあり |

第99図 第149号住居跡

出土遺物は少なく、土師器台付甕・高坏などの破片があるが、図示に耐える遺物は出土しなかった。

本住居跡の時期は古墳時代前期と考えられる。

第150号住居跡（第100図）

J-37・38、K-37グリッドに位置する。第161・162号住居跡、第583号溝跡、第573・574号土坑と重複する。住居跡の切り合い関係は、第162号住居跡よりも古く、第161号住居跡よりも新しい。

方形を呈し、南半は溝跡によって失われている。規模は東西が推定で3.3m、南北は2.3mまで検出された。壁の立ち上がりは明瞭でなく、床面のしまり

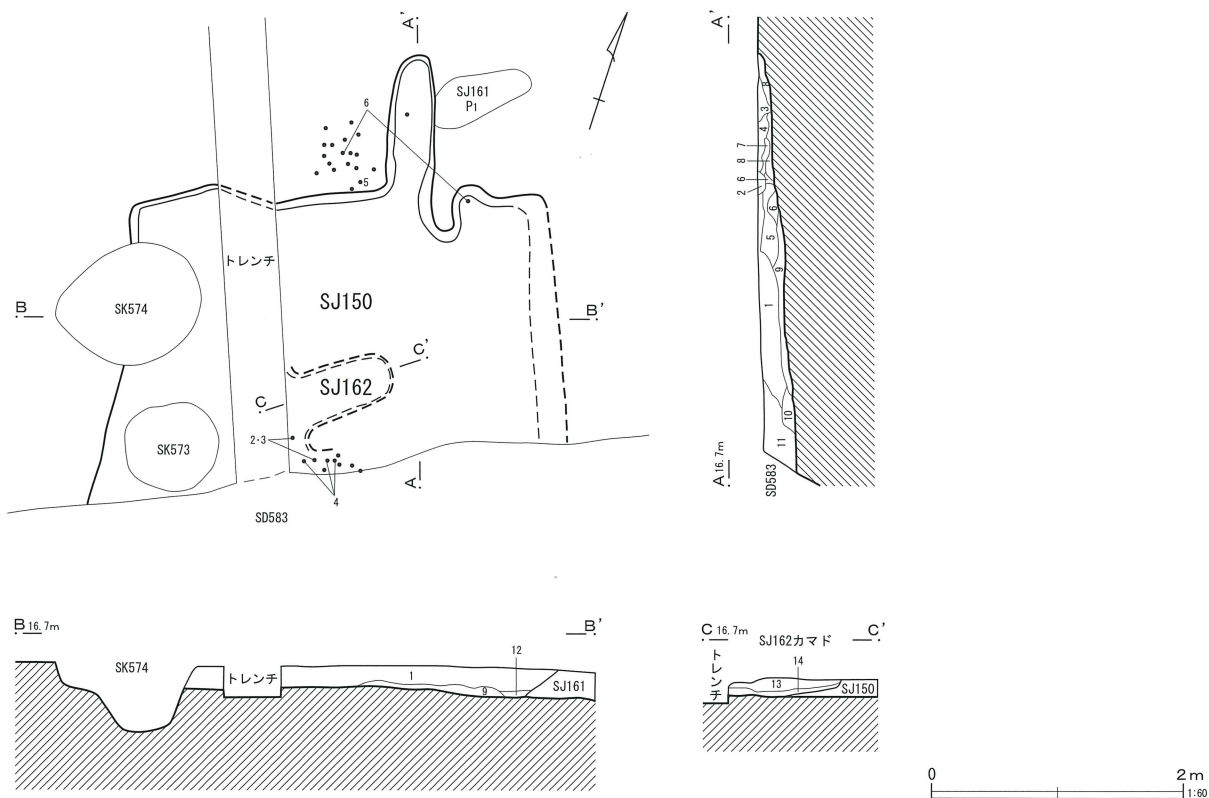
も弱い。確認面から床面までの深さは24cmである。

主軸方向はN-16°-Wである。

カマドは北壁に構築されている。燃焼部から煙道部へは緩やかに立ち上がり、燃焼部には掘り込みはない。煙道の長さ110cm、幅38cmである。袖は付け袖で、右側にのみ検出された。カマド以外の施設は検出されなかった。

カマドの西側肩部から遺物が集中して出土した。小破片であり廃絶時に流出したものと考えられる。須恵器甕、土師器坏・甕などがある。

本住居跡の時期は下田町VII期である。



第150号住居跡

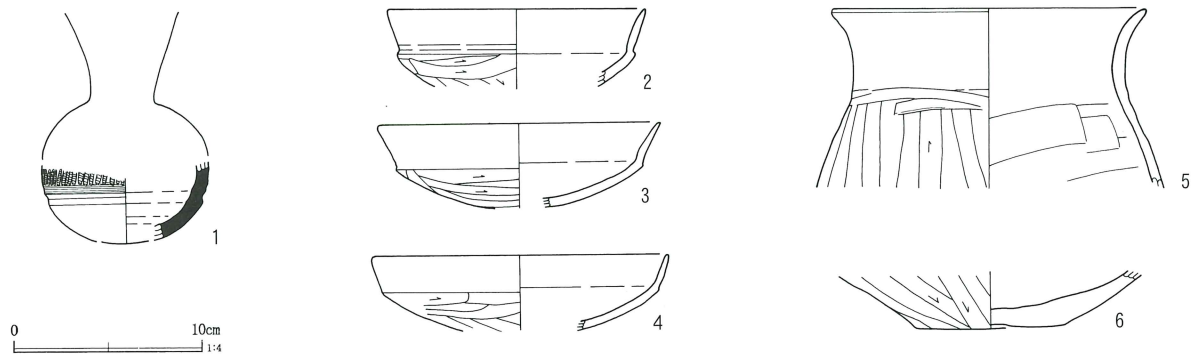
- | | | | |
|---|-------|---------|---|
| 1 | 褐灰色土 | 10YR4/1 | 黄褐色粘土ブロック (φ3~5mm) 少量 |
| 2 | 黒褐色土 | 10YR3/2 | 焼土粒子・炭化物粒子少量 |
| 3 | 黒褐色土 | 10YR3/1 | 焼土ブロック・炭化物ブロック (φ2~3mm)・黄褐色粘土ブロック (φ3~5mm) 少量 |
| 4 | 黒褐色土 | 10YR3/1 | 焼土ブロック (φ5mm) 多量 炭化物少量 |
| 5 | 灰黄褐色土 | 10YR4/2 | 黄褐色粘土ブロック (φ5~8mm) 多量 |
| 6 | 黒褐色土 | 10YR3/1 | 黄灰色粘土粒子 (φ0.5~1mm) 少量 |
| 7 | 黒褐色土 | 10YR3/1 | 黄褐色粘土ブロック (φ3~5mm) 微量 焼土粒子少量 炭化物多量 |
| 8 | 黒褐色土 | 10YR3/2 | 黄灰色粘土ブロック (φ2~3mm) 斑 焼土ブロック 少量 |

- | | | | |
|----|-------|---------|-----------------------|
| 9 | 灰黄褐色土 | 10YR5/2 | 黄灰色粘土ブロック (φ5~8mm) 多量 |
| 10 | 褐灰色土 | 10YR4/1 | 黄灰色粘土ブロック (φ5~8mm) 少量 |
| 11 | 褐灰色土 | 10YR4/1 | 黄褐色粘土ブロック (φ3~5mm) 斑 |
| 12 | 灰黄褐色土 | 10YR4/2 | 黄褐色粘土粒子 (φ0.5~1mm) 少量 |

第162号住居跡カマド

- | | | | |
|----|---------|---------|--|
| 13 | にぶい黄褐色土 | 10YR4/3 | 黄褐色粘土ブロック (φ3~5mm) 少量 焼土ブロック (φ2~3mm) 含む |
| 14 | 黒褐色土 | 10YR3/1 | 焼土ブロック (φ2~3mm) 少量 灰多量 |

第100図 第150・162号住居跡



第101図 第150号住居跡出土遺物

第151号住居跡 (第102図)

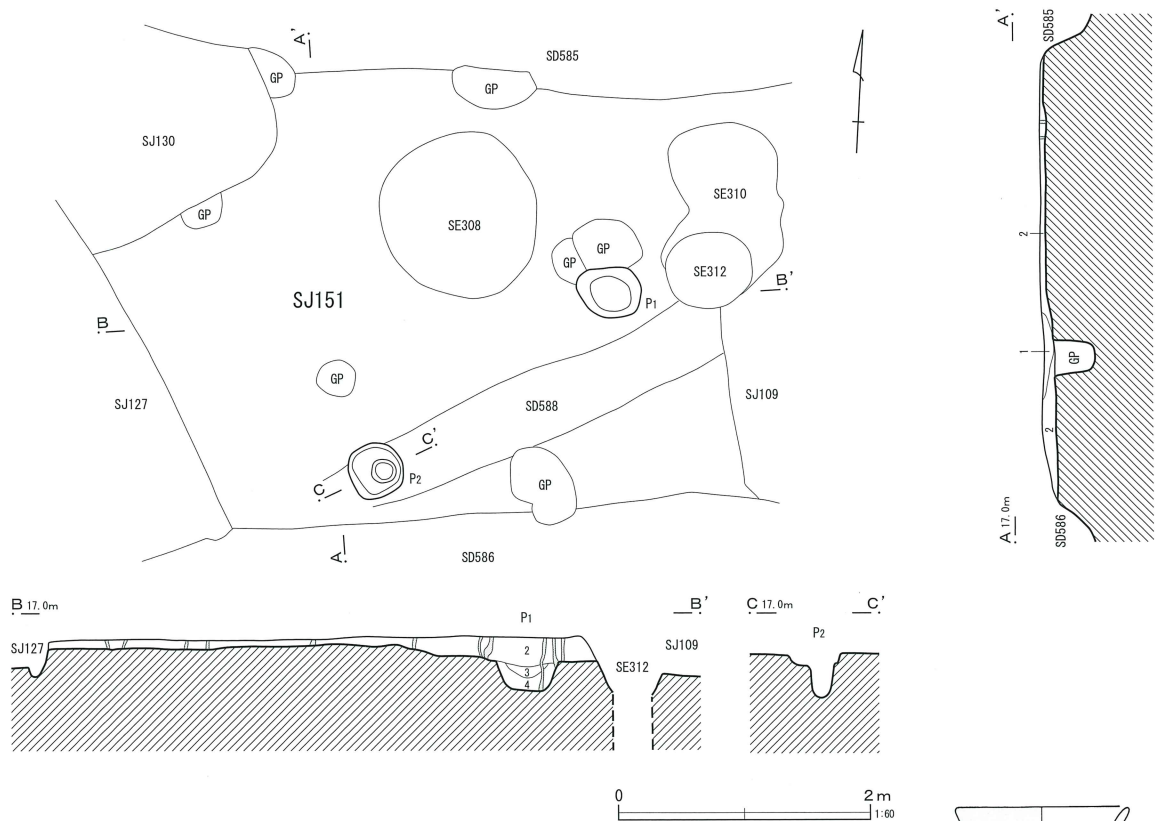
G-36グリッドに位置する。第109・127・130号住居跡、第585・586・588号溝跡、第308・310・312号井戸跡と重複する。住居跡の切り合いの中ではもっとも古い住居跡である。

四方を新しい遺構に切られており、形状や規模は不明である。検出範囲は東西4.8m、南北3.6mであ

る。埋土はほぼ一層で、短期間に埋没したものと考えられる。確認面から床面までの深さは5~17cmである。

ピットは2基検出された。その性格は不明である。ピットの深さはP1から順に20cm、35cmである。

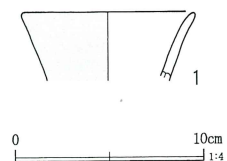
出土遺物は少なく、凶化したのは土師器埴1点のみである。異なる時期の遺物が混在しているが、古



第151号住居跡

- 1 黒色土 10VR2/1 黄褐色土粒子 (φ1~2mm) 含む 焼土粒子 (φ1~3mm) 少量
- 2 黒褐色土 10VR3/2 黄褐色土粒子 (φ1~2mm) ・黄褐色土ブロック (φ3~10mm) 多量 炭化物粒子 (φ1~5mm) 少量
- 3 褐灰色土 10VR4/1 黄褐色土粒子 (φ1~2mm) 含む 炭化物粒子 (φ2~5mm) 少量
- 4 黒褐色土 10VR3/1 黄褐色土粒子 (φ1~2mm) ・黄褐色土ブロック (φ3~10mm) 多量

第102図 第151号住居跡



第103図 第151号住居跡出土遺物

墳時代前期の土器の割合が多い。

本住居跡の時期は古墳時代前期である。

第152号住居跡 (第65図)

G-35グリッドに位置する。第130・131号住居跡と重複し、両住居跡に切られている。大半は調査区外にあるものと考えられ、検出された範囲はごくわずかで、東西0.7m、南北2.5mである。確認面から床面までの深さは10cmである。

ピットは1基検出された。深さは40cmである。

出土遺物は破片が少量で、図示できる遺物はなかった。

本住居跡の時期は不明だが、切り合い関係から、古墳時代前期の可能性が高い。

第153号住居跡 (第96図)

J-37グリッドに位置する。第134・140・147・154号住居跡と重複する。切り合い関係はよくわからなかったが、少なくとも第147号住居跡には切られているようである。

約5.0mの長さで南西壁のみが検出された。確認面から床面までの深さは11cmである。南西壁を基準とした傾きはN-37°-Wである。

出土遺物には土師器甕がある。

本住居跡の時期は下田町Ⅸ期である。

第154号住居跡 (第96図)

J-37グリッドに位置する。第133・134・140・147・153・166号住居跡、第591・599号溝跡と重複する。第140・153号住居跡との切り合い関係は不明だが、それ以外の住居跡の中ではもっとも古い。

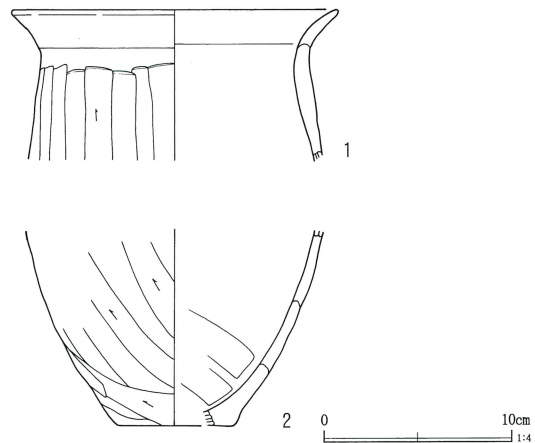
形状は方形である。西コーナーを中心として検出されたのは、東北-西南3.2m、南東-北西は6.0mである。第147号住居跡の掘り込みを受け、その床面がほぼ確認面となるため、埋土の残りは非常に薄い。確認面から床面までの深さは4cmである。南西壁を基準とした傾きはN-35°-Wである。

壁溝は検出された壁すべてに巡り幅17~24cm、深さ3~9cmである。南東壁は溝跡に切られ、明瞭にできなかったが、壁溝の途切れた付近が立ち上がりになると考えられる。

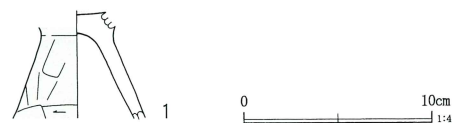
ピットは2基検出された。P2は柱痕の存在から、柱穴と推定される。ピットの深さはP1から順に42cm、60cmである。

本住居跡に伴うと考えられる出土遺物は少ない。図示したのは土師器台付甕脚部である。

本住居跡の時期は古墳時代前期と考えられる。



第104図 第153号住居跡出土遺物



第105図 第154号住居跡出土遺物

第155号住居跡（第106図）

J・K-36グリッドに位置する。第587号溝跡に切られている。

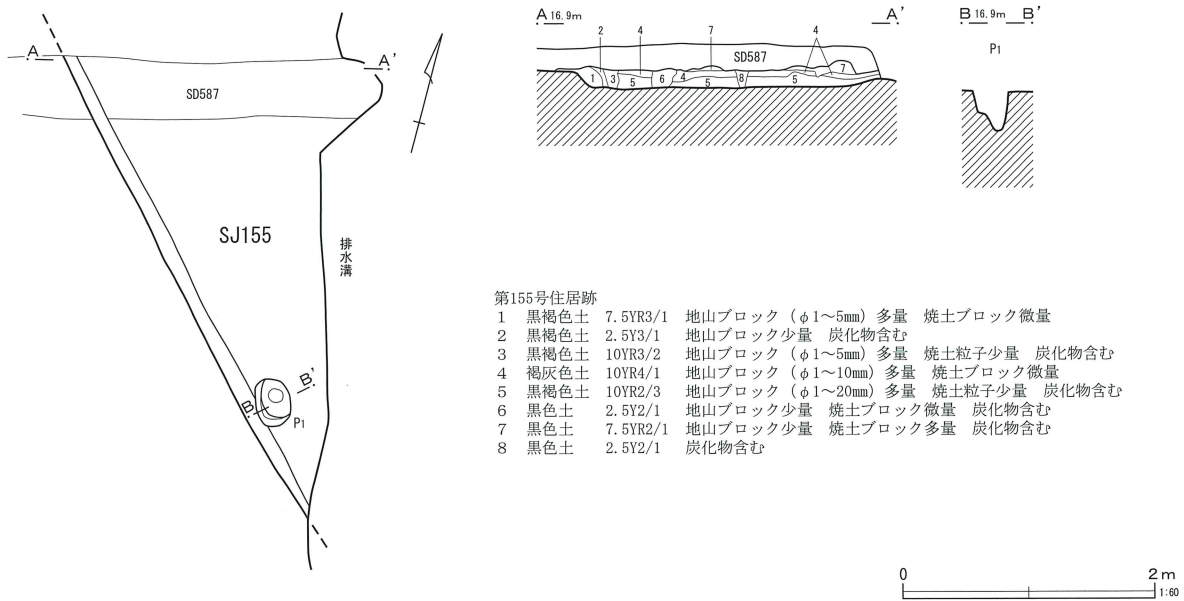
南東壁のみが検出された。北側は溝跡に切られ、大半は調査区域外にかかる。検出された南東壁の長さは4.1mである。埋土は細かく分層され、地山ブロックを多く含むため、人為的に埋め戻された可能性がある。確認面から床面までの深さは14cmである。

南東壁を基準とした傾きはN-42°-Wである。

ピットは壁際に1基検出された。深さは32cmである。

出土遺物はたいへん少なく、すべて破片である。縄文施文の甕の破片が含まれている。

本住居跡の時期は古墳時代前期と推定される。



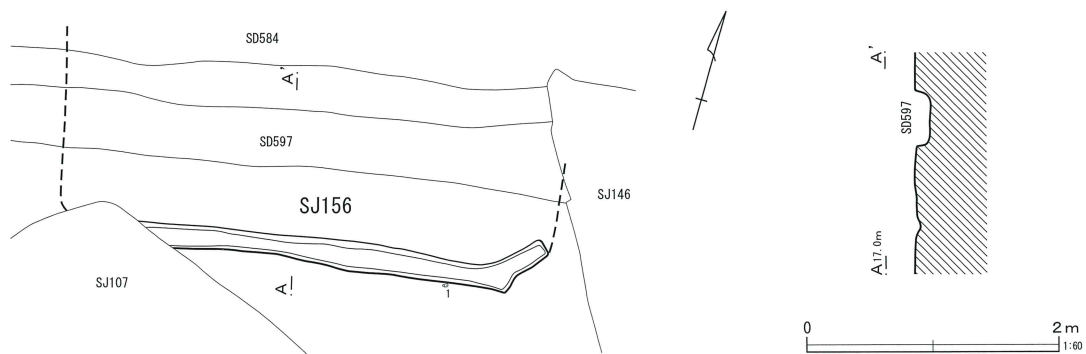
第106図 第155号住居跡

第156号住居跡（第107図）

I-36グリッドに位置する。第107・146号住居跡と切り合うが、掘り込みが非常に浅く、新旧関係を

明らかにできなかった。北側は第584・597号溝跡と重複する。

南壁の壁溝のみが検出され、形状・規模ともに不



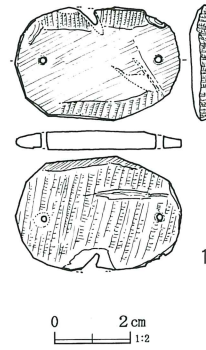
第107図 第156号住居跡

明である。南壁の長さは3.2mである。南壁を東西基準とした傾きはN-10°-Wである。

壁溝は幅12~22cm、深さ2~4cmである。掘り込みは浅く明瞭でない。

出土遺物はほとんどなく、土器は土師器甕の胴部破片のみが出土した。有孔円板が1点、周溝の落ち際から出土している。

本住居跡の時期は確定できないが、古墳時代後期に属するものと考えられる。



第108図 第156号住居跡出土遺物

第157号住居跡 (第109・110図)

I・J-36・37グリッドに位置する。第132・133・135・146号住居跡と重複し、すべての住居跡に切られている。

形状は正方形を呈し、規模は東北-西南5.5m、南東-北西5.6mである。埋土は乱れており、人為的に埋め戻された様相を呈している。確認面から床面の深さは12~38cmである。主軸方向はN-35°-Wである。

掘り込みは明瞭で、床面は硬くしまっている。

炉は2基検出された。炉1は粘土を貼って火床面としたものである。たいへんよく焼けており、表面は硬化している。規模は50×45cmである。炉2は床面が被熱したもので、範囲は42×30cmである。炉1が主体となる炉と考えられる。

壁溝は北西壁の一部を除いてほぼ全周する。掘り込みは明瞭で、幅10~21cm、深さ5~10cmである。

ピットは8基検出された。配置から、P1~4が支柱穴と考えられるが、掘り込みは弱い。南コーナーにあるP5は貯蔵穴の可能性ある。ピットの深さはP1から順に34cm、54cm、19cm、31cm、84cm、12cm、7cm、36cmである。

出土遺物は多く、床面近くから良好な状態で出土した。土師器器台・台付甕などがある。土器以外に注目される遺物として、鹿角製品がある。第111図20は刻骨に類する鹿角製品である。伏せた底部のない甕(同図13)のなかに堆積した土のなかから出土し

た。21は加工され板状となった鹿角製品、22は刀子の柄部になると考えられる。

本住居跡の時期は下田町I期と考えられる。

第158号住居跡 (第112図)

H-37・38グリッドに位置する。第106・115・122・124・159号住居跡、第320号井戸跡と重複する。切り合う遺構の中ではもっとも古い住居跡である。

大半を第122号住居跡に切られており、検出されたのは全体の約1/4である。形状は正方形に近く、規模は東南-西北5.3m、南西-北東5.2mである。確認面から床面までの深さは15cmである。南東壁を基準とした傾きはN-45°-Eである。

壁溝は検出された壁ほとんどに検出された。浅いがしっかりした掘り込みである。幅11~20cm、深さ3~6cmである。

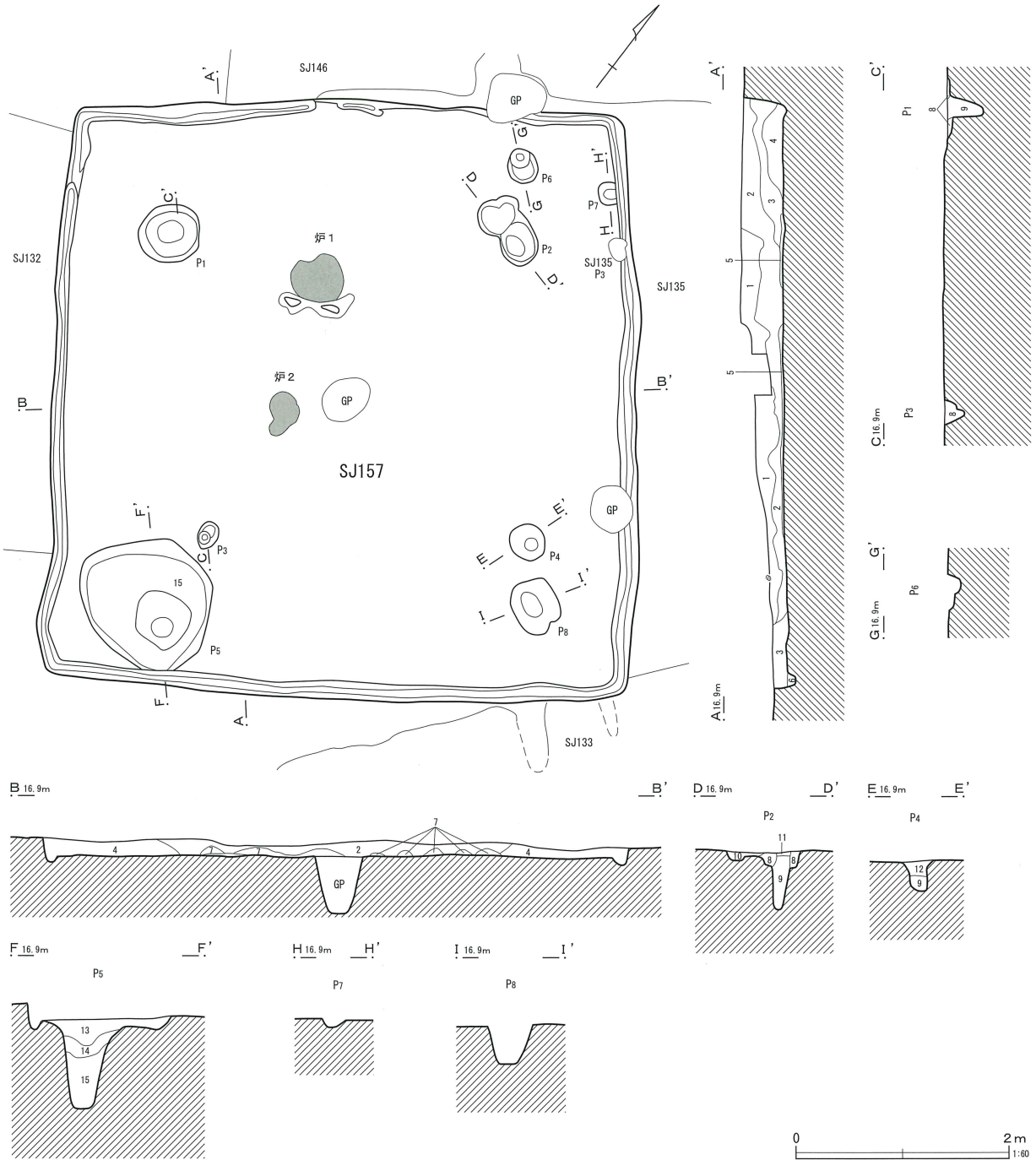
ピットは2基検出された。その性格は不明である。ピットの深さはP1から順に33cm、10cmである。

出土遺物は調査面積が狭い割に比較的多い。埋土およびP1内から出土している。土師器高坏・台付甕などがある。また、床面近くの埋土から玉類が2点出土している。

本住居跡の時期は下田町II期である。

第159号住居跡 (第114図)

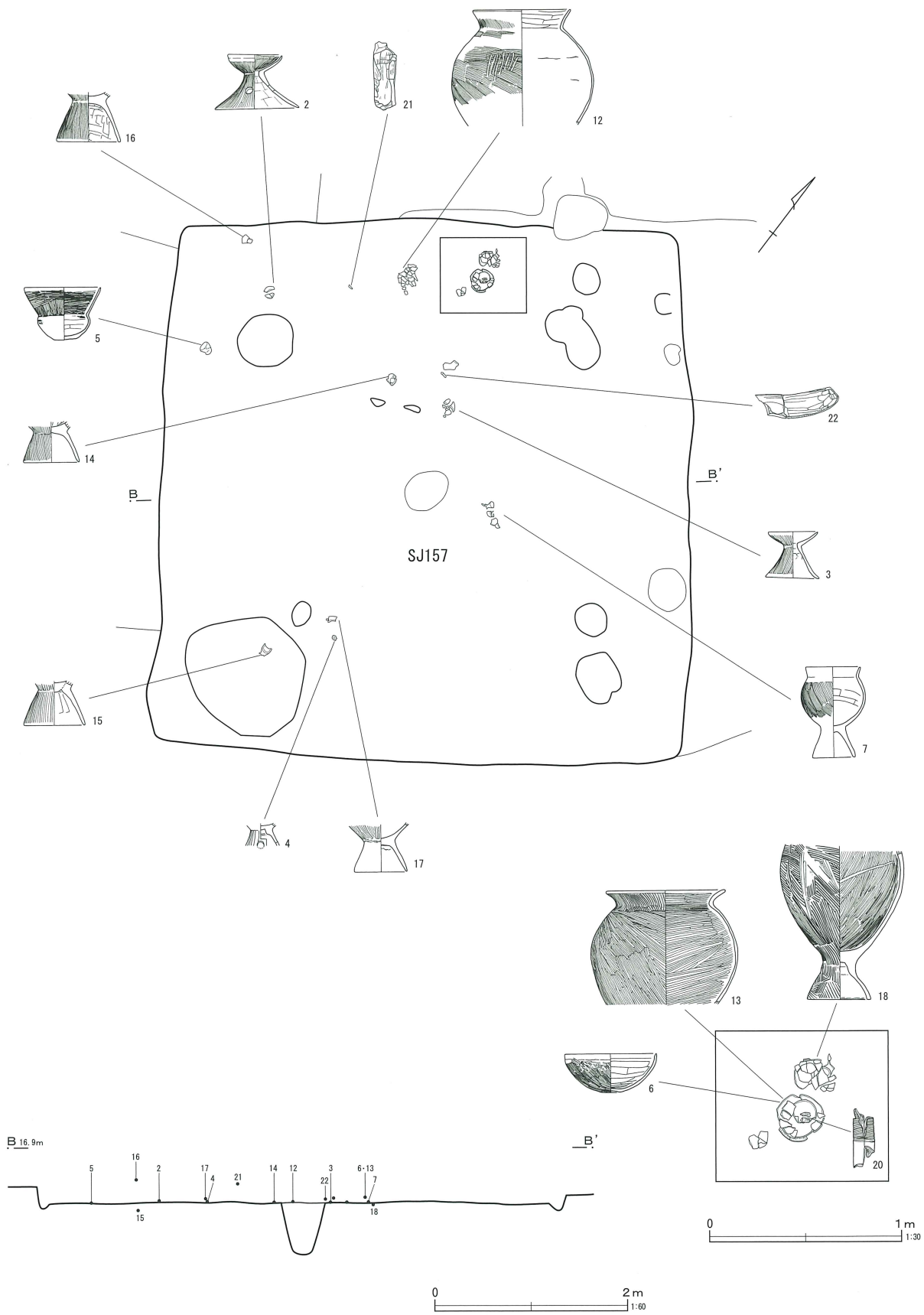
H-37・38グリッドに位置する。第115・117・118・



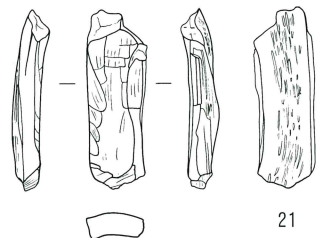
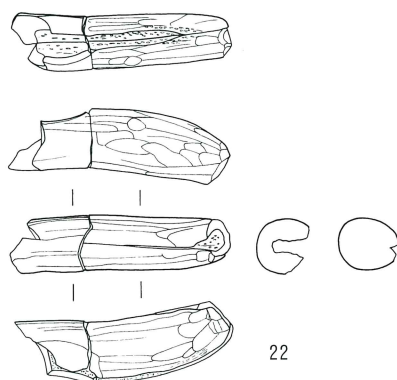
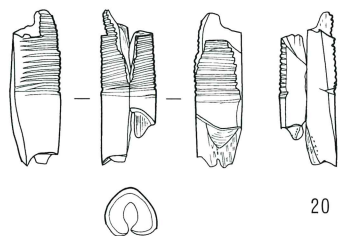
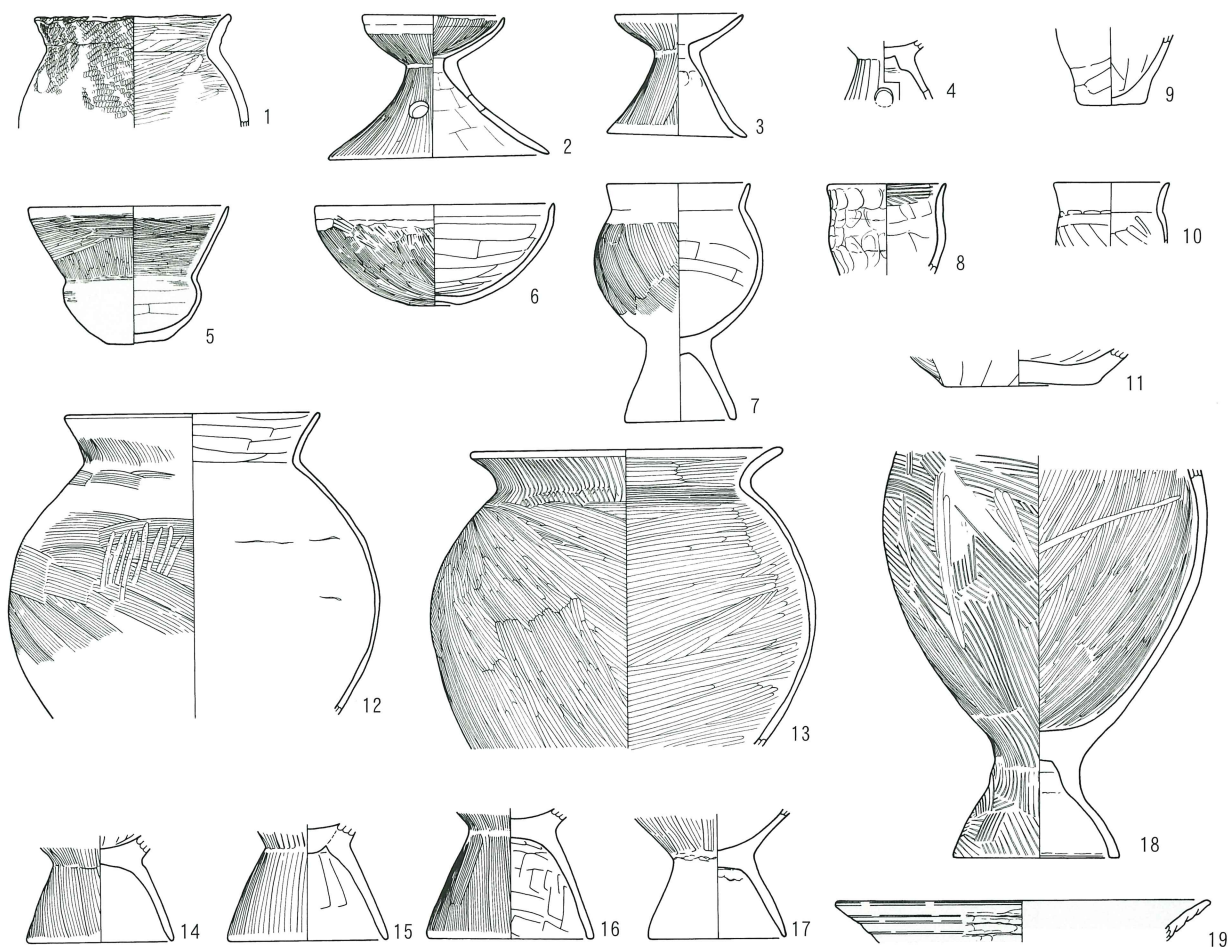
第157号住居跡

1 灰黄褐色土	10YR4/2	ローム粒子 (φ1~5mm) 少量	しまりあり	粘性ややあり	9 黒褐色土	7.5YR3/1	しまり弱い	粘性強い	混じりけの少ない層 (柱痕)
2 灰黄褐色土	10YR4/2	ロームブロック (φ10~50mm) 少量	しまりあり	粘性ややあり	10 黒褐色土	10YR3/2	ロームブロック (φ10~20mm) 少量	しまりあり	粘性ややあり
3 黒褐色土	10YR3/1	ローム粒子 (φ1~5mm) 少量	しまりあり	粘性ややあり	11 黒褐色土	7.5YR3/1	ローム粒子 (φ1~3mm) 少量	しまりあり	粘性あり
4 暗褐色土	10YR3/3	ローム土主体	ロームブロック (φ10~50mm) 多量	しまりあり	粘性ややあり	10YR6/4	しまりあり	粘性ややあり	
5 黒色土	10YR2/1	床面直上の粘質土層	しまり弱い	粘性あり	12 にぶい黄橙色土	10YR6/4	しまりあり	粘性ややあり	
6 黒褐色土	10YR3/2	やや青い土が斑に混入する	しまりややあり	粘性あり	ビット5	10YR3/2	ローム粒子 (φ1~10mm) 少量	しまりあり	粘性ややあり
7 褐灰色土	10YR4/1	しまりややあり	粘性ややあり		13 黒褐色土	10YR2/1	ローム粒子 (φ1~3mm) 少量	しまりややあり	粘性ややあり
ビット1~4					14 黒色土	10YR1.7/1	均整の粘質土層	しまり弱い	粘性強い
8 黒褐色土	10YR3/1	ロームブロック (φ10~20mm) 少量	しまりあり	粘性ややあり	15 黒色土				

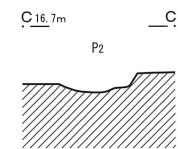
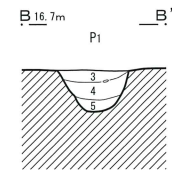
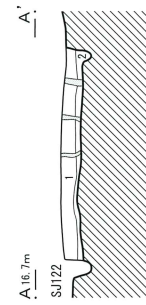
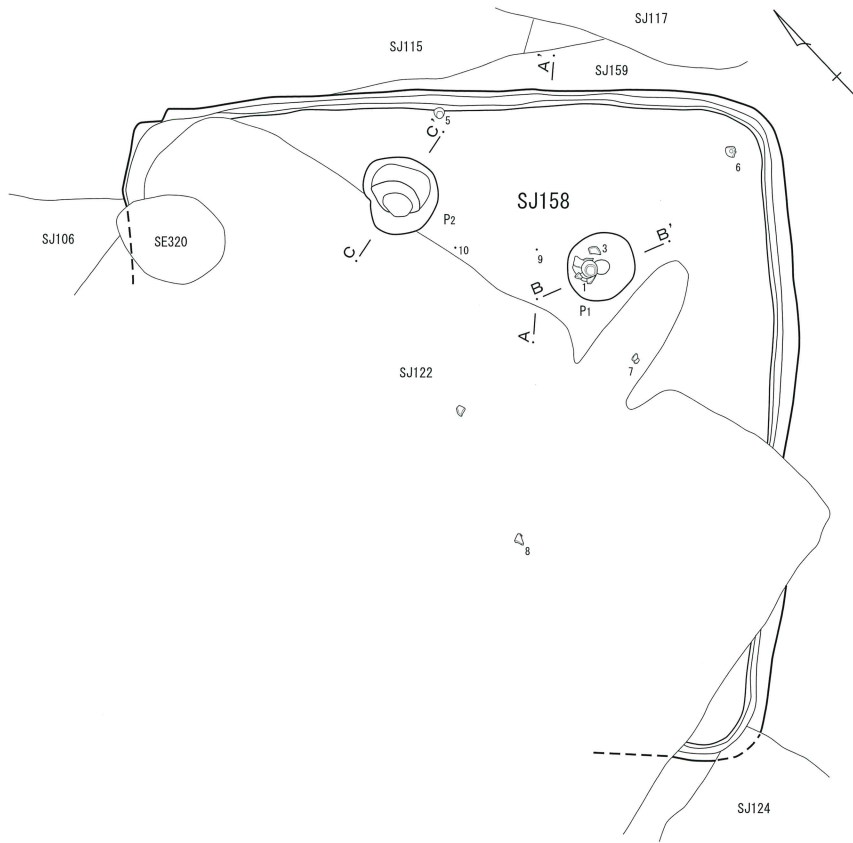
第109図 第157号住居跡



第110图 第157号住居跡遺物出土状况



第111图 第157号住居跡出土遺物



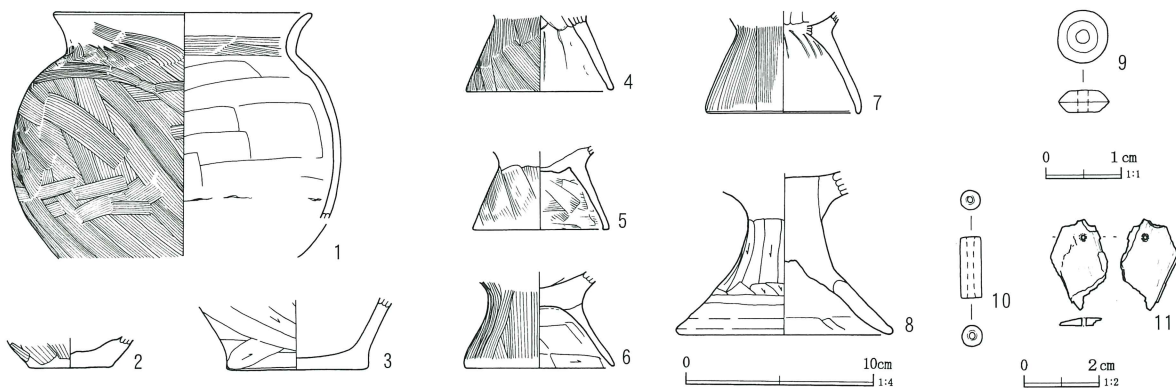
第158号住居跡

- 1 黒褐色土 10YR3/3 黄褐色土粒子 (φ1~2mm)・黄褐色土ブロック (φ3~10mm) 多量 焼土粒子・炭化物粒子 (φ1~3mm) 少量
 2 黒褐色土 2.5Y3/1 床直面に厚さ2~3mmの炭化物層 黄褐色土粒子 (φ1~2mm)・焼土ブロック (φ2~3mm) 少量

ビット1

- 3 黒褐色土 10YR3/1 黄褐色土粒子 (φ1~2mm) 多量 黄褐色土ブロック (φ3~5mm)・炭化物粒子 (φ1~3mm) 少量
 4 黒褐色土 10YR2/2 黄褐色土粒子 (φ1~2mm)・黄褐色土ブロック (φ3~10mm) 多量
 5 黒褐色土 10YR3/1 黄褐色土粒子 (φ1~2mm)・黄褐色土ブロック (φ3~5mm) 多量

第112図 第158号住居跡

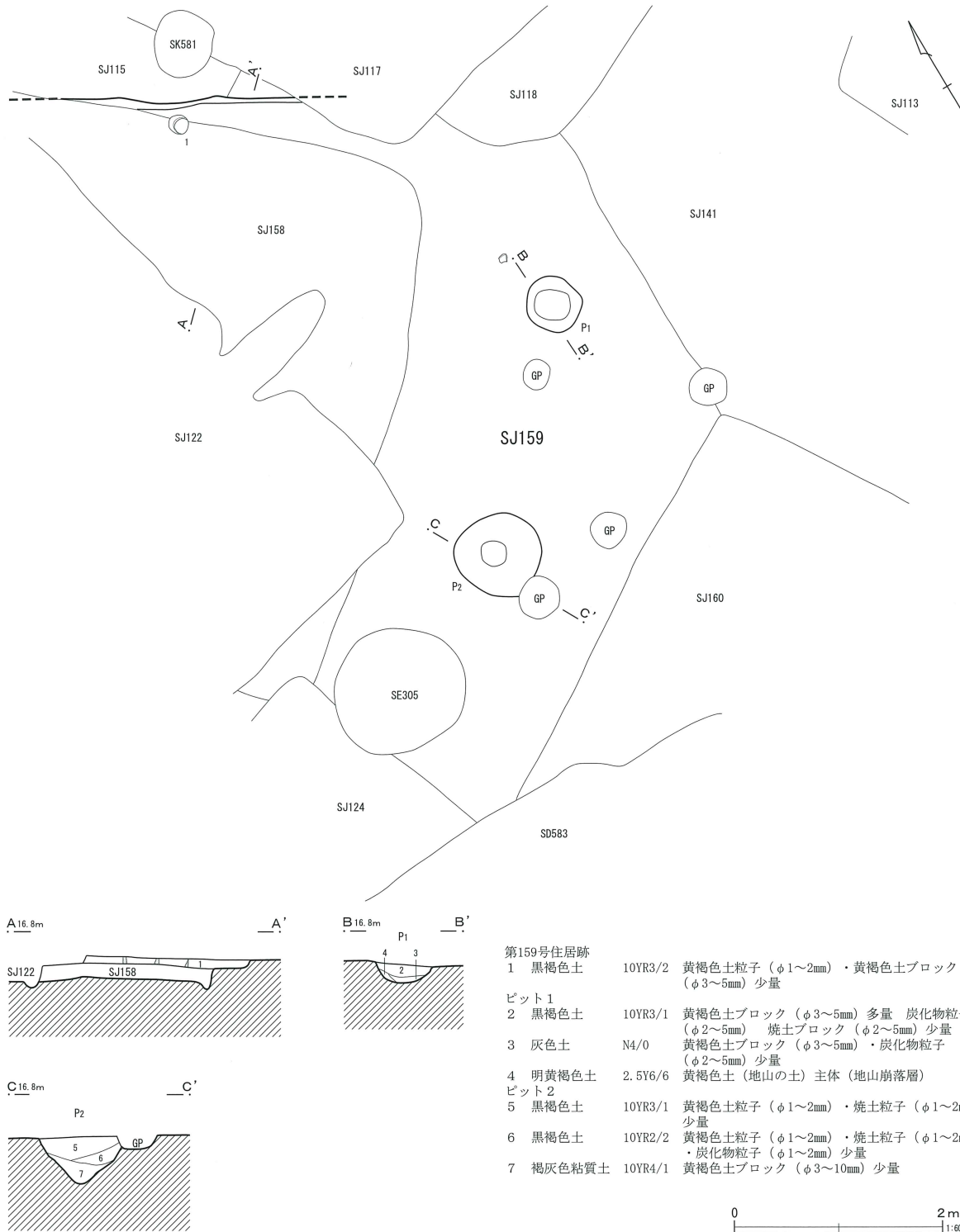


第113図 第158号住居跡出土遺物

122・124・141・158・160号住居跡、第583・592号溝跡、第305号井戸跡と重複する。住居跡の切りあい関係は、第117・124号住居跡よりも古く、第115・118・

158号住居跡より新しい。他の住居跡との関係は把握できなかった。

切り合いが著しく、壁が検出されたのは北壁の一



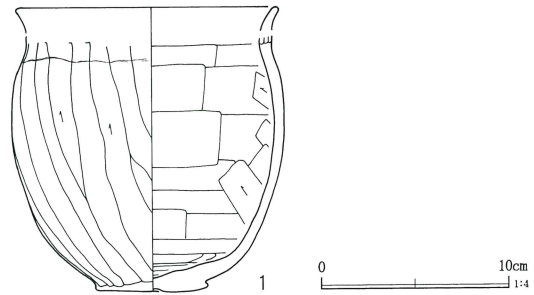
第114図 第159号住居跡

部のみである。形状・規模ともに不明である。検出範囲は東西6.3m、南北6.8mである。埋土は浅く一層である。確認面から床面までの深さは10cmである。北壁を東西基準とした傾きはN-27°-Eである。

ピットは2基検出された。性格は不明である。ピットの深さはP1から順に19cm、45cmである。

遺物は少なく、ほとんどが破片で出土した。図示したのは壁際から出土した土師器小型甕である。

本住居跡の時期は下田町VII~VIII期である。



第115図 第159号住居跡出土遺物

第160号住居跡 (第117図)

H・I-38グリッドに位置する。第139・141・159・321・322号住居跡、第583・592・652号溝跡と重複する。住居跡の切り合い関係は、第139号住居跡よりも新しいが、他の住居跡との関係は把握できなかった。平面的に見る限りでは、第321号住居跡に切られているようである。

形状は東西に長い長方形で、規模は東西4.6m、南北3.7mである。南壁は判然としない。埋土は二層で、短期間での埋没が想定される。床面は高低差が認め

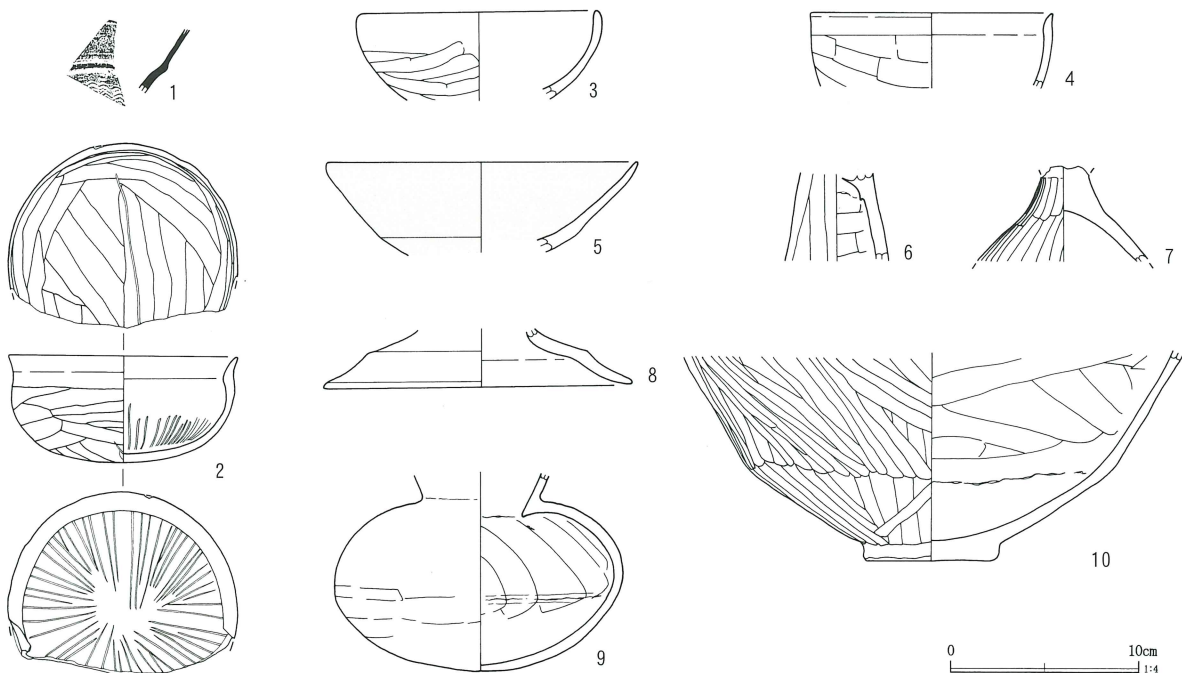
られ、確認面から床面までの深さは13~30cmである。東壁を基準とした傾きはN-30°-Wである。

壁溝は北・東壁に認められる。幅10~18cm、深さ4~10cmである。

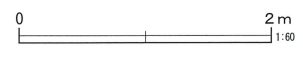
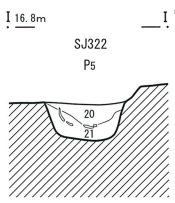
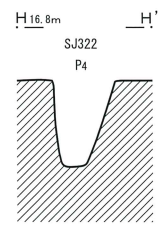
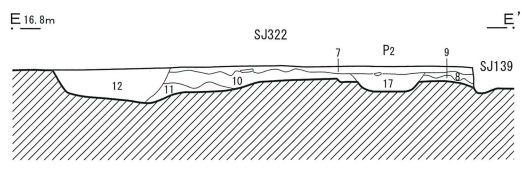
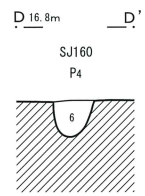
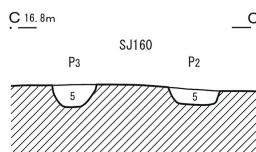
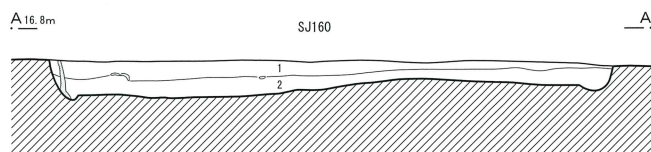
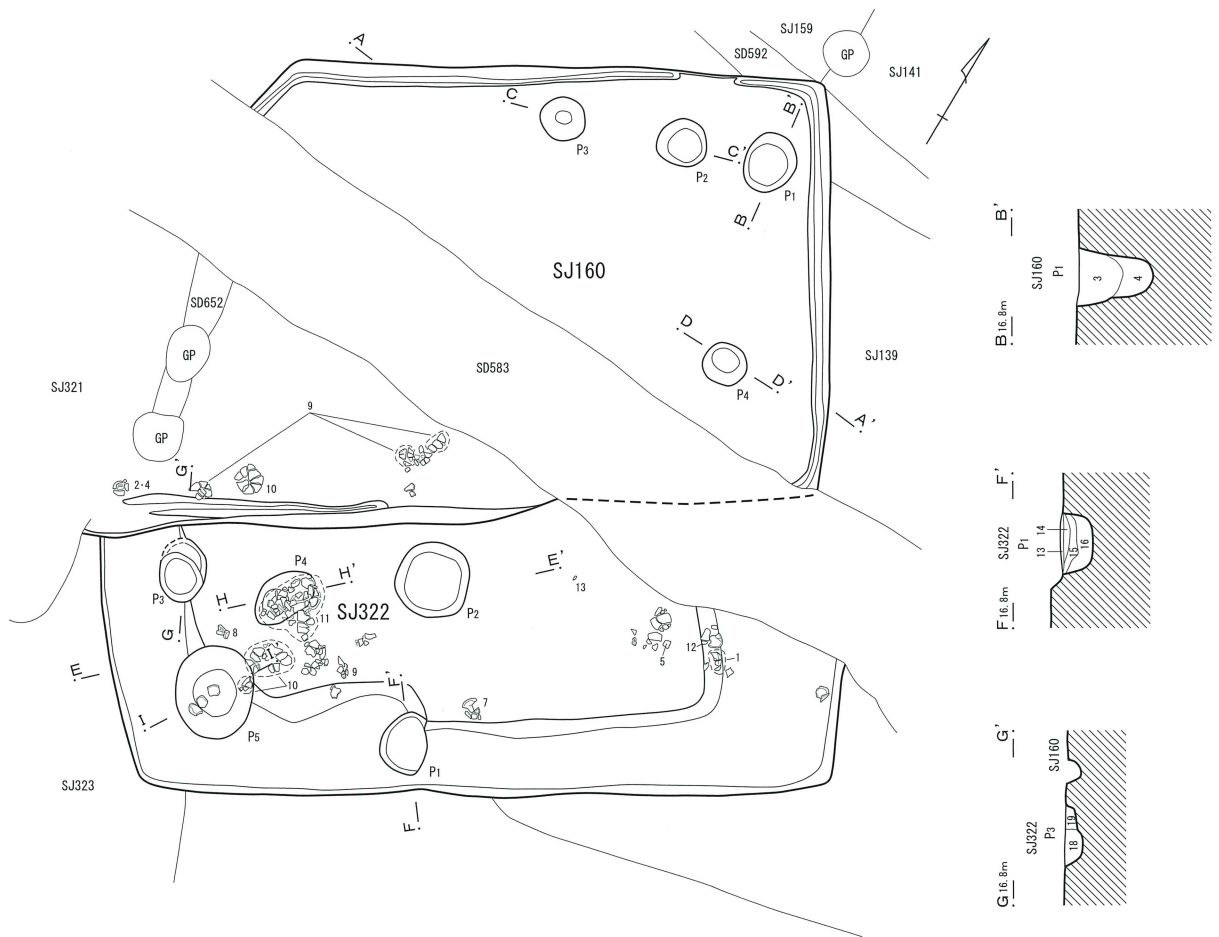
ピットは4基検出された。P1以外は浅く、埋土も一層でその性格は不明である。ピットの深さはP1から順に58cm、12cm、18cm、27cmである。

出土遺物は破片が多く、形になるものは南壁近くの床面から出土している。土師器碗・壺などがある。

本住居跡の時期は下田町IV期である。



第116図 第160号住居跡出土遺物



第117图 第160·322号住居跡

第160号住居跡	
1 黒褐色土	10YR3/1 黄褐色土粒子 (φ1~2mm)・ブロック (φ3~10mm) 少量
2 黒色土	10YR2/1 黄褐色土ブロック (φ3~20mm) 多量 黄褐色土粒子 (φ1~2mm)・焼土粒子・炭化物粒子 (φ1~2mm) 少量
ピット1	
3 黒褐色土	10YR3/2 黄褐色土粒子 (φ1~2mm)・黄褐色土ブロック (φ3~10mm) 多量
4 灰黄褐色土	10YR4/2 黄褐色土粒子 (φ1~2mm)・黄褐色土ブロック (φ3~10mm) 多量
ピット2・3	
5 黒褐色土	10YR3/1 黄褐色土粒子 (φ1~2mm)・黄褐色土ブロック (φ3~5mm) 少量
ピット4	
6 黒褐色土	10YR3/1 黄褐色土粒子 (φ1~2mm) 焼土粒子 (φ1~3mm) 少量
第322号住居跡	
7 黒褐色土	10YR3/1 褐色土粒子 (φ2mm) 多量 しまりあり 粘性なし
8 黒褐色土	10YR3/2 黄褐色粘土ブロック (φ2~5mm) 少量 炭化物粒子 (φ3~5mm) 含む
9 灰黄褐色土	10YR5/2 黄褐色土ブロック主体の層 (地山の土を含む) しまりあり 粘性ややあり
10 黒褐色土	10YR3/2 黄褐色土ブロック (φ10mm) 少量 しまりあり 粘性ややあり
11 灰黄褐色土	10YR5/2 灰色土ブロック (φ30mm) 主体 褐色土粒子 (φ2mm) 含む しまりあり 粘性なし
12 褐灰色土	10YR4/1 灰色ロームブロック (φ50mm)・褐色ローム粒子 (φ2mm) 含む しまりあり 粘性なし

ピット1	
13 褐灰色土	10YR4/1 粘性のややある灰色土主体 黄褐色土ブロック (φ10mm) 微量 しまりあり 粘性ややあり 焼土粒子 (φ5mm) 多量 しまりあり 粘性ややあり
14 褐灰色土	10YR4/1 焼土粒子 (φ5mm) 多量 しまりあり 粘性ややあり
15 灰黄褐色土	10YR4/2 焼土ブロック (φ10~15mm) 多量 黄褐色土ブロック (φ20mm) 含む しまりややあり 粘性あり
16 褐灰色土	10YR4/1 褐色土粒子 (φ2mm) 多量 黄褐色土ブロック (φ10mm) 含む しまりなし 粘性あり
ピット2	
17 褐灰色土	10YR4/1 焼土ブロック (φ5~10mm) 多量 しまりあり 粘性ややあり 土器 (土師器) を含む
ピット3	
18 褐灰色土	10YR5/1 粘性のある灰色土と明灰色土の混入したものの焼土粒子 (φ5mm) 微量 しまりなし 粘性あり
19 褐灰色土	10YR4/1 粘性のある灰色土主体 焼土粒子 (φ5mm) 微量 しまりなし 粘性あり
ピット5	
20 黒褐色土	10YR3/2 ローム粒子 (φ1~2mm) 含む 焼土粒子・炭化物粒子 (φ1mm) 微量 しまり・粘性あり
21 黒褐色土	10YR3/1 ローム粒子 (φ1mm) 微量 焼土粒子・炭化物粒子 (φ1mm) 少量 しまり・粘性あり

第161号住居跡 (第119図)

J・K-37グリッドに位置する。第150号住居跡に切られ、南北は第583・591号溝跡に、東側は調査区域外にかかる。残りが悪く、壁の立ち上がりは不明瞭で、南西壁の痕跡がかろうじて断面で確認された。形状・規模ともに不明である。確認面から床面までの深さは20cmである。

本住居跡に伴うと考えられるピットは1基である。調査時にはカマドの痕跡と推定されたが確認はない。深さは10cmである。

出土遺物はすべて埋土からのものである。土師器坏を図示した。

本住居跡の時期は下田町VII期である。

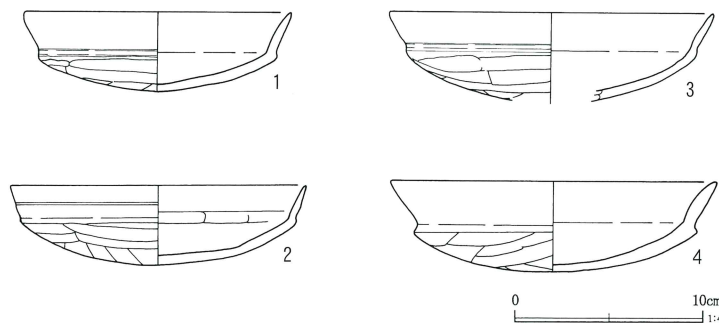
第162号住居跡 (第100図)

J-37グリッドに位置する。第150号住居跡が埋没した後に構築されている。カマドのみが検出されたもので、正確な形状をおさえることができなかった。主軸方向はN-52°-Eである。

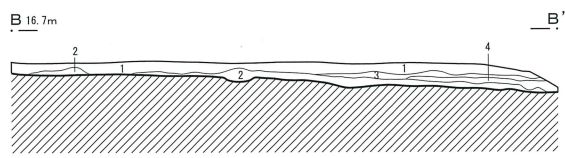
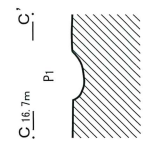
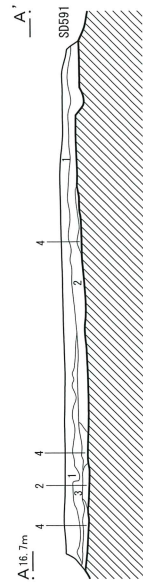
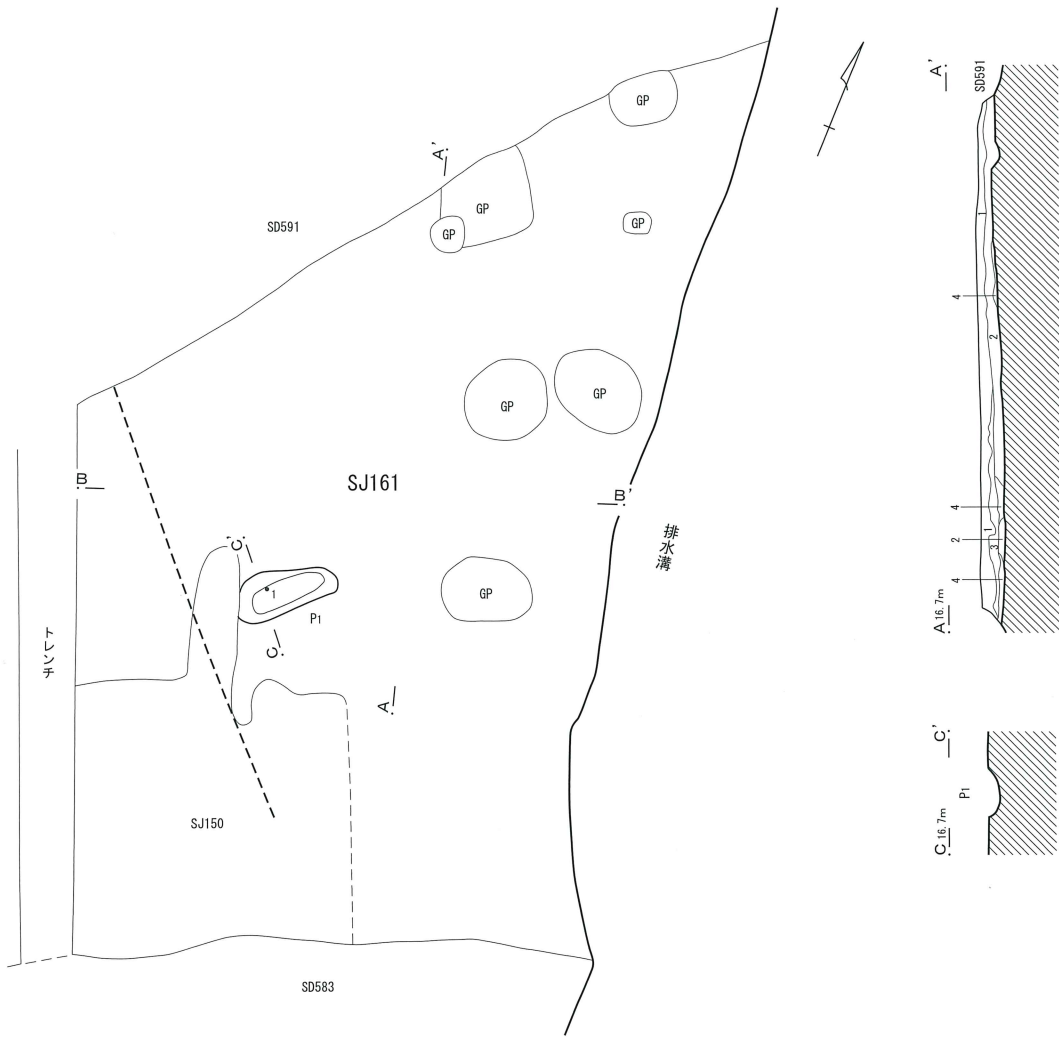
カマドは燃焼部のみで、推定される範囲は80×44cm、深さは15cmである。あまり熱を受けておらず、下面に灰層が堆積している。

遺物はカマドの右袖にあたる箇所から出土している。土師器坏・甕がある。切り合う第150号住居跡に帰属する可能性もある。

本住居跡の時期は下田町VII期である。



第118図 第161号住居跡出土遺物

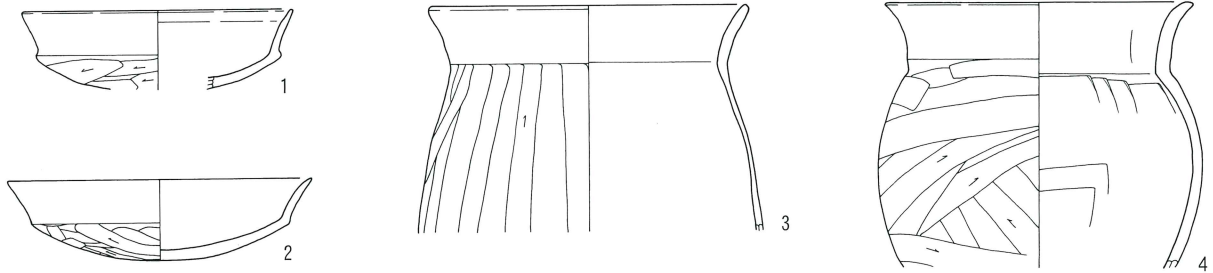


第161号住居跡

- | | |
|-----------|---|
| 1 黒褐色土 | 10YR3/1 地山ブロック (φ1~10mm) 含む
焼土ブロック少量 炭化物含む |
| 2 暗灰色土 | N3/0 地山ブロック (φ1~20mm) ・鉄分
多量 |
| 3 黒色土 | 7.5Y2/1 地山ブロック (φ1~5mm) ・炭化物
・鉄分含む |
| 4 オリーブ黒色土 | 7.5Y3/1 地山ブロック少量 炭化物含む |



第119図 第161号住居跡



第120図 第162号住居跡出土遺物

第164号住居跡 (第122図)

G-34・35、H-35グリッドに位置する。第131号住居跡、第585・603号溝跡、第314号井戸跡と重複する。切り合うすべての遺構よりも古い。

方形を呈し、北西壁は第585号溝跡によって失われている。規模は東南-西北6.1m、南東-北西は5.1mが検出された。埋土はロームブロックが混入する均質の土で、人為的に埋め戻された可能性がある。確認面から床面までの深さは20cmである。主軸方向はN-42°-Wである。

床面は硬く踏み固められており、貼床は厚いところで10cmを測る。床面には住居跡中央を中心に薄く炭化物層が広がっている。炭化物層は炉周辺では灰を含んで厚く堆積しており、部分的に炉の灰が広がったものと考えられる。

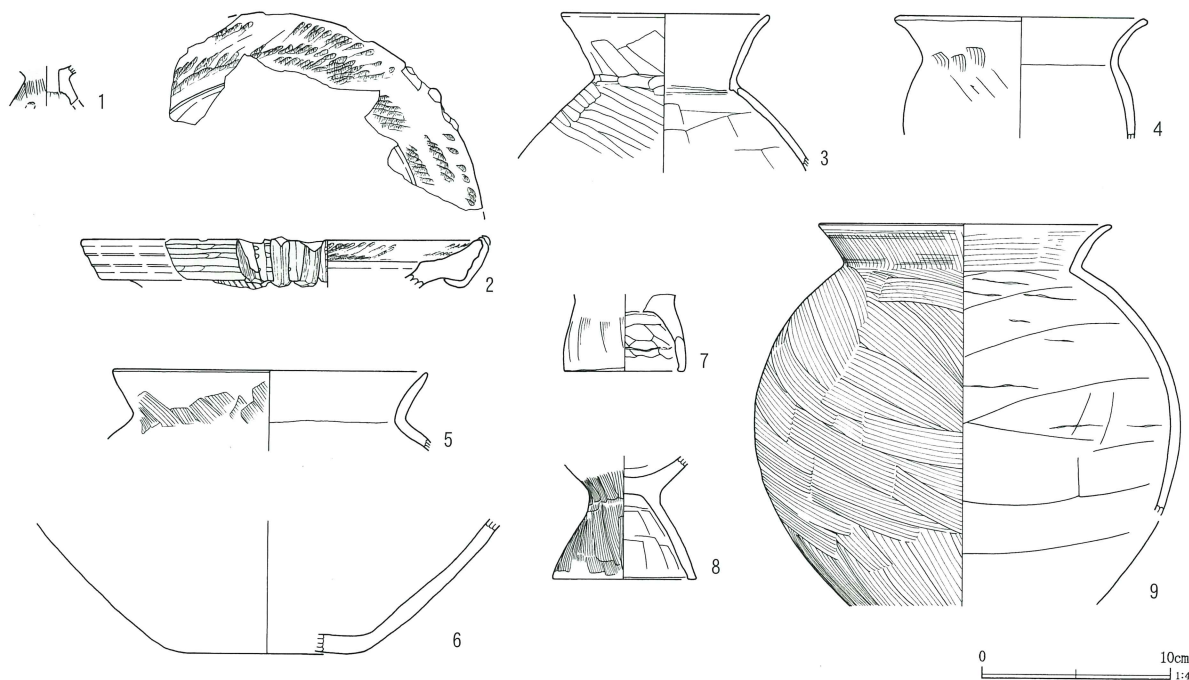
炉は1基検出された。貼床面を火床面とし、非常によく焼けている。中央がわずかに窪んで灰層が堆

積している。被熱範囲は52×48cmである。この炉の南西の床面にも被熱した箇所が検出された。被熱の度合いは弱く、範囲も小さい。

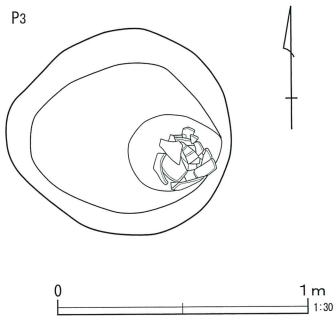
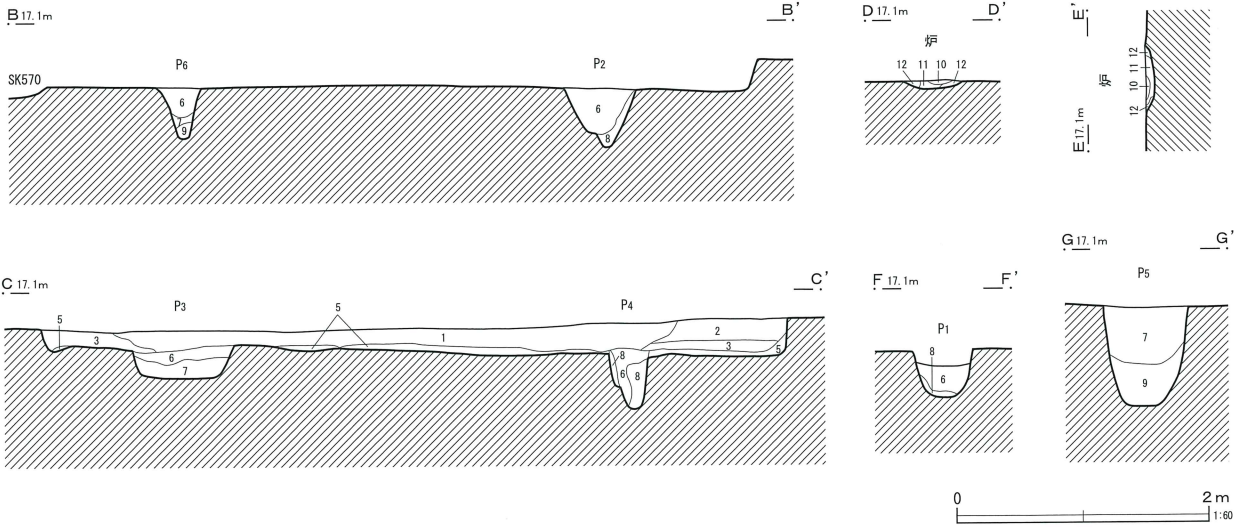
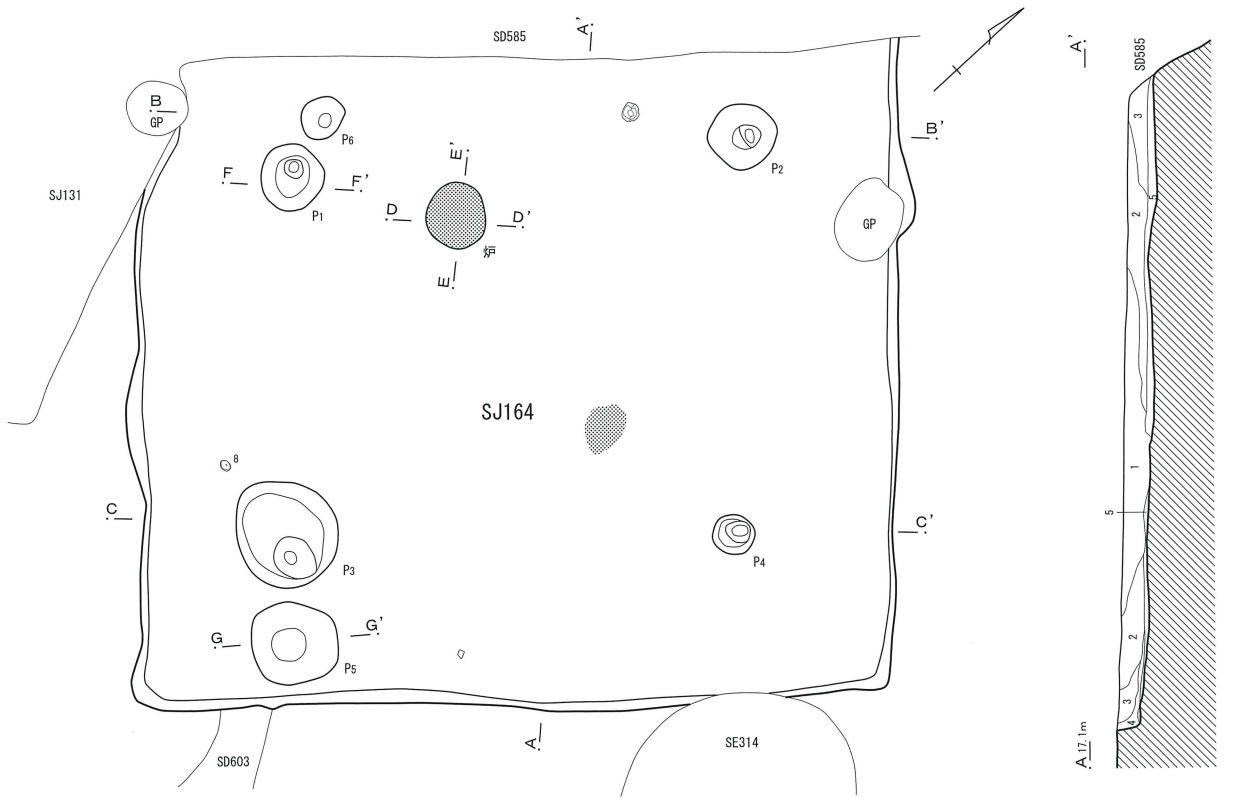
ピットは6基検出された。主柱穴はP1~4と考えられる。ピットの深さはP1から順に38cm、46cm、53cm、51cm、77cm、40cmである。

出土遺物は多いが、破片が多く接合率は低い。土師器壺・台付甕などある。

本住居跡の時期は下田町I期である。



第121図 第164号住居跡出土遺物



第164号住居跡

- | | | | | | |
|---|-------|---------|--|-------------------|-------------------|
| 1 | 灰黄褐色土 | 10YR4/2 | 黄褐色土粒子 (φ1~5mm) 少量 | しまりあり | 粘性ややあり |
| 2 | 黒褐色土 | 10YR3/2 | 黄褐色土ブロック (φ10~30mm)・黄褐色土粒子 (φ1~3mm) 少量 | | |
| | | | 炭化物粒子微量 | しまりあり | 粘性ややあり |
| 3 | 黒褐色土 | 10YR3/2 | 黄褐色土粒子 (φ1~5mm)・炭化物粒子少量 | しまりあり | 粘性ややあり |
| 4 | 黒褐色土 | 10YR3/1 | | しまりあり | 粘性ややあり |
| 5 | 灰黄褐色土 | 10YR4/2 | 黄褐色土ブロック (φ10~50mm) 多量 | 一部に細かい黄褐色土粒子を多く含む | しまり強い 粘性ややあり (貼床) |

ピット

- | | | | | | |
|---|-------|---------|---------------------------------------|-------|--------|
| 6 | 灰黄褐色土 | 10YR4/2 | ロームブロック (φ10~100mm)・ローム粒子 (φ1~5mm) 少量 | しまり | 粘性ややあり |
| 7 | 灰黄褐色土 | 10YR4/2 | ロームブロック (φ10~80mm)・ローム粒子 (φ1~5mm) 少量 | しまり | 粘性ややあり |
| 8 | 褐灰色土 | 10YR4/1 | ロームブロック (φ10~70mm) 少量 | しまり弱い | 粘性あり |
| 9 | 褐灰色土 | 10YR4/1 | | しまり弱い | 粘性強い |

炉

- | | | | | | |
|----|----|-------|---------------------|----------------|--|
| 10 | 灰層 | | 焼土ブロック (φ1~20mm) 多量 | 炭化物粒子含む | |
| 11 | 橙色 | 5Y6/6 | | 焼きしまっている (火床面) | |

第122図 第164号住居跡

第165号住居跡 (第123図)

J-38グリッドに位置する。第140号住居跡を切り、第583・599号溝跡に切られている。検出されたのは西コーナー部のみである。第583号溝跡の南側からは本住居跡の続きは検出されなかった。住居跡でない可能性もある。

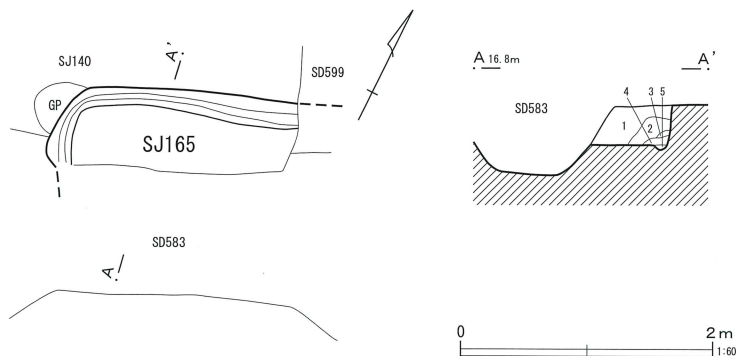
検出された範囲は東西2.0m、南北0.6mである。確認面から床面までの深さは30cmである。北壁を東

西の基準とした傾きはN-10°-Wである。

壁溝の掘り込みは弱く、幅15~23cm、深さ3~10cmである。

出土遺物は少量の破片で、土師器甕が含まれているが図示できなかった。

本住居跡の時期は絞り込めないが、少なくとも古墳時代後期と推定される。



第165号住居跡

1	黒色土	10YR2/1	地山ブロック少量 炭化物含む
2	黒褐色土	10YR3/1	地山ブロック (φ1~10mm) 少量 炭化物含む
3	オリーブ黒色土	5Y2/2	地山ブロック少量
4	オリーブ黒色土	5Y2/2	地山ブロック (φ1~10mm) ・炭化物含む
5	黒色土	5Y2/1	地山ブロック少量

第123図 第165号住居跡

第166号住居跡 (第124図)

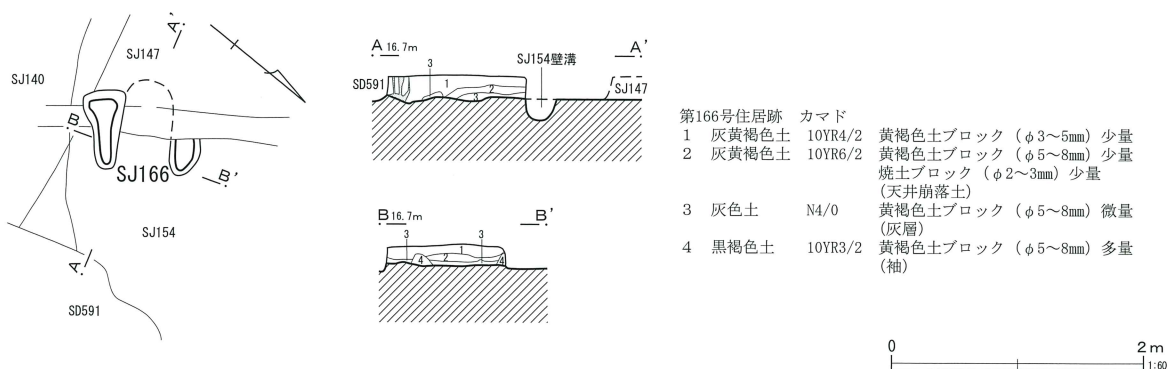
J-37グリッドに位置する。第140・147・153・154号住居跡と重複する。いずれの住居跡よりも新しいと考えられるが、第147・153号住居跡との埋土の区別がつかず、カマドのみの検出にとどまった。主軸方向はN-55°-Eである。

カマドは燃焼部が検出された。当初、切り合う住居跡とともに掘り下げてしまったため、全形は明らか

かにできなかった。燃焼部の幅は50cm、確認面からの深さは18cmである。袖は粘土を貼り付けて構築されている。

本住居跡に伴うと考えられる遺物は出土しなかった。第147号住居跡の出土遺物に混在している可能性もある。

本住居跡の時期は、切り合い関係から下田町IX期以降と考えられる。



第166号住居跡 カマド

1	灰黄褐色土	10YR4/2	黄褐色土ブロック (φ3~5mm) 少量
2	灰黄褐色土	10YR6/2	黄褐色土ブロック (φ5~8mm) 少量 焼土ブロック (φ2~3mm) 少量 (天井崩落土)
3	灰色土	N4/0	黄褐色土ブロック (φ5~8mm) 微量 (灰層)
4	黒褐色土	10YR3/2	黄褐色土ブロック (φ5~8mm) 多量 (袖)

第124図 第166号住居跡

第167号住居跡 (第126図)

H-35グリッドに位置する。第168・171・172・174号住居跡、第585号溝跡と重複する。住居跡の切り合い関係ではもっとも新しい。

北西壁の一部が検出され、北東壁の立ち上がりは土層断面で確認された。埋土は浅く、第585号溝跡の南側には検出されなかった。形状・規模ともに不明である。確認面から床面まで深さは10cmである。北西壁を東西基準とした傾きはN-48°-Wである。

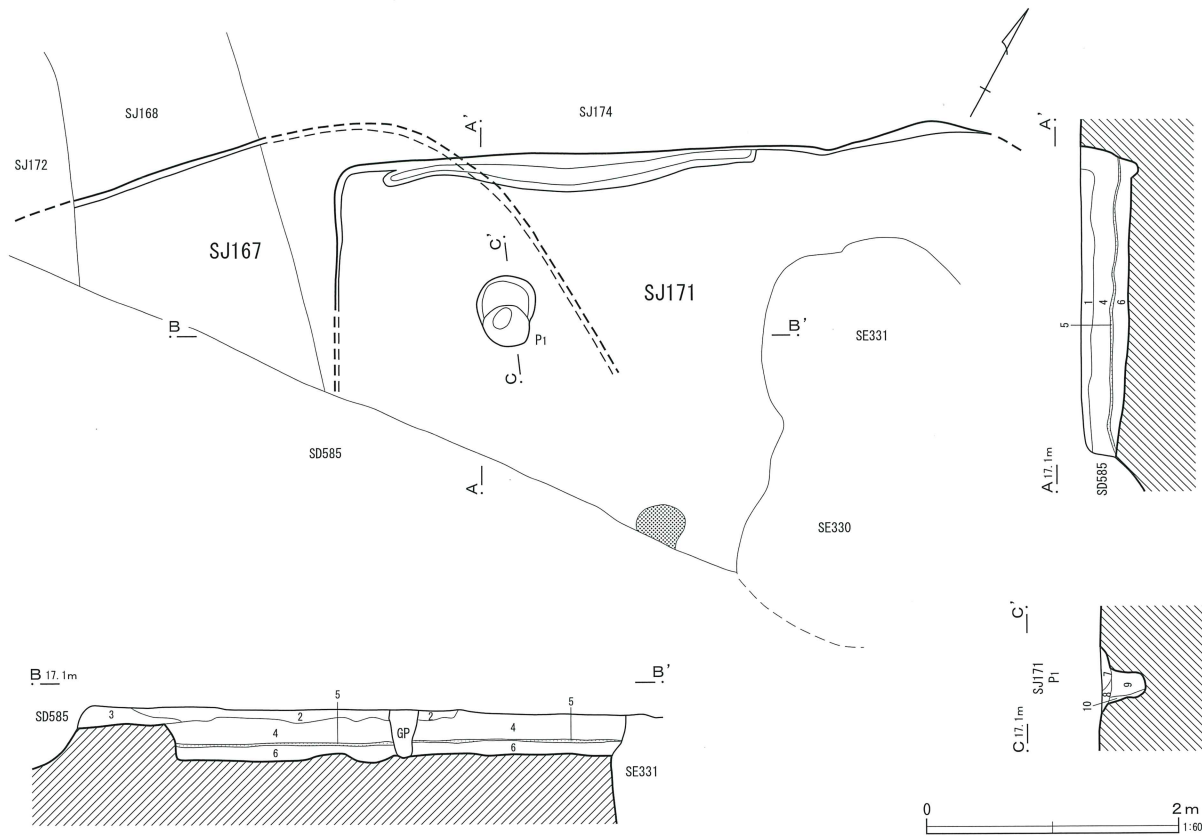
壁溝やピットなどの施設は検出されなかった。

出土遺物の量は少なく、土師器甕の破片などが含まれる。図示したのは須恵器甕口縁である。

本住居跡の時期は明確ではないが、下田町Ⅷ期と推定される。



第125図 第167号住居跡出土遺物



第167号住居跡

- 1 黒褐色土 7.5YR3/2 焼土粒子 (φ1~3mm) 少量 しまりあり 粘性弱い
- 2 黒褐色土 5YR2/1 地山ブロック多量 炭化物粒子含む
- 3 黒色土 10YR2/1 地山ブロック少量 焼土ブロック (φ1~5mm) 含む

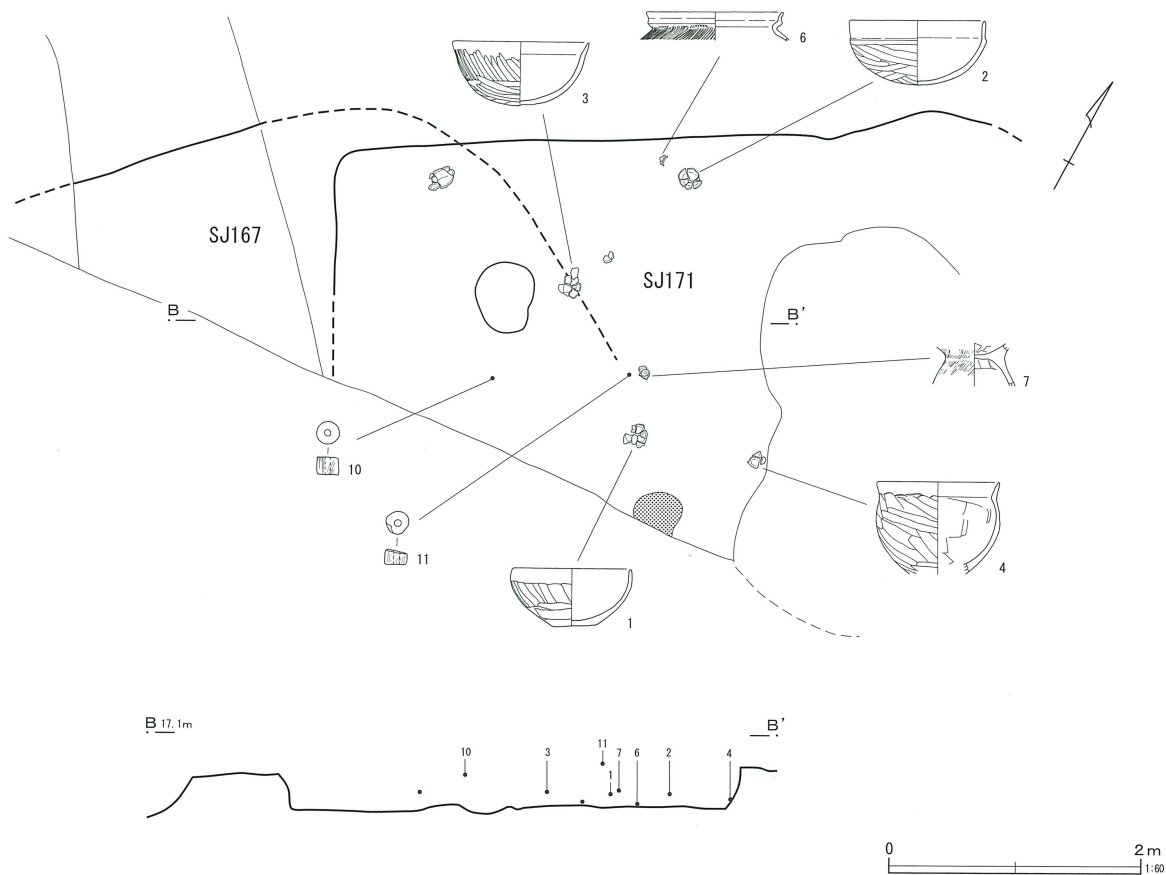
第171号住居跡

- 4 灰褐色土 7.5YR4/2 焼土粒子 (φ1~2mm) 少量 ロームブロック (φ10~20mm) 少量 しまりあり 粘性ややあり
- 5 黒褐色土 5YR2/1 粘性床面直上の炭化物層 しまり弱い 粘性ややあり
- 6 灰褐色土 7.5YR4/2 ロームブロック (φ10~40mm) 少量 しまりあり 粘性ややあり~あり (貼床)

ピット1

- 7 褐灰色土 10YR4/1 ロームブロック (φ10~30mm) 少量 しまりあり 粘性ややあり
- 8 褐灰色土 10YR4/1 ロームブロック (φ10~20mm) 少量 しまりあり 粘性あり
- 9 黒褐色土 10YR3/1 粘質土層 しまりややあり 粘性強い (柱痕)
- 10 黒褐色土 10YR3/1 ローム粒子少量 しまりややあり 粘性あり

第126図 第167・171号住居跡



第127図 第171号住居跡遺物出土状況

第168号住居跡 (第129図)

G・H-35グリッドに位置する。第167・172・174号住居跡、第585・603号溝跡と重複し、すべての遺構に切られていると考えられる。

大半が切り合う遺構によって失われ、検出されたのは北西壁と西コーナーで、東北-西南3.5m、南東-北西2.7mの範囲である。形状は隅丸方形を呈するものと推定される。埋土はほとんど分層されず、短期間の埋没状況を示している。確認面から床面までの深さは11cmである。北西壁を東西基準とした傾きはN-45°-Wである。

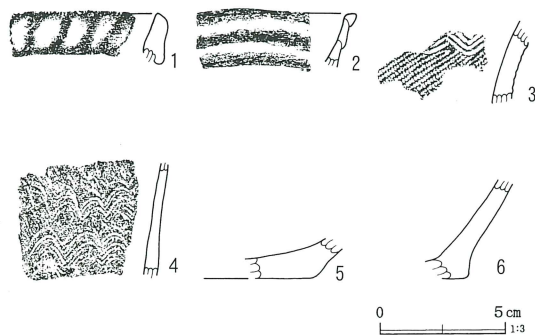
床面は明瞭で、貼床されている。床面直上には薄い炭化物層が堆積している。

炉は第172号住居跡の北コーナーに切られて検出された。床面わずかにくぼんで火床面となる。被熱範囲は推定で50×30cm、深さは1cmである。

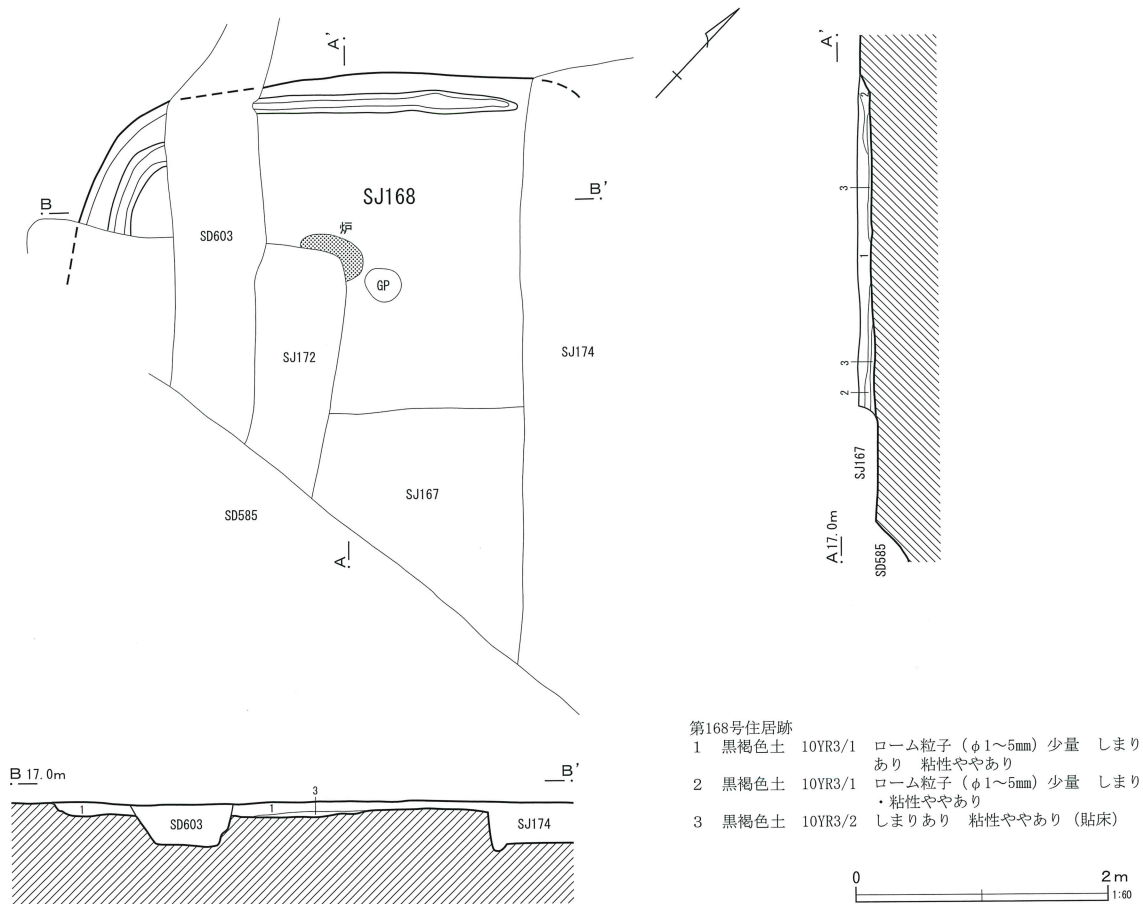
壁溝は壁の内側を巡っている。掘り込みは非常に浅く、幅10~18cm、深さ2~5cmである。ピットは検出されなかった。

出土遺物は少ない。時期的に混在するが、図示した破片類が本住居跡に伴うものと判断した。

本住居跡の年代は下田町I期と考えられる。



第128図 第168号住居跡出土遺物

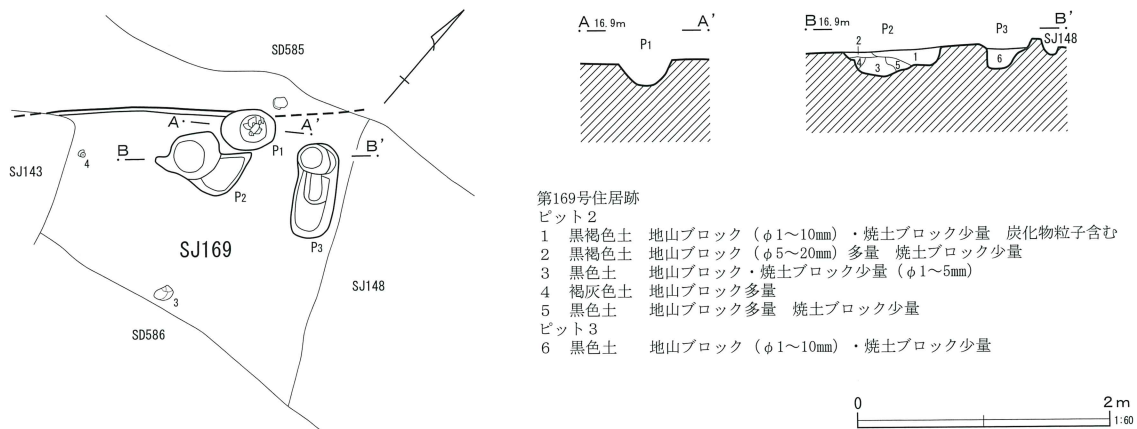


第129図 第168号住居跡

第169号住居跡 (第130図)

H・I-36グリッドに位置する。第143・148号住居跡、第585・586号溝跡と重複し、すべての遺構に切られている。壁の一部が検出されたに過ぎず、そ

の面積はたいへん狭い。検出されたのは東北-西南は2.5m、南東-北西は2.3mの範囲である。埋土もほとんど残っておらず、確認面から床面までの深さは4cmである。北西壁を東西の基準とした傾きはN



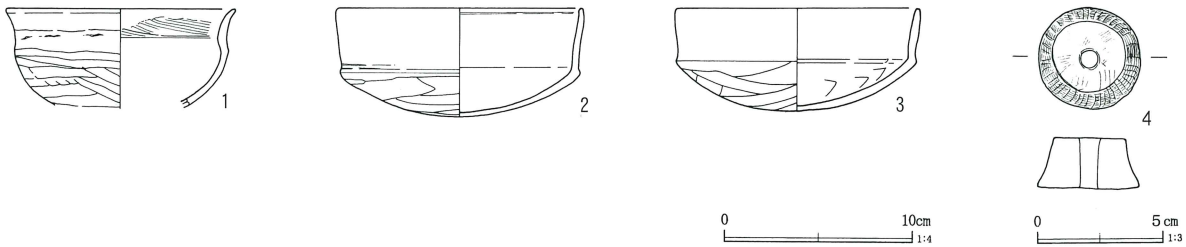
第130図 第169号住居跡

-40°-Wである。

ピットは3基検出された。ピットの深さはP1から順に19cm、20cm、17cmである。

出土遺物は少ない。埋土中から土師器坏や紡錘車などが出土している。

本住居跡の時期は下田町V期である。



第131図 第169号住居跡出土遺物

第170号住居跡 欠番

第171号住居跡 (第126・127図)

H-35グリッドに位置する。第167・174号住居跡、第585号溝跡、第330・331号井戸跡と重複する。住居跡の切り合い関係は、第167号住居跡よりも古く、第174号住居跡より新しい。

形状は方形で、規模は東西5.4m、南北は3.4mまで検出した。南半は第585溝跡に切られ、その南側からは検出されなかった。埋土は一層で、短期間に埋

没した状況を示している。確認面から床面までの深さは26cmである。主軸方向はN-35°-Wである。

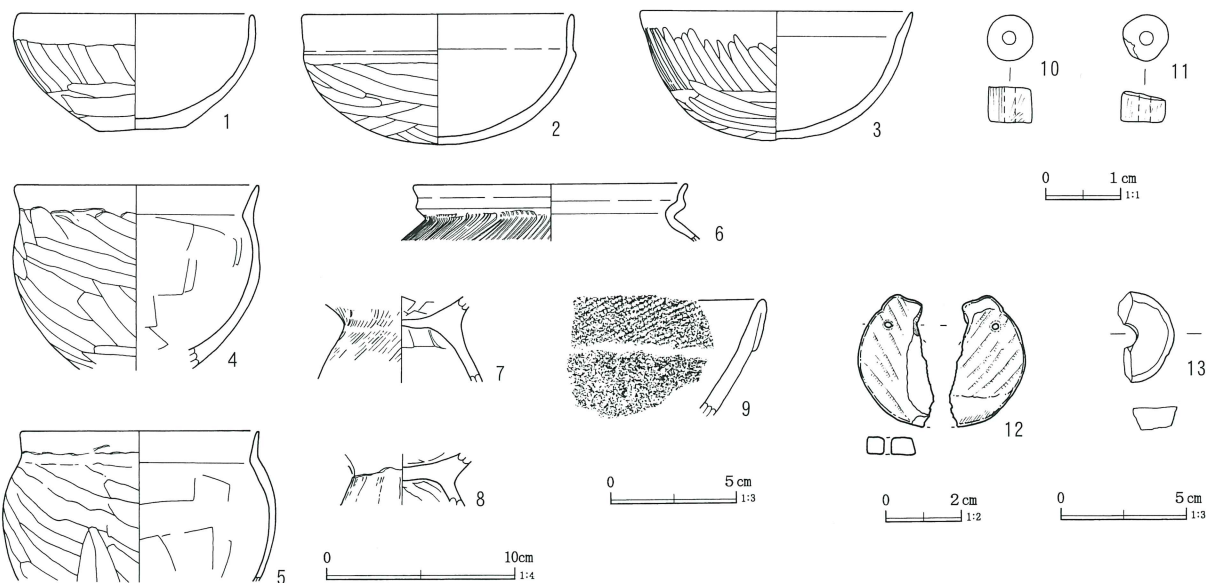
床面は7~8cmの厚さで貼床され、直上に薄い炭化物層が広く堆積している。

床面に径約40cmの範囲で被熱面が認められた。

壁溝は北壁にのみ検出され、幅12~30cm、深さは4~8cmである。

ピットは1基検出された。柱痕の存在から、柱穴と考えられる。深さは35cmである。

出土遺物は多い。埋土出土の土器には、土師器坏・



第132図 第171号住居跡出土遺物

塀・台付甕などがあるが、時期的に混在している。埋土上層から白玉が、壁溝内からS字状口縁台付甕の口縁部が出土した。

本住居跡の時期は下田町Ⅲ期と考えられる。

第172号住居跡（第133図）

G-35・36、H-35グリッドに位置する。第167・168号住居跡、第585・603号溝跡と重複する。切り合う住居跡の中ではもっとも新しい。

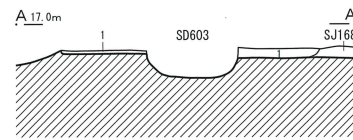
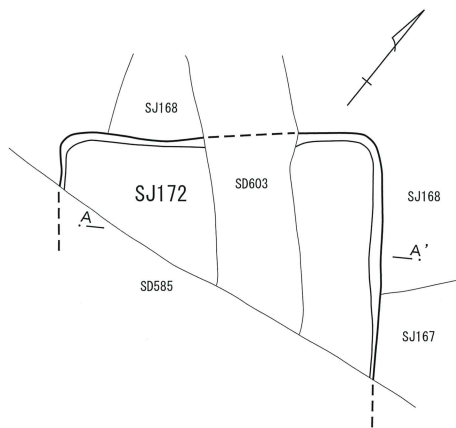
形状は方形を呈する。規模は東北-西南2.6m、南

半は第585号溝跡に切られ、南東-北西は1.9mまで検出された。小型の住居跡である。埋土の残りは薄く、確認面から床面までの深さは7cmである。北東壁を基準とした傾きはN-38°-Wである。

ピットなどの施設は検出されなかった。

出土遺物はごく少なく、土師器の破片が数点出土しているのみである。図示できる遺物はなかった。

本住居跡の時期は不明であるが、切り合い関係から下田町Ⅶ期以降と考えられる。



第172号住居跡
1 黒褐色土 10YR2/2 地山ブロック (φ1~25mm) 多量 焼土粒子・炭化物粒子微量

0 2m 1:60

第133図 第172号住居跡

第173号住居跡（第134図）

G・H-32グリッドに位置する。第206・220号住居跡、第2・585・602・612号溝跡、第604号土坑と重複する。住居跡の切り合い関係は第206・220号住居跡よりも新しい。

切り合う遺構に東西両側が失われ、カマドと南東壁が確認されたに過ぎない。形状は不明である。検出された範囲は東北-西南は5.0m、南東-北西5.7mである。埋土はほぼ一層で短期間に埋没したものと考えられる。確認面から床面までの深さは10~25cmである。主軸方向はN-60°-Wである。

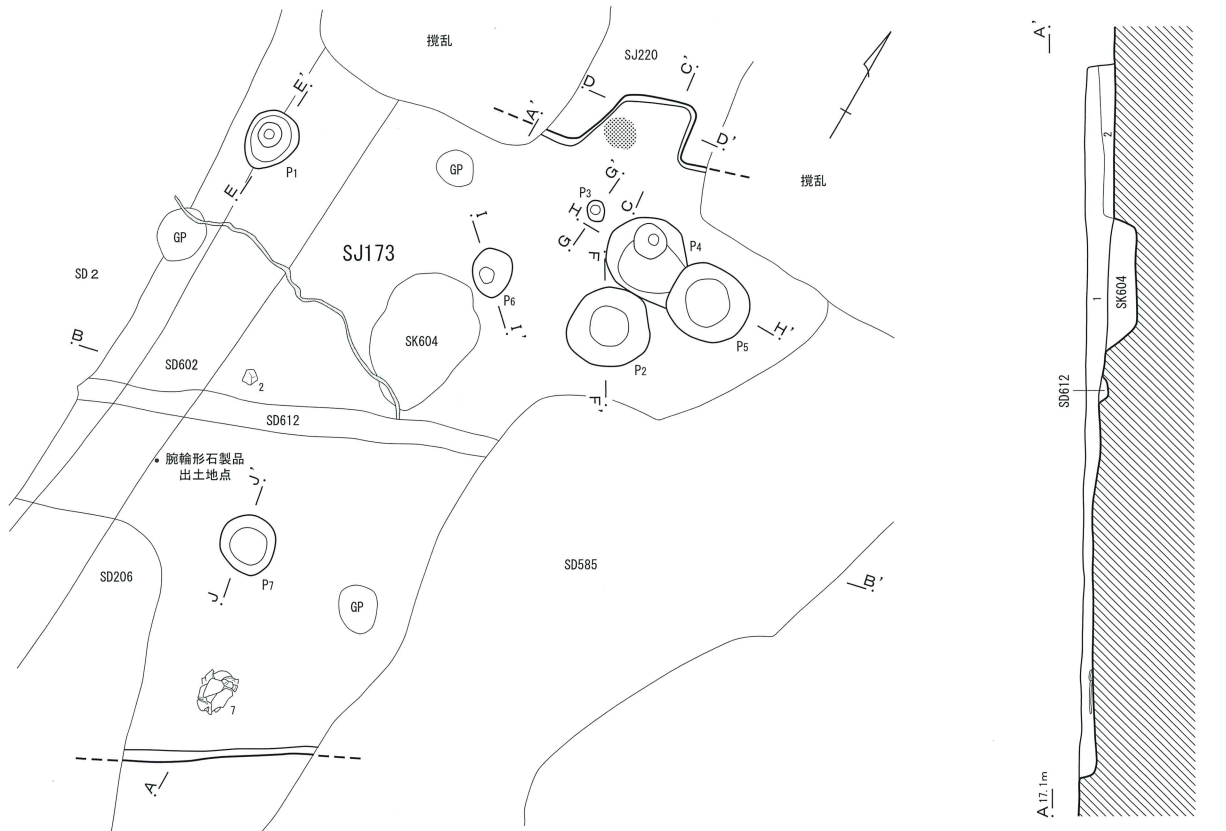
カマドは燃焼部のみで、煙道や袖は検出されなかった。形状は方形で、大きさは75×50cm、掘り込みはわずかにくぼむ程度である。西寄りに径20cmほ

どの被熱範囲が認められた。

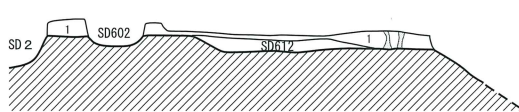
ピットは7基検出された。P2・4・5はその位置や掘り方から貯蔵穴の可能性がある。カマドの手前にある小ピット (P3) には、灰が浅く堆積していた。柱穴と判断できるピットは認められない。ピットの深さはP1から順に14cm、43cm、12cm、23cm、30cm、53cm、28cmである。

出土遺物はあまり多くはない。床面から土師器甕がつぶれた状態で出土した。このほかに土師器環・甕、土製勾玉、白玉などがある。なお、埋土上層から、腕輪形石製品の破片 (第505図3) が出土している。

本住居跡の時期は下田町Ⅷ期である。



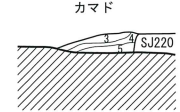
B 17.1m



SD585

B'

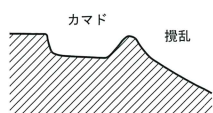
C 17.1m



カマド

C'

D 17.1m

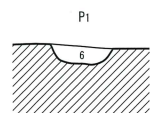


カマド

攪乱

D'

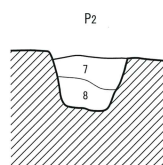
E 17.1m



P1

E'

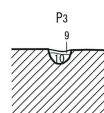
F 17.1m



P2

F'

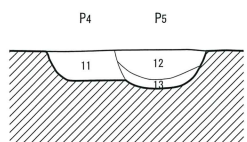
G 17.1m



P3

G'

H 17.1m

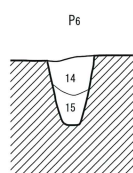


P4

P5

H'

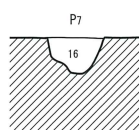
I 17.1m



P6

I'

J 17.1m



P7

J'

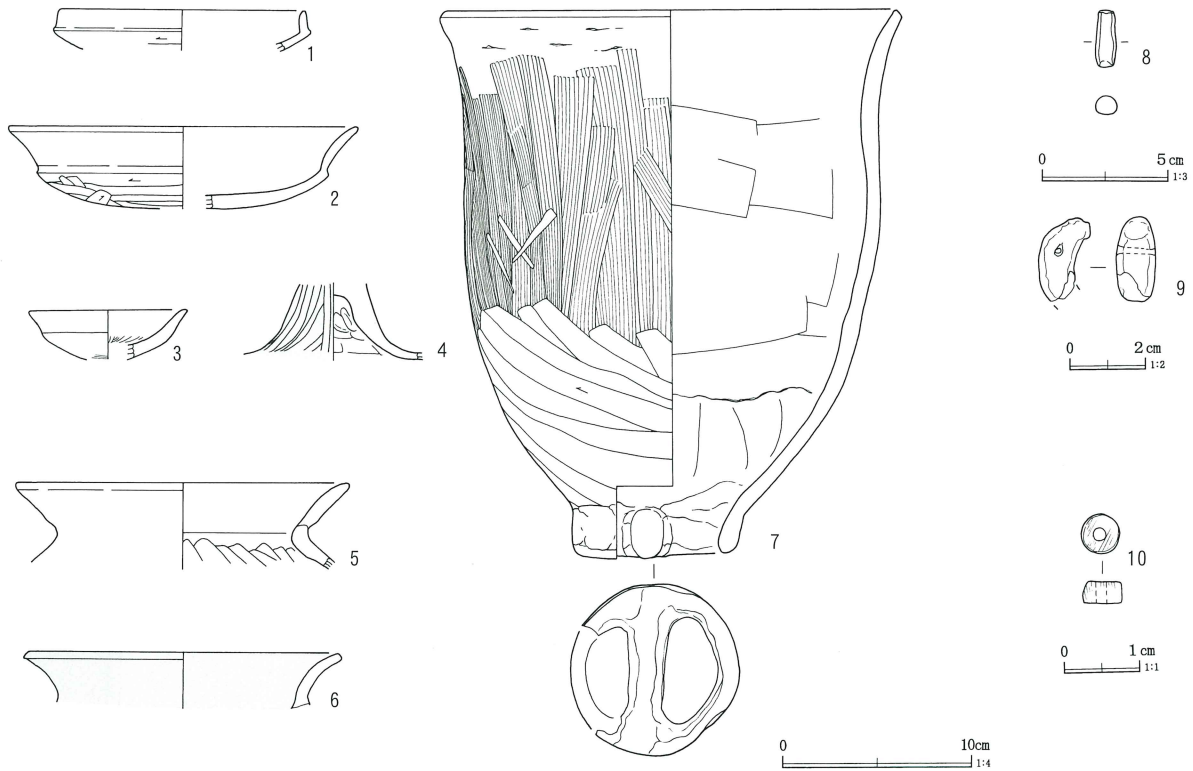


第173号住居跡

- 1 暗褐色土 10YR3/3 黄褐色土粒子 (φ1~2mm) ・ブロック (φ3~10mm) ・焼土粒子・炭化物粒子少量 (φ1~3mm) 少量
- 2 黒褐色土 10YR3/1 黄褐色土粒子 (φ1~2mm) ・ブロック (φ3~10mm) 多量
- 3 褐色土 10YR4/4 黄褐色土粒子 (φ1~2mm) ・焼土ブロック (φ3~5mm) 少量
- 4 暗褐色土 10YR3/3 焼土ブロック (φ3~10mm) 多量
- 5 灰色土 N4/0 灰を主体
- ビット1
- 6 黒褐色土 10YR3/1 黄褐色土粒子 (φ1~2mm) ・ブロック (φ3~5mm) 少量

- ビット2
- 7 黒褐色土 10YR3/2 黄褐色土粒子 (φ1~2mm) ・焼土ブロック (φ3~5mm) 少量
- 8 黒褐色土 10YR3/1 黄褐色土ブロック (φ3~5mm) 少量 焼土ブロック (φ2~3mm) 微量
- ビット3
- 9 灰色土 N4/0 灰を主体
- 10 黒褐色土 10YR3/2 黄褐色土ブロック (φ3~5mm) 少量
- ビット4・5
- 11 暗褐色土 10YR3/3 黄褐色土粒子 (φ1~2mm) ・ブロック (φ3~5mm) 多量 焼土ブロック (φ2~3mm) ・炭化物粒子 (φ1~2mm) 少量
- 12 黒褐色土 10YR3/2 黄褐色土粒子 (φ1~2mm) ・ブロック (φ3~10mm) 多量
- 13 黒色土 10YR2/1 黄褐色土ブロック (φ3~5mm) 少量
- ビット6
- 14 黒褐色土 10YR3/2 黄褐色土粒子 (φ1~2mm) 少量 焼土・炭化物粒子 (φ1~3mm) 微量
- 15 黒色粘質土 2.5Y2/1 黄褐色土ブロック (φ3~5mm) 少量
- ビット7
- 16 黒褐色土 10YR3/2 黄褐色土ブロック (φ3~10mm) 多量 焼土ブロック (φ2~3mm) 少量

第134図 第173号住居跡



第135図 第173号住居跡出土遺物

第174号住居跡（第136図）

H-35グリッドに位置する。第167・168・171・192・200・202・237号住居跡、第585号溝跡、第311・313・314・331号井戸跡と重複する。住居跡の切り合い関係は、第167・171・200号住居跡よりも古く、第168・202・237号住居跡より新しい。第192号住居跡との切り合い関係は把握できなかった。

形状は方形で、規模は東北-西南6.2m、南東-北西に6.1mまで検出された。埋土の状況は自然堆積を示している。確認面から床面までの深さは32cmである。西南壁を基準とした傾きはN-43°-Wである。

床面は締まっているが、貼床は認められない。

炉は北東壁寄りに検出され、第171号住居跡に切られている。掘り込みはなく、床面が火床面である。被熱範囲は60×40cmである。

壁溝は北東壁を除いて検出された。幅7cm、掘り

込みはわずかで、深さ2～5cmである。

ピットは4基検出された。P1・2は支柱穴の位置にあるが、浅く、柱痕はない。ピットの深さはP1から順に22cm、10cm、25cm、31cmである。

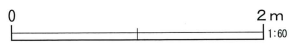
出土遺物は多く、住居跡の中央部からまとめて出土した。そのほとんどが埋土中からの出土である。土師器器台・台付甕、土製勾玉などがある。

本住居跡の時期は下田町II期である。

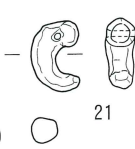
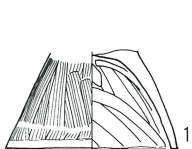
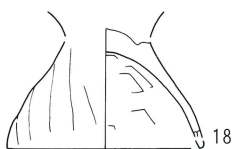
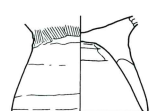
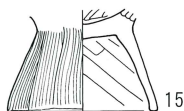
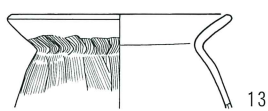
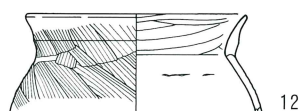
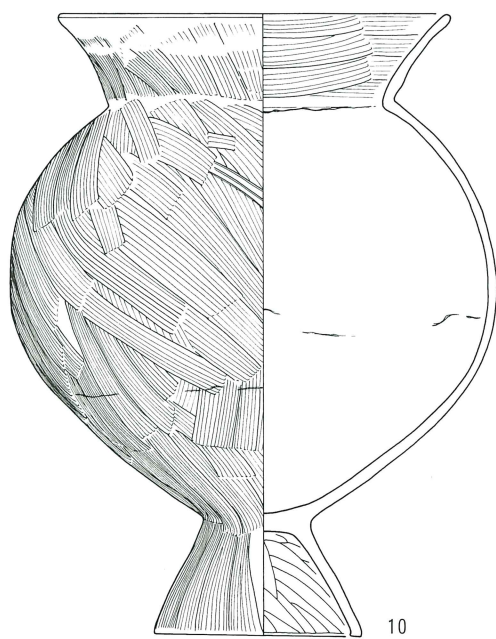
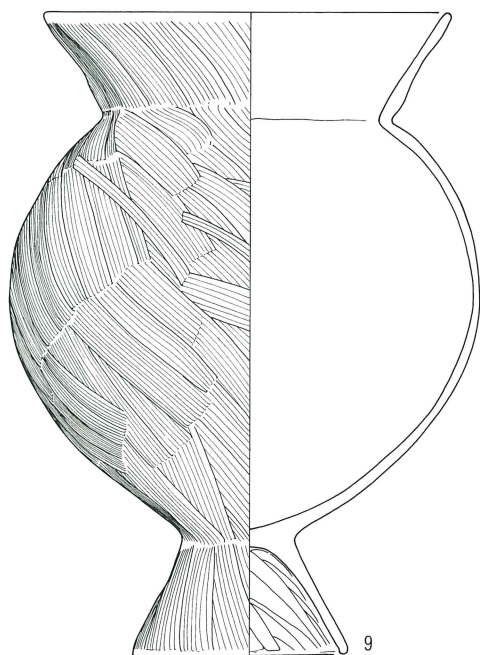
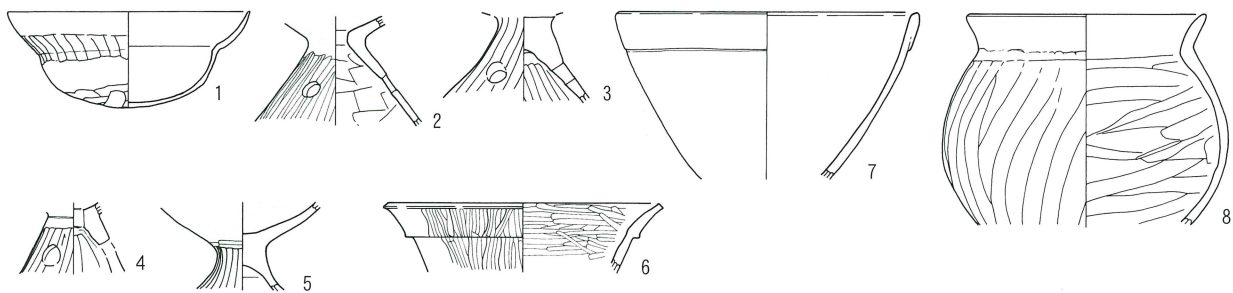


第174号住居跡

- | | | | | |
|-----------|----------|--|------------|----------|
| 1 灰黄褐色土 | 10YR4/2 | ローム粒子 (φ1~3mm) 少量 | しまりややあり | 粘性あり |
| 2 灰黄褐色土 | 10YR4/2 | ロームブロック (φ10~100mm) 少量 | しまりややあり | 粘性あり |
| 3 灰黄褐色土 | 10YR4/2 | ローム粒子 (φ1~2mm) 少量 | しまりややあり | 粘性あり |
| 4 黒褐色土 | 7.5YR3/1 | 焼土粒子 (φ1~2mm) ・炭化物粒子少量 | しまりあり | 粘性弱い |
| 5 にぶい黄褐色土 | 10YR4/3 | 焼土粒子 (φ1~3mm) ・炭化物粒子・ロームブロック (φ10~30mm) 少量 | しまりあり | 粘性ややあり |
| 6 黒褐色土 | 10YR3/2 | 炭化物粒子 (φ1~3mm) 微量 | 全体に混入物が少ない | しまり・粘性あり |
| ピット1~4 | | | | |
| 7 褐灰色土 | 10YR4/1 | | しまり・粘性弱い | |
| 8 灰黄褐色土 | 10YR4/2 | ローム粒子 (φ1~3mm) 少量 | しまり・粘性ややあり | |
| 9 灰黄褐色土 | 10YR4/2 | ローム粒子 (φ1~3mm) 少量 | しまりややあり | 粘性あり |
| 10 灰黄褐色土 | 10YR4/2 | ロームブロック (φ10~30mm) 少量 | しまりあり | 粘性ややあり |



第136図 第174号住居跡



第137图 第174号住居跡出土遺物

第175号住居跡 (第138・140図)

G-34・35グリッドに位置する。第176・177・178号住居跡、第2・585号溝跡と重複する。住居跡の切り合い関係は、第176・177号住居跡より新しい。他の住居跡との切り合いは不明だが、本住居跡のほうが新しいと考えられる。北西側の大半を第2号溝跡によって切られている。

形状はほぼ正方形を呈する。規模は東西5.0m、南北5.0mである。埋土のうち、1層は遺構確認面上に広く堆積している土壌であり、確認面から床面までの深さは25cmである。2層下面には薄い炭化物層が堆積している。東壁を基準とした傾きはN-2°-Wである。

壁溝は東壁を除いてほぼ検出された。掘り込みは明瞭で、幅10~22cm、深さ8~12cmである。

ピットは5基検出された。うち3基は南西コーナーに集中している。P5からは多くの遺物が出土しており、貯蔵穴の可能性がある。ピットの深さはP1から順に68cm、17cm、26cm、68cm、22cmである。

本住居跡からは大量の遺物が出土している。接合率は高く残りは良好である。須恵器高坏、土師器坏・坑・高坏・甕・甑など、種類も豊富である。土器以外では石製玉類・有孔円板が出土している。

本住居跡の時期は下田町V期である。

第176号住居跡 (第138図)

G-34グリッドに位置する。第175・178・182号住居跡、第2・602号溝跡と重複する。住居跡の切り合い関係は、第175号住居跡よりも古い。第178・182号住居跡との関係は把握できなかった。中央を第2号溝跡に切られる。

形状は隅丸方形で、規模は東西4.0m、南北は2.4mまで検出された。確認面から床面までの深さは26cmである。東西壁を基準とした傾きはN-14°-Wである。

壁溝は検出された壁すべてに巡っている。掘り込みは浅く、幅10~15cm、深さ3~5cmである。壁溝

以外の施設は検出されなかった。

出土遺物は少なく、破片のみである。

本住居跡の時期は下田町II期である。

第177号住居跡 (第138・139図)

F・G-34・35グリッドに位置する。第175・179号住居跡、第2・585号溝跡、第334号井戸跡と重複する。住居跡の切り合い関係は、第175号住居跡よりも古く、第179号住居跡よりも新しい。

形状は方形と推定される。北側は第175号住居跡と第2号溝跡に切られており、一部調査区域外にかかるものと思われる。検出された範囲は東西5.3m、南北3.7mである。確認面から床面までの深さは25cmである。南壁を東西基準とした傾きはN-23°-Wである。

ピットは3基検出された。P1には柱痕がみられ、柱穴と考えられる。ピットの深さはP1から順に41cm、28cm、31cmである。

遺物は埋土上層やP2内から出土している。土師器高坏・甕などがある。

本住居跡の時期は下田町IV期である。

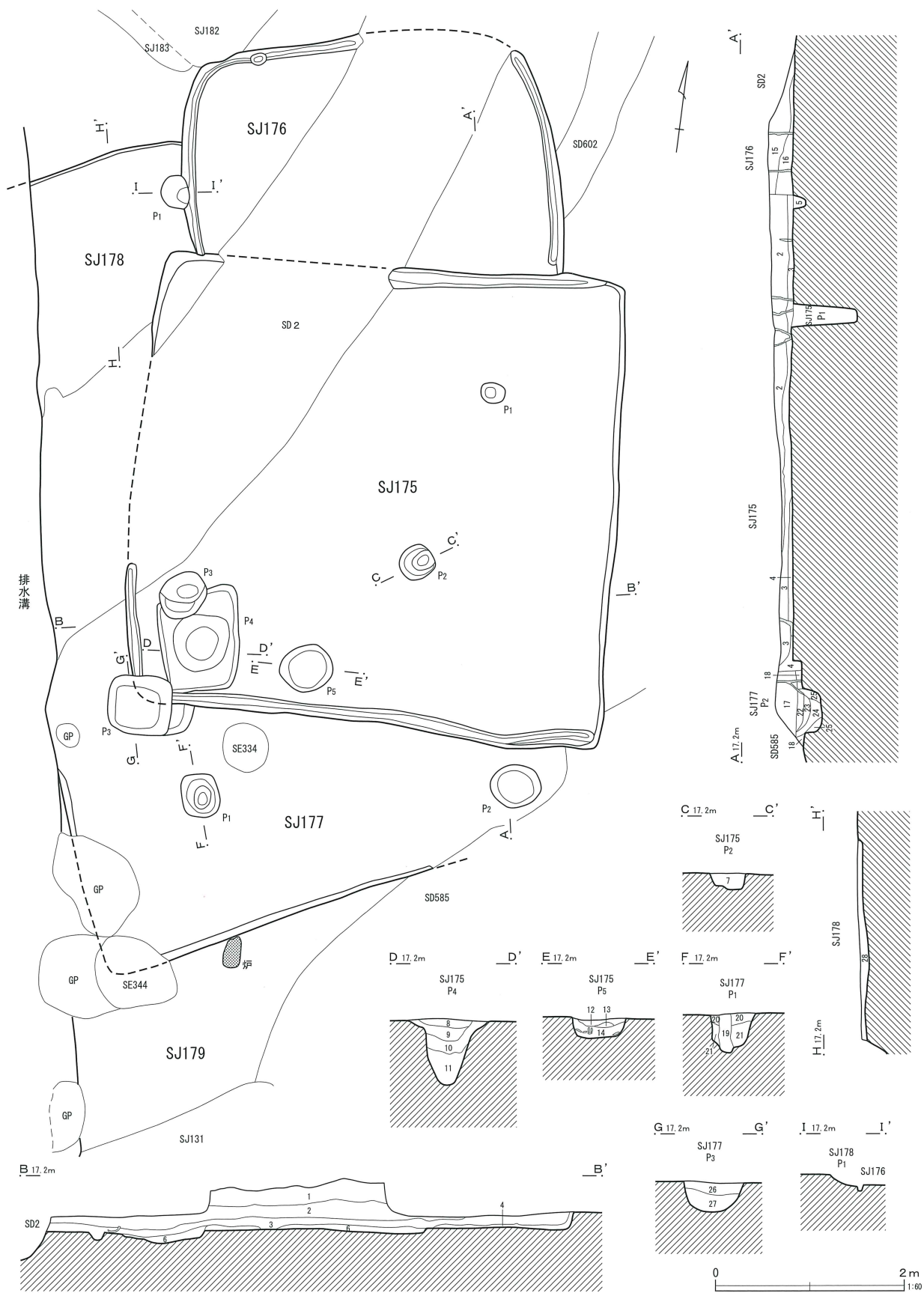
第178号住居跡 (第138図)

F・G-34グリッドに位置する。第175・176号住居跡、第2号溝跡と重複する。埋土の残りが浅く、住居跡の切り合い関係を把握することができなかった。

第2号溝跡によって大きく削られており、検出されたのは北壁のみである。西側は調査区域外にかかる。検出された範囲は東西1.7m、南北2.2mである。埋土は浅く、確認面から床面までの深さは9cmである。北壁を東西基準とした傾きはN-24°-Wである。

ピットは第176号住居跡との境から1基検出された。深さは13cmである。このほかの施設は検出されなかった。

出土遺物は大変少ない。土師器や縄文施文の小片



第138图 第175~179号住居跡